

小屋原遺跡 I

令和6年3月

宇都宮市教育委員会

序

小屋原遺跡は、宇都宮市の東側を流れる鬼怒川の支流である江川沿いの台地上に所在する遺跡で、人の住みやすい立地であることから、周辺には大関台遺跡や瑞穂野団地遺跡など古代の集落遺跡が数多く確認されています。

本遺跡が所在する地域は、応永18（1411）年11月8日の宇都宮持綱寄進状に「西刑部郷」と記載されている場所に当たることから、平安時代に書かれた『倭名類聚抄』に出てくる「刑部郷」の可能性が指摘されていますが、今回の調査で出土した墨書土器の中に「財部」の文字が書かれたものが複数見つкаっていることから、「財部郷」の可能性も考えられ、本市の古代の村を研究していく上で重要な遺跡です。

このような貴重な資料をまとめた本報告書が、本県の古代の歴史を解明するとともに、地域史を紐解く上での参考となれば幸いです。

最後になりましたが、本調査及び報告書の作成にあたり、ご尽力を賜りました、栃木県教育委員会及び埋蔵文化財センター並びに関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和6年3月31日

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀茂雄

例 言

- 1 本報告書は、栃木県宇都宮市西刑部町2180他に所在する小屋原遺跡の発掘調査報告書である。本遺跡は国道121号線（瑞穂野バイパス）建設に伴う大関台遺跡（平成13年3月栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団）を挟んで南地区と北地区に分かれるが、本書はこのうちの南地区について報告するものである。
- 2 本調査は、宇都宮市道4114号線（宇都宮市総合運動公園導入路）整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査として実施したものである。
- 3 調査は平成10年7月から平成12年3月まで2次に渡って実施し、調査総面積は25,000㎡である。なお各次の調査期間及び調査面積は以下のとおりである。

調査次	対象地区	調査期間	調査面積
第1次調査	道路本体部	平成10年7月31日～平成11年3月31日	5,500㎡
第2次調査	進入道路北部	平成11年4月1日～平成12年3月31日	19,500㎡

- 4 発掘調査における測量及び写真撮影等は、京極隆利がこれにあたった。また報告書作成に伴う遺構・遺物の整理及び写真撮影等は、永岡亜紀・森千鶴子の協力を得て、田續麻友子・梁木誠がこれにあたった。
- 5 本書の編集・執筆は、星野治彦との協議を踏まえ、梁木と田續がこれにあたった。
- 6 本遺跡出土の遺物及び図面・写真等の記録類は、宇都宮市教育委員会で保管している。
- 7 発掘調査の関係者は次のとおりである。

〔指導助言〕

宇都宮市文化財保護審議委員会委員	塙 静夫
〃	大金宣亮
〃	橋本澄朗

〔事務局〕

〈発掘調査時〉

教育長	伊藤文雄
教育次長	須田彰市
文化課長	桜井敬朔
文化課長補佐	西田秀雄
文化財保護係長	手塚英男
文化財保護係	梁木 誠・小松俊雄・大塚雅之・栗原武夫・富川 努・神野安伸 増山孝之・今平利幸・京極隆利・清水正幸・高野欽哉・吉澤宣行

〈報告書作成時〉

教育長	小堀茂雄
教育次長	菊池康夫
文化課副参事	今平利幸
文化課長	吉澤正浩

文化財保護グループ係長 近藤 真
文化財保護グループ 水沼祐貴・星野治彦・中野貴之・小曾戸祥彦・松本尚樹・土田創太
青砥 匠・中村 雅・高栖良子・梁木 誠(会職)・田續麻友子(会職)
永岡亜紀(会職)・森千鶴子(会職)

〔発掘調査補助員〕

阿久津キヨ 朝日義雄 荒井シゲ 石川泰子 稲尾茂 入江晴江 印出井和江 上野武留
宇賀神昇 大島栄子 大登綾 大沼康雄 岡田健男 笠井悦子 菊池貞夫 菊池幸子
菊池久男 栗原久美 坂村親彦 坂寄修二 佐々木睦弥 佐藤博 篠崎安子 篠崎善記
鈴木智子 関口典子 高橋節子 滝上二郎 田崎幸子 田崎望 田崎八重子 玉木里子
富田定治 富田宗郷 野口栄子 樋山ナミ子 平出宣幸 福田昭三 三村貞夫 矢古宇治雄
山田佐久二 山本令子 山室勝嗣 吉沢蔵子 吉田ヒサ子 吉原啓夫 渡辺邦四郎

- 8 発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会の指導を受けるとともに、次の諸機関及び諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。(敬称略、順不同) 栃木県立博物館、栃木県埋蔵文化財センター

凡 例

- 1 押図の縮尺は、原則として竪穴住居跡を1/60、遺物は土器を1/4、その他を1/3で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の番号と一致する。
- 2 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
- 3 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ローム粒：LR、ロームブロック：LB、焼土粒：SY、焼土ブロック：SYB、鹿沼バミス：KP、今市バミス：IP、七本桜バミス：SP、炭化物：C、炭化物粒：CR、カクラン：K
- 4 遺構においては次の略号を使用した。
竪穴住居跡：SI、掘立柱建物跡：SB、井戸：SE、溝状遺構：SD、土坑：SK

目 次

・序

・例言、凡例

I はじめに

1 調査の経過	1
2 遺跡の環境	3

II 遺構と遺物（南地区）

1 竪穴住居跡	7
2 掘立柱建物跡	21
3 井戸跡	24
4 土坑	26
5 溝状遺構	27
6 道路状遺構	32

・写真図版

・報告書抄録

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1	第17図 SI10	46
第2図 調査地区図	2	第18図 SI12	46
第3図 周辺の遺跡分布図	4	第19図 SI11・13 (1)	47
第4図 遺構配置図（南地区）	33・34	第20図 SI11・13 (2)	48
第5図 SI01	35	第21図 SI26 (1)	49
第6図 SI02 (1)	36	第22図 SI26 (2)	50
第7図 SI02 (2)	37	第23図 SI27	50
第8図 SI03 (1)	38	第24図 SI28	51
第9図 SI03 (2)	39	第25図 SI29・43・SD12 (1)	52・53
第10図 SI04・05 (1)	40	第26図 SI29・43・SD12 (2)	54
第11図 SI04・05 (2)	41	第27図 SI41・42 (1)	55
第12図 SI06・07 (1)	42	第28図 SI41・42 (2)	56
第13図 SI08	43	第29図 SI41・42 (3)	57
第14図 SI09・19 (1)	44	第30図 SI44	57
第15図 SI09・19 (2)	45	第31図 SI45	58
第16図 SI06・07 (2)	46	第32図 SI46	58

第33图	SI47	59	第70图	SE08	81
第34图	SI48	59	第71图	SE11	81
第35图	SI49 · SE09	60	第72图	SK335	81
第36图	SI50	61	第73图	SD01	82
第37图	SI51	61	第74图	SD02	82
第38图	SI52	62	第75图	SD03	83
第39图	SI57	62	第76图	SD12 · 15 · 16 · 19 · 20 · 21	84
第40图	SI53	63	第77图	SD12 · 14	85
第41图	SI56	64	第78图	SD13	85
第42图	SI58	65	第79图	SD14 · 22	85
第43图	SI76 · SD12 · 44 · 50 (1)	66	第80图	SD17 · 18	86
第44图	SI76 · SD12 · 44 · 50 (2)	67	第81图	SD22	86
第45图	SI77 · SB31 · SD45	68	第82图	SD26 · 27	87
第46图	SI64	69	第83图	SD28	87
第47图	SI78 · SK336	69	第84图	SD39	87
第48图	SI79 · SD51 · SK337	70	第85图	SD29	88
第49图	SI80 · SB34	71	第86图	SD15 · 16 · 26 · 30 ~ 35 · 37 · 38	89
第50图	SB04	72	第87图	SD45 · 50	90
第51图	SB07 · 08	72	第88图	SD46 · 47 · 49	91
第52图	SB09	73	第89图	SD48	91
第53图	SB10	73	第90图	SI01出土土器	92
第54图	SB11	73	第91图	SI02出土土器	93
第55图	SB12	74	第92图	SI04出土土器	93
第56图	SB13	74	第93图	SI03出土土器 (1)	93
第57图	SB16	74	第94图	SI03出土土器 (2)	94
第58图	SB15 · 17 · SE10	75	第95图	SI03出土土器 (3)	95
第59图	SB31	76	第96图	SI05出土土器	95
第60图	SB32	77	第97图	SI07出土土器	95
第61图	SB34	77	第98图	SI06出土土器	96
第62图	SB33 · SE17 · 18	78	第99图	SI08出土土器	97
第63图	SE01	79	第100图	SI09出土土器	97
第64图	SE02	79	第101图	SI13出土土器	97
第65图	SE03	79	第102图	SI14出土土器	97
第66图	SE04	80	第103图	SI19出土土器	97
第67图	SE05	80	第104图	SI11出土土器	98
第68图	SE06	80	第105图	SI26出土土器	98
第69图	SE07	80	第106图	SI27出土土器	99

第107図	SI28出土土器	99	第122図	SI58出土土器	105
第108図	SI29出土土器	99	第123図	SI64出土土器	106
第109図	SI41出土土器	100	第124図	SI76出土土器	106
第110図	SI42出土土器	101	第125図	SI77出土土器	106
第111図	SI44出土土器	102	第126図	SI78出土土器	106
第112図	SI45出土土器	102	第127図	SI79出土土器	107
第113図	SI46出土土器	102	第128図	SI80出土土器 (1)	107
第114図	SI48出土土器 (1)	103	第129図	SI80出土土器 (2)	108
第115図	SI48出土土器 (2)	104	第130図	掘立柱建物跡出土土器	108
第116図	SI47出土土器	104	第131図	井戸跡出土土器	108
第117図	SI49出土土器	104	第132図	溝状遺構・土坑出土土器	109
第118図	SI51出土土器	104	第133図	道路状遺構出土土器	110
第119図	SI52出土土器	104	第134図	紡錘車・玉製品等	111
第120図	SI56出土土器	105	第135図	鉄製品 (1)	111
第121図	SI57出土土器	105	第136図	鉄製品 (2)	112

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧	5	第19表	SI41出土土器観察表	117
第2表	SI01出土土器観察表	113	第20表	SI42出土土器観察表	117
第3表	SI02出土土器観察表	113	第21表	SI44出土土器観察表	118
第4表	SI03出土土器観察表	113	第22表	SI45出土土器観察表	118
第5表	SI04出土土器観察表	114	第23表	SI46出土土器観察表	118
第6表	SI05出土土器観察表	114	第24表	SI47出土土器観察表	119
第7表	SI06出土土器観察表	114	第25表	SI48出土土器観察表	119
第8表	SI07出土土器観察表	115	第26表	SI49出土土器観察表	119
第9表	SI08出土土器観察表	115	第27表	SI51出土土器観察表	119
第10表	SI09出土土器観察表	115	第28表	SI52出土土器観察表	119
第11表	SI11出土土器観察表	115	第29表	SI56出土土器観察表	120
第12表	SI13出土土器観察表	115	第30表	SI57出土土器観察表	120
第13表	SI14出土土器観察表	116	第31表	SI58出土土器観察表	120
第14表	SI19出土土器観察表	116	第32表	SI64出土土器観察表	120
第15表	SI26出土土器観察表	116	第33表	SI76出土土器観察表	120
第16表	SI27出土土器観察表	116	第34表	SI77出土土器観察表	121
第17表	SI28出土土器観察表	116	第35表	SI78出土土器観察表	121
第18表	SI29出土土器観察表	116	第36表	SI79出土土器観察表	121

第37表	SI80出土土器観察表	121	第48表	SD15・16出土土器観察表	123
第38表	SB15出土土器観察表	122	第49表	SD26出土土器観察表	123
第39表	SB31出土土器観察表	122	第50表	SD33出土土器観察表	123
第40表	SB34出土土器観察表	122	第51表	SD34出土土器観察表	123
第41表	SE02出土土器観察表	122	第52表	SD35出土土器観察表	123
第42表	SE03出土土器観察表	122	第53表	SD39出土土器観察表	123
第43表	SE05出土土器観察表	122	第54表	SK135出土土器観察表	124
第44表	SE17出土土器観察表	122	第55表	道路状遺構出土土器観察表	124
第45表	SD03出土土器観察表	122	第56表	紡錘車・玉製品等観察表	125
第46表	SD04出土土器観察表	122	第57表	鉄製品観察表	125
第47表	SD12出土土器観察表	123			

図版目次

PL1	遺跡周辺航空写真	SI41・42完掘状況、SI41遺物出土状況 (カマド付近)、SI41遺物出土状況 (須 恵器蓋他)、SI42土層・遺物出土状況、 SI42完掘状況
PL2	遺跡遠景 (西上空から)、遺跡遠景 (南 東上空から)	PL8 SI43遺物出土状況、SI43完掘状況、 SI44土層断面、SI44完掘状況、SI45 土層断面、SI45完掘状況、SI46遺物出 土状況、SI46完掘状況
PL3	SI01遺物出土状況、SI01遺物出土状況 (北西コーナー付近)、SI02土層断面、 SI02完掘状況、SI03完掘状況、SI03カ マド、SI04・05確認状況、SI04土層断 面	PL9 SI47土層断面、SI47完掘状況、SI48 遺物出土状況、SI48遺物出土状況 (カ マド周辺)、SI48完掘状況、SI48カマド、 SI49遺物出土状況、SI49完掘状況
PL4	SI04完掘状況、SI05完掘状況、SI19 完掘状況、SI06遺物出土状況、SI06完 掘状況、SI07土層断面、SI07完掘状況、 SI08土層断面、SI08完掘状況	PL10 SI50完掘状況、SI52完掘状況、SI51 遺物出土状況、SI51完掘状況、SI53完 掘状況、SI57遺物出土状況、SI56遺物 出土状況、SI56完掘状況
PL5	SI09・19土層断面、SI09完掘状況、 SI10完掘状況、SI12完掘状況、SI11 土層断面、SI11遺物出土状況、SI13土 層断面、SI13完掘状況	PL11 SI58遺物出土状況、SI58完掘状況、 SI76遺物出土状況、SI76カマド、SI77 遺物出土状況、SI77完掘状況、SI78土 層断面、SI78完掘状況
PL6	SI19完掘状況、SI19カマド、SI26完掘 状況、SI26カマド、SI27遺物出土状況、 SI27完掘状況、SI28土層断面、SI28 遺物出土状況	PL12 SI79遺物出土状況、SI79完掘状況、 SI80完掘状況、SI80カマド、SB09完掘
PL7	SI29遺物出土状況、SI29遺物出土状況 (クルル鉤)、SI41・42遺物出土状況、	

- 状況、SB11完掘状況、SB15完掘状況、
SB15東側柱断面
- PL13 SB32完掘状況、SB33完掘状況、SD03
調査風景、SD03土層断面、SD03完掘
状況、SD03全景、SD12土層断面、SD12
全景
- PL14 SD15・16土層断面、SD15土層断面、
SD15・16遺物出土状況、SD15・16全
景、SD17遺物出土状況、SD17・18全景、
SE02土層断面、SE02完掘状況
- PL15 SE03遺物出土状況、SE03完掘状況、
SE07完掘状況、SE08完掘状況、SE09
土層断面、SE09完掘状況、SE17・18
完掘状況、SK135土層断面
- PL16 SI01出土土器、SI02出土土器、SI03出
土土器
- PL17 SI06出土土器、SI29出土土器、SI41出
土土器、SI42出土土器、SI46出土土器
- PL18 SI48出土土器、SI56出土土器、SI58出
土土器、SI76出土土器、SI77出土土器
- PL19 SI79出土土器、SI80出土土器、井戸跡
出土土器、溝状遺構出土土器、土坑出
土土器、道路状遺構出土土器
- PL20 墨書（朱書）土器、紡錘車・土鍾・玉
類、鉄製品

I はじめに

1 調査の経過

小屋原遺跡は宇都宮市街地から東南へ約7km、宇都宮市西刑部町2180他に所在する埋蔵文化財包蔵地（栃木県登録番号4347）である。今回の調査は、本遺跡内に計画された宇都宮市道4114号線（みずほの通り）の建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査である。市道4114号線建設は、宇都宮環状道路から東進する瑞穂野バイパス（国道121号線）にインターチェンジを設け、南約1kmに整備する「（仮称）宇都宮市総合運動公園」への導入路として計画されたものである。なお、同公園は平成12年秋に全国都市緑化フェアの会場として使用され、現在は「みずほの自然の森公園」として市民の憩いの場となっている。



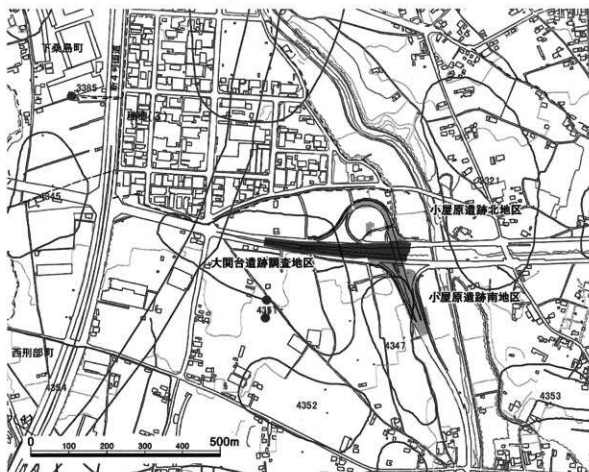
第1図 遺跡位置図

小屋原遺跡の発掘調査は平成10・11年度の2次に渡って実施しているが、年次ごとの概要は以下の通りである。

第1次調査 インターチェンジに関わる部分で、瑞穂野バイパスを南北に挟む形の調査区である。発掘対象面積は約24,000㎡で、この内本調査したのは約5,500㎡である。調査期間は平成10年7月31日～平成11年3月31日の約8か月間である。確認された遺構は、竪穴住居跡（古墳時代後期～平安時代）53軒、掘立柱建物跡8棟、溝跡17条及び土坑多数で、特に瑞穂野バイパス近辺は濃密であった。なお、瑞穂野バイパス部分は同年、大関台遺跡として栃木県による発掘調査が実施され、ほぼ同時期の竪穴住居跡97軒、掘立柱建物跡14棟、溝跡16条等、多数の遺構が密集して確認されている。

第2次調査 第1次調査地区周縁部と南導入路部分が主な調査区で、発掘対象面積は25,000㎡、内本調査したのは19,500㎡である。調査期間は平成11年4月1日～平成12年3月31日の12か月間である。確認された遺構は、竪穴住居跡43軒、掘立柱建物跡23棟、溝跡41条、井戸跡20基等で、第1次調査に比べて密度はやや薄くなっている。竪穴住居跡の年代は、第1次調査地区同様、奈良・平安時代が中心で、掘立柱建物跡、井戸跡等と組み合わせて集落が形成されていたものとみられる。

以上、今回の小屋原遺跡の発掘調査で確認された建物数は、竪穴住居跡88軒、掘立柱建物跡35棟であり、先行して調査された瑞穂野バイパス部分（大関台遺跡）を合わせると、竪穴住居跡186軒、掘立柱建物跡49棟に上り、大規模な集落跡であることが明らかとなった。なお本調査では、この大関台遺跡を挟んで南側を「南地区」、同じく北側を「北地区」と呼称した。



第2図 調査地区図

2 遺跡の環境

宇都宮市は関東平野の北端に位置し、北西部には日光・足尾の山地帯から延びる丘陵地が連なり、中南部から東部にかけては関東ローム層の台地が発達する。さらにこれらは南流する河川によって開析され、西から鹿沼台地・姿川低地（姿川）・宝木台地・田川低地（田川）・田原台地・岡本台地・鬼怒川低地（鬼怒川）・宝積寺台地等と称される台地や低地を交互に繰り返す地形が形成されている。本遺跡が立地するのはこの内東寄りに位置する岡本台地上で、鬼怒川の右岸に形成されたものである。この岡本台地は宇都宮市白沢町から上三川町磯岡をへて下野市三王山付近まで南北に細長く続く台地で、全長は約35km、東西幅は1.5～2.5km、標高は162m～54mである。本遺跡付近はこの台地のほぼ中程に位置し、標高は88m前後である。さらにこの台地内部は小河川や開析谷による樹枝状の地形の発達が特徴的であるが、本遺跡もすぐ東を流れる江川によって形成された小支谷に面している。ちなみに本遺跡とこの江川低地の比高差は約3m、さらに東に広がる鬼怒川低地との比高差は5m前後を測る。

次に周辺の遺跡の分布状況であるが、やはり台地（岡本・田原）上には多く、低地（鬼怒川・田川）部には少ない。また台地上でも江川沿岸は、本遺跡も含めて密度が高い地域といえる。以下時代をおって遺跡の状況を概観してみたい。

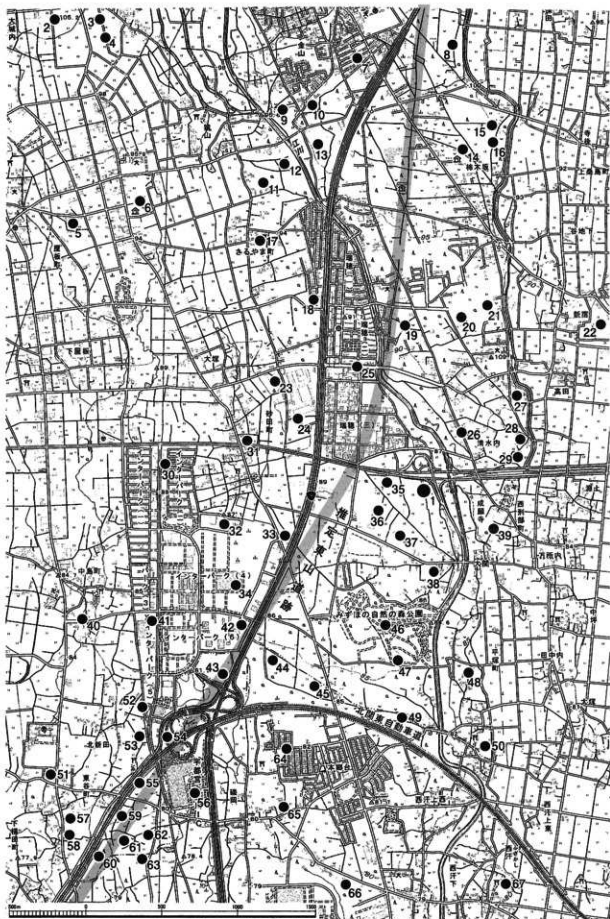
旧石器時代 本遺跡周辺で旧石器時代が確認されているのは非常に少なく、瑞穂野団地遺跡（25）、立野遺跡（41）、杉村遺跡（54）、西赤堀遺跡（64）の4遺跡だけである。このうち瑞穂野団地遺跡では、暗色帯中から流紋岩製の縦長剥片が出土している。また西赤堀遺跡では、尖頭器・スクレイパー等を含む石器群ブロックが6カ所確認されている。

縄文時代 旧石器時代に比べると遺跡数は大きく増加し、特に台地縁辺部や江川流域等には分布が多くみられる。このうち最も遡るのは早期で、瑞穂野団地遺跡（25）、杉村遺跡（54）では燃糸文系土器が、また立野遺跡（41）、磯岡遺跡（56）等では条痕文系土器がそれぞれ出土している。中期になると、遺跡数はさらに増加し、加曾利E1式土器の出土で知られる柿木坂遺跡（15）をはじめ、台地上には多くの集落が展開する一方、稀ではあるが根本遺跡（22）のように鬼怒川低地面で確認されるものもみられる。なお、後期・晩期になると、本遺跡周辺では遺跡数が激減している。**弥生時代** 遺跡数が少なく、全体に不明な点が多い。発掘調査例も少なく、杉村遺跡（54）で中期の竪穴住居跡1軒と土坑2基、瑞穂野団地遺跡（25）で後期の竪穴住居跡2軒が確認されている程度である。

古墳時代 古墳時代を迎えると、特に中期以降、遺跡数が飛躍的に増加し、その分布は台地上の縁辺部・内陸部を問わず、ほぼ全域に及んでいる。本遺跡の南西部、東谷・中島地区においては近年、北関東自動車道路建設や大規模区画整理事業に伴う発掘調査が進み、非常に多くの成果が挙げられている。ここではこれらの成果を中心に、周辺地域の変遷をたどっていくことにしたい。

まず古墳時代前期に関しては、前代の弥生時代と同様、遺跡数が非常に少ない。本遺跡の南方約1kmの西刑部古屋原遺跡（46）はその数少ない例で、一辺10m前後の小型方墳2基と竪穴住居跡1軒が確認されている。他には本遺跡西方約1kmの砂田東遺跡（31）で竪穴住居跡2軒が確認されている程度である。なおこの時期、本遺跡の南西方約5km、田川西岸台地の茂原地内に3基の前方後円墳が築かれ、本地域古墳時代の幕開けとなったことはよく知られている。

中期になると様相は一変し、遺跡数も激増する。なかでも本遺跡の南東約3kmには、双子塚古墳（51）、



第3図 周辺の道跡分布図

第1表 周辺の遺跡一覧表

No	遺跡名	種別	時代等	No	遺跡名	種別	時代等
1	小屋原遺跡	集落	古墳・奈良平安	35	大関台遺跡	集落	古墳・奈良平安・中世
2	下栗大塚古墳	古墳	円墳	36	大関高塚群	塚	近世
3	下栗念仏塚古墳	古墳	円墳	37	中道遺跡	集落	奈良平安
4	下栗念仏塚遺跡	集落	古墳・奈良平安	38	後尚塚遺跡	集落	奈良平安
5	赤沢遺跡	集落	縄文・奈良平安	39	榎戸遺跡	集落	奈良平安
6	菅谷遺跡	集落	古墳・奈良平安	40	芋内遺跡	集落	奈良平安
7	宇東高西遺跡	集落	縄文	41	立野遺跡	集落	弥生・古墳・奈良平安
8	石井久保田古墳群	古墳	前方後円墳1、円墳1他	42	琴平塚古墳群	古墳	前方後円墳3、円墳11
9	大久保台山遺跡	集落	古墳・奈良平安	43	磯岡北遺跡	集落	縄文・弥生・古墳・中世
10	天王山古墳群	古墳	円墳4	44	西沼遺跡	集落	奈良平安
11	さるやま城古墳群	古墳	前方後円墳2、円墳10	45	内野遺跡	集落	古墳・奈良平安
12	さるやま城跡	城館	中世	46	西刑部古屋原遺跡	古墳	前方後円1、方2、円5
13	東原古墳群	古墳	前方後円墳2、円墳4	47	不動堂遺跡	集落	奈良平安
14	上桑島西原庚申塚	塚	近世	48	平塚原根岸遺跡	集落	古墳・奈良平安
15	柿木坂遺跡	集落	縄文・古墳	49	下小屋原遺跡	集落	奈良平安
16	柿木坂古墳群	古墳	前方後円墳1、円墳1	50	南沼遺跡	集落	縄文・奈良平安
17	嶺山天満宮古墳	古墳	円墳	51	双子塚古墳	古墳	前方後円墳
18	嶺山遺跡	集落	奈良平安	52	板橋高塚	塚	近世
19	桑島台西古墳	古墳	円墳	53	櫛見山遺跡	集落	古墳・奈良平安
20	桑島台古墳群	古墳	円墳10他	54	杉村遺跡	集落	弥生・古墳・奈良平安
21	根本西台古墳群	古墳	前方後円3、円墳15他	55	原遺跡	集落	古墳・奈良平安
22	根本遺跡	集落	縄文・中世・近世	56	磯岡遺跡	集落	弥生・古墳・奈良平安
23	下桑島西原遺跡	集落	奈良平安	57	笹塚古墳	古墳	前方後円墳
24	南原古墳	古墳	前方後円墳	58	鶴舞塚古墳	古墳	円墳
25	瑞穂野田地遺跡	集落	旧石器・縄文～奈良平安	59	原古墳群	古墳	円墳2
26	藤原遺跡	集落	古墳・奈良平安	60	松の塚古墳	古墳	円墳
27	飯塚古墳	古墳	前方後円墳	61	権現塚古墳群	古墳	円墳2
28	清水内古墳	古墳	円墳	62	車塚古墳群	古墳	円墳5
29	成願寺遺跡	集落	古墳・奈良平安・中世	63	上石田遺跡	集落	古墳・奈良平安
30	砂田遺跡	集落	縄文・古墳・奈良平安	64	西赤堀遺跡	集落	旧石器・奈良平安
31	砂田東遺跡	集落	古墳・奈良平安	65	磯岡西汗古墳群	古墳	前方後円1、円墳4他
32	砂田姥沼遺跡	集落	古墳・奈良平安	66	西赤堀西遺跡	集落	古墳・奈良平安
33	西刑部西原遺跡	集落	古墳・奈良平安	67	西汗田遺跡	集落	奈良平安
34	中島塚遺跡	集落	古墳・奈良平安				

笹塚古墳(57)、鶴舞塚古墳(58)、松の塚古墳(60)などの大型古墳で構成される東谷古墳群が登場する。このうち笹塚古墳は全長105mの前方後円墳で、この時期では栃木県下最大の古墳である。本遺跡の西方約4kmに所在する塚山古墳(全長98mの前方後円墳)とともに、宇都宮南部地域がこの頃の下毛野の政治的中心であったことを示すものと言われる。この古墳群の造営を契機とするように周辺に

は、権現山遺跡（53）、杉村遺跡（54）、立野遺跡（41）といった大規模集落が出現したものとみられるが、特に権現山遺跡では周囲が塀や溝で囲まれた豪族居館跡が二か所確認され、東谷古墳群との関連も含めて注目を集めている。なお、これらの集落と浅い谷を挟んだ東側では、中島塚遺跡（34）や磯岡北遺跡（43）などにおいて小型の円墳・方墳で構成される群集墳の展開も確認されている。

後期になると東谷古墳群の造営は収束し、本遺跡周辺における首長墓は全長52mの前方後円墳である琴平塚1号墳（42）に受け継がれたものとみられる。一方この時期、横穴式石室を埋葬施設とする群集墓が発達し、根本西台古墳群（21）では小規模な前方後円墳3基、円墳15基以上が密集して確認されている。集落では立野遺跡（41）のように中期から継続して営まれるものに加え、砂田遺跡（30）、西刑部西原遺跡（33）等、本期になって新たに拡大するものも現れる。

奈良・平安時代 古墳時代に引き続き遺跡数が多い時代である。遺跡は台地上のほぼ全面で確認され、砂田遺跡（30）・西刑部西原遺跡（33）、大関台遺跡（35）等、多くの集落遺跡は古墳時代から継続して営まれたものである。集落構成としては、特に奈良時代後半以降、掘立柱建物が増加することが砂田遺跡等で確認されている。また、出土遺物としては墨書土器も本期の特色であり、特に大関台遺跡では地名（郷名）に関するとみられる墨書「財部」が多数出土し注目を集めている。ちなみに大関台遺跡の変遷を概観すると、概ね6世紀中葉頃に集落として形成され、8世紀の後半代には遺構数のピークを迎え、9世紀中葉まで存続していたものとされる。

ところで古代の本地域を特徴付けるものの一つが、道路遺構の存在である。権現山遺跡（53）、杉村遺跡（54）、磯岡北遺跡（43）、西刑部西原遺跡（33）における一連の発掘調査により、古代の道路遺構が1.4km以上にわたって確認されている。両側に側溝をもって直線的な形状であること、全体的に北北東に向かってることなどから東山道と推定されており、改修等を繰り返しながら8世紀中葉から9世紀後葉頃まで機能していたものとされている。なお、これらから推定される東山道ルートは、本遺跡の僅か500m西を通過していることになる。また、この推定ルート上の南西約5kmには古代河内郡衙と推定される上神主・茂原官衙遺跡が所在しており、本遺跡周辺が律令体制下の集落としてどのような営みを続けていたかは興味深いところである。

中世以降 平安時代後半、概ね10世紀後半ごろから遺跡数は激減し、中世以降になると特に集落跡等は遺跡として周知されていないのが現状である。大関台遺跡（35）や成願寺遺跡（29）の発掘調査では、カワラケや内耳土器を伴う区画溝が確認され、貴重な資料となっている。なお中世城館跡としては、本遺跡の北北西約2kmのさるやま城跡（12）や本遺跡の南東約2kmの刑部城跡等が知られている。

（参考文献）

- 宇都宮市教育委員会 1983 『宇都宮の遺跡—宇都宮市埋蔵文化財等遺跡詳細分布確認調査報告書—』
宇都宮市教育委員会 2017 『宇都宮市遺跡分布地図』
杉浦昭博ほか 2001 『大関台遺跡』栃木県教育委員会・（財）ちぎ生生涯学習文化財団

II 遺構と遺物（南地区）

今回小屋原遺跡においては、第1次～2次合わせて25,000㎡（東西最大幅約260m・南北長約370m）が発掘調査の対象となった。地形的には北から南へなだらかに下る（標高差2.5m）低平な台地上で、東側は南流する江川に面した緩やかな傾斜地となっている。調査前の土地利用は大部分が畑地又は水田で、一部に果樹園や雑木林がみられた。発掘調査の結果、竪穴住居跡88軒（南地区41軒・北地区47軒）、掘立柱建物跡35棟（南地区16棟・北地区19棟）、井戸20基（南地区13基・北地区7基）、溝状遺構55条（南地区38条・北地区17条）、土坑23基（南地区3基・北地区20基）等、多数の遺構が確認された。遺構の分布は調査区のほぼ全域に渡っているが、特に江川に面した台地東側縁辺部は密度が高く、重複も多く見られた。

ここでは、栃木県教育委員会が調査した瑞穂野バイパス部分（大関台遺跡）以南の南地区で確認された遺構と遺物について報告する。

1 竪穴住居跡

SI01（第5図、第90図）

概要：北壁にカマドを有する竪穴住居跡で、主軸の方位はN-4°-Eである。 **位置：**南地区の北西端部で、大関台遺跡調査区に接する。 **規模：**南北3.65m×東西4.70mのやや隅丸な長方形で、確認面から床面までの深さは0.42mである。 **覆土：**自然堆積で3層に分層され、最下層には小ロームブロックの混入が多く見られた。 **床面：**ほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた様子はみられない。 **柱穴：**主柱穴はP1～P4の4本（直径35～40cm・深さ30～45cm）で、柱間隔は1.8m前後の方形に配されている。なお主柱穴延長上の南北壁沿いのP5～P8（直径28～35cm・深さ20～36cm）は、補助支柱として配されたものとみられる。 **カマド：**北壁のやや東寄りに位置し、煙道部は壁を約50cm掘り込んで造られている。袖部は褐色粘土を主体に造られたもので、幅90cm・奥行き45cmほどの大きさである。燃焼部はごく浅い掘り込みで、底面には焼土が確認された。 **出土遺物：**図示し得たのは土師器環2点、同鉢1点、同甕6点、同甌1点、須恵器蓋1点、同鉢1点及び石製紡錘車1点である。カマド周辺からは土師器甕類が集中的に出土している。

SI02（第6・7図、第91図）

概要：北壁と東壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はN-27°-Wである。 **位置：**南地区の北西端部で、SI03に近接する。 **規模：**南北5.03m×東西5.08mの正方形で、確認面から床面までの深さは0.38mである。 **覆土：**自然堆積で14層に分層され、全体にローム粒の混入が多く見られた。 **床面：**ほぼ平坦で、中央部からカマド前面は良く踏み固められている。 **柱穴：**主柱穴はP1～P4の4本（直径33～37cm・深さ27～54cm）で、柱間隔は2.0m前後の方形に配されている。

壁溝：確認された壁溝は幅15～20cm・深さ5～10cmで、北壁を除く3壁下に巡るが、東カマド及び南壁中央入口部付近には確認されない。 **間仕切り溝：**確認された間仕切り溝は幅15～18cm・深さ10cm前後で、東西の壁と主柱穴を繋ぐように配されている。ただし東壁とP4を繋ぐ部分はカマド2と

の関係で少し北にずらしたものとみられる。 **入口ピット**：南壁ほぼ中央から30～50cm内側で確認されたP5・P6（いずれも直径35cm・深さ20cm）が入口ピットで、梯子等の付け替えが行われたものと思われる。 **貯蔵穴**：北東コーナーに位置し、南北55cm・東西84cmの長方形で、深さは43cmである。

カマド：北壁で2基、東壁で1基の計3基が確認されている。カマド1は北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を65cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き65cm、推定幅約1.2mである。燃焼部は長さ50cm、深さ15cm程の浅い掘り込みである。カマド2は東壁の南東コーナー寄りに位置し、煙道は長めで壁を1.3m程掘り込んである。袖部は灰褐色粘土で造られたもので、奥行き約35cm、幅90cm程である。カマド3は北壁カマド1のすぐ西側に位置し、煙道は壁を85cm程掘り込んである。煙道部の下層に焼土が少し確認されたが、袖部は確認されていないことから、早い段階で使用は止めていたものとみられる。 **出土遺物**：出土遺物は比較的多く、図示し得たのは土師器坏7点、同埴1点、同高坏1点、同甕4点、同甔1点、手捏ね土器7点及び石製紡錘車2点である。覆土下層からの出土が多く、床面直上のものはみられない。

S103（第8・9図、第93・94図）

概要：南壁に張り出しを有するやや規模の大きい竪穴住居跡で、主軸方位はN-29°-Wである。**位置**：南地区の北西端部で、大関台遺跡調査区とほぼ接する。 **規模**：南北6.14m×東西6.23mの正方形で、確認面から床面までの深さは0.52mである。なお南壁中央の張り出しは、幅約1.6m・奥行き1.05mである。 **覆土**：自然堆積で5層に分層され、下層にはロームブロックの混入が多く見られた。 **床面**：ほぼ平坦で、中央部からカマド前面は良く踏み固められている。 **柱穴**：主柱穴はP1～P4の4本で、掘形は直径76～84cm・深さ54～63cmと規模の大きなものである。いずれも直径20cm前後の柱痕跡が確認され、柱間間隔は南北が2.9m前後、東西が3.2m前後の長方形配置となっている。 **壁溝**：確認された壁溝は幅12～18cm・深さ5～12cmで、張り出し部を除きほぼ全周している。 **貯蔵穴**：南壁中央の張り出し部に位置し、平面は南北53cm×東西85cmの長方形で、深さは56cmを測る。**カマド**：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を1m程、凸字形に掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き約60cm、幅約1.2mである。燃焼部は長さ約75cm、深さ20cm程度の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。 **出土遺物**：出土遺物はかなり多く、図示し得たのは土師器坏10点、同埴2点、同高坏2点、同甕11点、同甔2点、及び手捏ね土器5点である。なお土師器坏18と同埴17には墨書の痕跡がみられる。手捏ね土器はいずれも覆土中からの出土である。

S104（第10・11図、第92図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、S105・SD02に切られる。主軸方位はN-9°-Wである。 **位置**：南地区の北西端部で、大関台遺跡調査区に近接する。 **規模**：南北3.94m×東西5.15mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.48mである。 **覆土**：自然堆積で8層に分層され、下層には小ロームブロックの混入が多く見られた。 **床面**：ほぼ平坦で、中央部からカマド前面は良く踏み固められている。 **柱穴**：主柱穴はP1～P4の4本（直径40～56cm、深さ42～61cm）で、柱間間隔は南北1.9m前後、東西2.8m前後の長方形に配されている。 **壁溝**：確認された壁溝は幅15cm前後・深さ5～12cmで、カマドと東・南辺の一部を除きほぼ全周している。 **カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を70cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色

粘土を主体として造られたもので、奥行き約40cm、幅約1mである。燃焼部は長さ38cm、深さ5cm程度の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器環2点、同甕2点、須恵器環1点、同蓋1点及び鉄製品2点（鉄鏃1、鎌8）である。

SI05（第10・11図、第96図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、SI04を切りSD02に切られる。主軸方位はN-8°-Wである。 **位置**：南地区の北西端部で、SI04の南辺に接する。 **規模**：南北4.16m×東西4.35mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.37mである。 **覆土**：自然堆積で4層に分層され、下層にはローム粒の混入が多く見られた。 **床面**：ほぼ平坦で、中央部からカマド前面は良く踏み固められている。 **柱穴**：床面から支柱穴とみられるものは確認されない。四隅から不整形な土坑状の掘り込み（径80～115cm、深さ25～40cm）が確認されているが、柱穴とは考えられない。 **壁溝**：確認された壁溝は幅10～15cm・深さ5cm前後で、北壁を除く3辺で確認されている。 **入口ピット**：南壁中央部で壁から約40cmの地点で確認されたP1（直径25cm・深さ29cm）が入口ピットとみられる。P2（直径27cm・深さ34cm）はやや東にずれるが、同様な性格のものと考えられる。 **カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を65cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き約60cm、幅約90cmである。燃焼部は長さ68cm、深さ15cm程度の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。 **出土遺物**：図示し得たのは須恵器環2点と同高台付環1点で、いずれも覆土下層からの出土である。

SI06（第12・16図、第98図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、SI07に切られる。主軸方位はN-31°-Wである。 **位置**：南地区の北端部で、周囲には竪穴住居跡が密集する。 **規模**：南北4.03m×東西5.0mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.42mである。 **覆土**：自然堆積で3層に分層され、下層にはローム粒や小ロームブロックの混入が多く見られた。 **床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。 **柱穴**：西壁寄りで確認されたP1（直径28cm・深さ46cm）とP2（直径47cm・深さ58cm）は深さもあり支柱穴と考えられるが、東壁寄りに対応する柱穴は確認されていない。 **間仕切り溝**：西壁やや南寄りで、幅15cm・深さ5cm前後の溝が約1m内方に伸びており、間仕切り溝と思われる。 **カマド**：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を約60cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き約80cm、幅約105cmである。燃焼部は長さ72cm、深さ10cm程度の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器環7点、同埴2点、同甕3点及び同甗3点で、カマド周辺の床面直上から出土したものが多い。

SI07（第12・16図、第97図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、SI06を切る。主軸方位はN-1°-Eである。 **位置**：南地区の北端部で、周囲には竪穴住居跡が密集する。 **規模**：南北4.28m×東西4.82mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.21mと浅めである。 **覆土**：自然堆積で4層に分層され、下層には小ロームブロックの混入が多く見られた。 **床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。なお、北西を除く三隅から不整形な土坑（直径1m前後・深さ25～30cm）が確

認められているが、いずれもロームブロックで埋められていた。 **柱穴**：床面中央やや西寄りで確認されたP3（直径41cm・深さ35cm）・P4（直径33cm・深さ38cm）は柱穴とみられるが、対応するものが確認されない。 **入口ピット**：南壁ほぼ中央部で壁から40cm程の位置で確認されたP5（直径33cm・深さ47cm）が入口ピットとみられる。 **カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を55cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き約50cm、幅約105cmである。なお燃焼部の掘り込みはほとんど見られない。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器坏2点、須恵器坏6点、石製紡錘車1点、土鍾1点及び鉄製品2点（鉄鏃2、鏃9）である。なお土師器坏2には墨書の痕跡、また須恵器坏8には線刻がみられる。

S108（第13図、第99図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、SD02に切られる。主軸方位はN-10°-Wである。 **位置**：南地区の北端部で、大関台遺跡調査区に接する。 **規模**：南北3.67m×東西4.72mのやや隅丸な長方形で、確認面から床面までの深さは0.48mである。 **覆土**：自然堆積で5層に分層され、下層にはロームブロックの混入が見られた。 **床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。 **柱穴**：主柱穴はP1～P4の4本（直径25～32cm、深さ38～54cm）で、柱間間隔は南辺のP3～4間がやや狭いもののほぼ3mの方形に配置されている。南北辺側がほぼ壁に接しているのが特徴的である。 **カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道の壁への掘り込みは約20cmと浅めである。袖部はロームブロックと灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約65cm、幅約80cmである。燃焼部は長さ67cm、深さ10cm程度の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器甕5点と手捏ね土器1点である。

S109（第14・15図、第102図）

概要：北壁にカマドを有するやや大型の竪穴住居跡で、SD19を切っている。主軸方位はN-17°-Wである。 **位置**：南地区の北端部で、周囲には竪穴住居跡が密集する。 **規模**：南北5.95m×東西6.26mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.33mである。 **覆土**：自然堆積で10層に分層され、下層には小ロームブロックの混入が見られた。 **床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。 **柱穴**：主柱穴はP1～P3（直径36～55cm、深さ54～87cm）で、4本柱のうち北東柱穴は攪乱によって失われている。柱間間隔は東西・南北とも3.5m前後で、方形に配されている。 **壁溝**：確認された壁溝は幅15～20cm・深さ5～10cmで、カマド部分を除きほぼ全周していたものとみられる。 **カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を1.25m程凸型に掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約1.2m、幅約1.1mである。燃焼部は長さ約60cm、深さ15cm程度の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。 **出土遺物**：出土遺物は少なく、土師器坏1点と同壺1点だけである。土師器坏1は床面直上の出土である。

S110（第17図）

概要：北側半分を大溝SD03によって切られた中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はN-11°-Wである。 **位置**：南地区の北端部で、SD03に切られる。 **規模**：東西5.30mの方形とみられる。確認面から床面までの深さは0.20mである。 **覆土**：自然堆積とみられる。 **床面**：ほぼ平坦である。

柱穴：P1・P2（直径28～35cm、深さ36～57cm）が主柱穴とみられ、柱間間隔は1.85mである。
出土遺物：なし

S111（第19・20図、第104図）

概要：北壁及び東壁に複数のカマドを有するやや小規模の竪穴住居跡で、主軸方位はN-5°-Eである。位置：南地区の北端部で、S113を切っている。規模：南北3.48m×東西4.55mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.28mである。覆土：自然堆積で3層に分層され、下層には小ロームブロックの混入が見られた。床面：ほぼ平坦で、北壁のカマド周辺は良く踏み固められている。柱穴：西壁寄りからP1（直径52cm・深さ34cm）とP2（直径41cm・深さ16cm）が確認されているが、いずれも柱穴としてはやや浅めである。カマド：カマド1は北壁やや西寄りに位置し、煙道は壁を65cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約65cm、幅約90cmである。燃烧部は長さ約70cm、深さ15cm程度の浅い掘り込みである。カマド2は北壁やや東寄りに位置し、煙道は壁を60cm程掘り込んでいる。袖部はやや不明瞭であるが、構築材にしたとみられる長さ約30cmの川原石が出土している。カマド3は東壁やや北寄りに位置し、煙道は壁を95cm程掘り込んで造られている。袖部は不明瞭であるが、燃烧部の掘り込み（長さ約75cm・深さ約15cm）が残されている。カマド4は東壁やや北寄りに位置し、煙道は壁を45cm程掘り込んでいる。袖部は不明瞭であるが、燃烧部の浅い掘り込み（長さ約45cm・深さ約10cm）が残されている。以上4つのカマドが確認されたが、遺存状況や遺物の出土状況等から最終的にはカマド1が使用されていたものと考えられる。出土遺物：図示し得たのは土師器杯3点、同甕3点、須恵器杯2点、同甕2点、同壺1点及び灰釉陶器壺1点である。

S112（第18図）

概要：北部の大半を大溝SD03に切られたやや小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はN-40°-Eである。位置：南地区の北端部で、SD03にきられる。規模：東西3.90mの方形とみられ、確認面から床面までの深さは0.25mである。覆土：自然堆積とみられる。床面：全体には平坦とみられるが、細かな凹凸が多い。出土遺物：なし

S113（第19・20図、第101図）

概要：東壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、S111に切られている。主軸方位はN-1°-Eである。位置：南地区の北端部で、周囲には竪穴住居跡が密集する。規模：南北4.42m×東西4.57mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.30mである。覆土：自然堆積で4層に分層され、下層には小ロームブロックの混入が見られた。床面：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。柱穴：P5～P7（直径26～54cm、深さ56～88cm）の3本が主柱穴とみられるが、対応する北東の柱穴が確認されない。貯蔵穴：カマドのすぐ南に位置し、径60cmほどの不整形円形。カマド：東壁のやや南寄りに位置し、煙道は壁を45cm程掘り込んでいる。袖部は不明瞭であったが、長さ48cm・深さ15cmほどの燃烧部の掘り込みが確認されている。出土遺物：図示し得たのは土師器杯2点と同壺1点である。なお土師器杯1・2は貯蔵穴から出土している。

S I 14 (第75図、第102図)

概要: 北半の大部分が大溝SD03に切られた北壁にカマドを有する竪穴住居跡で、主軸方位はN-2°-Eである。**位置:** 南地区の北部で、SD03に切られる。**規模:** 東西3.90mの方形とみられ、確認面から床面までの深さは0.25mである。**覆土:** 自然堆積とみられる。**床面:** 全体には平坦とみられるが、細かな凹凸が多い。**出土遺物:** 出土遺物は非常に少なく、図示し得たのは須恵器高台付坏の底部を利用した転用硯1点である。

S I 19 (第14・15図、第103図)

概要: 北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、SI09に切られる。主軸方位はN-17°-Wである。**位置:** 南地区の北端部で、大関台遺跡調査区に接している。**規模:** 南北推定4.9m×東西4.97mのほぼ正方形とみられ、確認面から床面までの深さは0.25mである。**覆土:** 埋土は7層に分層されたが、全体にロームブロックの混入が多くみられ、人為的に埋め戻された可能性が高いとみられる。**床面:** ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。**柱穴:** P1・P2 (直径24・27cm・深さ23・31cm) は位置的に主柱穴とみられるが、いずれも小規模で西側に対応する柱穴が確認されない。**カマド:** 北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を55cm程凸型に掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約0.6m、幅約1.05mである。燃烧部からは支脚に使用されたとみられる長さ18cmの川原石が出土している。**出土遺物:** 出土遺物は少なく、図示し得たのは土師器坏1点と須恵器坏1点だけである。いずれも覆土下層からの出土である。

S I 26 (第21・22図、第105図)

概要: 北壁にカマドを有するやや大型の竪穴住居跡で、方形周溝遺構SD04を切っている。主軸方位はN-2°-Eである。**位置:** 南地区の中央部で、周囲には多くの住居・建物跡が密集する。**規模:** 南北推定7.0m×東西6.8mの長方形で、確認面から床面までは0.25mである。**覆土:** 自然堆積で10層に分層され、下層にはロームブロックの混入が多くみられた。**床面:** ほぼ平坦で、中央部からカマド周辺は良く踏み固められている。**柱穴:** 主柱穴はP1~P3 (直径45~52cm、深さ51~72cm) で、南西調査区外の未確認柱穴と組んで4本柱であったものと思われる。柱間間隔は南北が4.4m、東西が4.2mの長方形配置であるが、壁との距離が狭い (0.5~0.7m) のが特徴である。P5~P6 (直径35~50cm、深さ32~35cm) 及びP7~P9 (直径20~22cm、深さ19~31cm) は、繋がり不明である。**入口ピット:** 南壁はほぼ中央から約1mの距離で確認されたP4 (直径38cm、深さ48cm) が、位置的に入口ピットの可能性が考えられる。**カマド:** 北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を67cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約60cm、幅約115cm、先端には土師器甕が補強材として使用されている。燃烧部は長さ約90cm・深さ10cmほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。**出土遺物:** 図示し得たのは土師器坏2点、同甕2点、須恵器坏3点、同蓋3点、同甕1点及び同平瓶の把手1点である。ほとんどが床面直上またはカマド内からの出土である。

S I 27 (第23図、第106図)

概要: 北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、南西半分が調査区外となっている。主軸方

位はN-2°-Wである。位置：南地区の中央部で、周囲には多くの住居・建物跡が密集する。規模：南北推定4.73m×東西3.6m以上の方形で、確認面から床面までは0.55mである。覆土：自然堆積で13層に分層され、下層にはロームブロックの混入が多くみられた。床面：ほぼ平坦で、中央部からカマド周辺は良く踏み固められている。柱穴：P1（直径46cm、深さ102cm）とP2（直径28cm、深さ22cm）は規模がかなり異なるが、位置的に主柱穴とみられる。恐らく調査区外に残る2本と組んで、4本主柱であったものと思われる。カマド：北壁の恐らく中央に位置し、煙道は壁を60cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約40cm、幅105cmである。燃焼部は長さ65cm・深さ10cmほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。出土遺物：図示し得たのは土師器甕1点、須恵器環3点及び鉄製品1点（鎌10）である。

S128（第24図、第107図）

概要：北壁にカマドを有する竪穴住居跡で、南辺はSD12に切られ、南西半分が調査区外となっている。主軸方位はN-5°-Wである。位置：南地区の中央部で、周囲には大型の竪穴住居跡が並ぶ。規模：南北3.7m以上×東西3.6m以上の隅丸方形で、確認面から床面までは0.35mである。覆土：自然堆積で14層に分層され、下層には小ロームブロックの混入が多くみられた。床面：ほぼ平坦で、中央部からカマド周辺は良く踏み固められている。柱穴：P1（直径57cm、深さ82cm）は位置的にも規模的にも主柱穴の1本とみられる。規模の小さいP2・P3（直径20～25cm、深さ25～32cm）は関連が不明である。カマド：北壁の恐らく中央に位置し、煙道は壁を45cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約55cm、幅約100cmである。燃焼部は長さ55cm・深さ10cmほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。出土遺物：図示し得たのは土師器環2点、須恵器環1点及び同蓋3点である。

S129（第25・26図、第108図）

概要：北壁にカマドを有する大型の竪穴住居跡で、北西部はSI43を切り、南辺の一部がSD12に切られている。主軸方位はN-7°-Wである。位置：南地区の中央部で、南に隣接する大型竪穴住居跡SI42とはほぼ主軸をそろえて並んでいる。規模：南北約7.6m×東西7.53mのほぼ正方形で、確認面から床面までは0.26mとやや浅めである。覆土：自然堆積で10層に分層され、下層には炭化物や焼土の混入が多くみられた。床面：ほぼ平坦で、中央部からカマド周辺は良く踏み固められている。柱穴：主柱穴はP1～P4（直径58～71cm、深さ62～101cm）の4本で、いずれも大型で深い。柱間間隔は南北が5.0m前後、東西が4.8m前後で、やや南北に長い配置である。また、各柱間の中程にはやや小規模なP5～P8（直径29～44cm、深さ45～71cm）が補助的に配され、8本主柱を呈している。なお、南辺側のP7がやや西に寄っているのは、出入口との関係と思われる。壁溝：壁溝が確認されたのは西壁の一部のみで、規模は幅15～20cm、深さ10cm前後である。貯蔵穴：カマドに近い北東コーナーから確認された土坑（115cm×95cm）で、形状は不整である。カマド：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を65cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約60cm、幅約125cmである。燃焼部は長さ65cm・深さ15cmほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。出土遺物：出土遺物は比較的多く、図示し得たのは土師器環1点、同甕3点、同甕1点、須恵器環6点、同蓋7点、同壺

2点、同壺1点、土製紡錘車1点及び鉄製品5点（鉄鍬3・4、刀子13、鉄斧16、鉤18）である。なお須恵器坏11には墨書、同坏10には線刻がみられる。

S I 4 1（第27・28・29図、第109図）

概要：北壁がSI42によって切られる中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はN-17°-Wである。**位置：**南地区のほぼ中央部で、西側は約20mで台地西端部に至っている。**規模：**南北推定約5.30m×東西5.34mの方形で、確認面から床面までの深さは0.21mである。**覆土：**自然堆積で7層に分層され、全体にローム粒の混入が多く見られた。**床面：**ほぼ平坦で、中央部からカマド前面は良く踏み固められている。**柱穴：**主柱穴はP1～P4（直径34～53cm、深さ47～60cm）の4本である。柱間隔は南北・東西とも2.4m前後で、ほぼ方形の配置である。**入口ピット：**南壁沿いのほぼ中ほどから確認されたP5（直径48cm、深さ30cm）で、壁から約80cmに位置する。**カマド：**東西南壁には見られずSI42によって掘削された北壁部にあった可能性が高い。**出土遺物：**図示し得たものは土師器坏5点、同高坏4点、同壺4点、同甗2点、手捏ね土器1点及び鉄製品1点（耳環20）である。多くはカマド前面とみられる床面直上からの出土である。

S I 4 2（第27・28・29図、第110図）

概要：東壁にカマドを有する大型の竪穴住居跡で、南辺部がSI41を切っている。主軸方位はN-10°-Wである。**位置：**南地区のほぼ中央部で、西側は約20mで台地西端部に至っている。**規模：**南北約8.8m×東西8.46mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.28mである。コーナーはやや隅丸で、辺も若干の胴張気味である。なお平面規模は、今回確認された竪穴住居跡の中で最大である。**覆土：**自然堆積で6層に分層され、全体にローム粒の混入が多くみられた。**床面：**ほぼ平坦であるが、南から北へ10cm前後の傾斜がみられる。中央部からカマド前面は良く踏み固められている。**柱穴：**主柱穴はP1～P8の8本である。まず径の大きいP1～P4（直径88～101cm、深さ66～85cm）が四隅に配される。柱間隔は南北東西とも5.0m前後である。やや径の小さいP5～P8（直径53～60cm、深さ80～96cm）がこれらのほぼ中間に配されるが、深さは大ぶりのP1～P4より深めである。なお南辺中柱のP7がやや西に寄っているのは、出入口との関係と思われる。**壁溝：**西壁の北部及び東壁のカマド以南で確認されており、規模は幅15～25cm、深さ10～20cm程である。**カマド：**東壁のやや北寄りに位置し、煙道は壁を約20cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約65cm、幅約115cmである。燃烧部の掘り込みは約10cmと浅めであるが、底面は赤く硬化していた。**出土遺物：**出土遺物は非常に多く、図示し得たのは土師器坏15点、同高坏2点、同壺7点、須恵器坏6点、同蓋9点、同甗1点及び鉄製品2点（鎌11、釘17）である。なお土師器坏14には「財マ里本」、また同坏15には判読不明の墨書がそれぞれみられる。

S I 4 3（第25・26図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、南東コーナー部がSI29に切られている。主軸方位はN-7°-Wである。**位置：**南地区のほぼ中央部で、近くにはSI29・42等の大型住居跡が並んでいる。**規模：**南北5.36m×東西5.48mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.46mである。**覆土：**自然堆積で5層に分層され、全体にローム粒・小ロームブロックの混入がみられた。**床面：**西

側の主柱穴沿いに数センチの軽い段がみられる。中央部からカマド前面は良く踏み固められている。

柱穴：主柱穴はP1～P4（直径30～39cm、深さ41～64cm）の4本である。柱間隔は南北東西とも3.1m前後で、ほぼ正方形の配置である。**カマド**：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を約80cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、遺存状況は不明瞭である。燃焼部は長さ約80cm・幅95cm・深さ約10cmの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。**出土遺物**：なし

S144（第30図、第111図）

概要：東壁にカマドを有するかなり小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はN-3°-Wである。**位置**：南地区のほぼ中央部で、西側は10数mで台地西端部に至っている。**規模**：南北3.06m×東西3.4mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.38mである。**覆土**：自然堆積で5層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。**床面**：ほぼ平坦で、カマドの前面は良く踏み固められている。**柱穴**：主柱穴は中央部で東西に並ぶP1・P2（直径26～30cm、深さ35～37cm）の2本で、柱間隔は約60cmである。**カマド**：東壁のやや南寄りに位置し、煙道は壁を約55cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられ、奥行き約50cm、幅約85cmである。燃焼部は長さ約35cm・幅40cm・深さ約10cmの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。**出土遺物**：出土遺物は非常に少なく、図示し得たのは須恵器ハ1点のみであるが、底部外面に「財般」の墨書がみられる。

S145（第31図、第112図）

概要：北壁にカマドを有するかなり小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はN-6°-Wである。**位置**：南地区のやや南方部で、台地の西端部に立地する。**規模**：南北2.96m×東西3.73mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.15mと浅めである。**覆土**：自然堆積で5層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。**床面**：ほぼ平坦であるが、南東部には攪乱による細かな凹凸がみられる。**柱穴**：確認された柱穴は、床面のほぼ中央に位置するP1（直径14cm、深さ38cm）のみである。**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を約20cm掘り込んで造られている。中心部は赤く焼け焦げているが、袖部、燃焼部等は不明瞭である。**出土遺物**：出土遺物は非常に少なく、図示し得たのは口縁部に穿孔のある土師器壺1点のみである。

S146（第32図、第113図）

概要：北壁にカマドを有したとみられる小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はN-6°-Wである。**位置**：南地区のやや南方部で、台地の西端部に立地する。**規模**：南北3.04m×東西4.39mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.21mである。**覆土**：埋土全体にロームブロックの混入が多く、人為的に埋め戻された可能性が高い。**床面**：ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。**柱穴**：主柱穴はP1・P2（直径14～14cm、深さ38～38cm）の2本とみられる。柱間隔は約2.5mで、やや西に寄っている。**貯蔵穴**：北東コーナー付近で確認された隅丸長方形の土坑で、東西64cm、南北48cm、深さ35cm。**カマド**：北壁中央部が攪乱されているため不明であるが、遺物の出土状況や貯蔵穴の位置からみて北壁中央にあったものと思われる。**出土遺物**：図示し得たのは土師器ハ6点、同壺4点、同高杯5点、同甕2点、同甗2点で、その多くは貯蔵

穴及びカマド周辺とみられる床面直上からの出土である。

S147 (第33図、第116図)

概要:南東コーナーにカマドを有するかなり小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はN-2°-Eである。
位置:南地区のやや南方部で、台地の西端部寄りに立地する。 **規模:**南北2.18m×東西2.83mの不整長方形で、確認面から床面までの深さは0.31mである。なお今回確認された中では最も小規模な竪穴住居跡である。 **覆土:**自然堆積で7層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。 **床面:**ほぼ平坦で、カマド前面は良く踏み固められている。 **柱穴:**確認されない。
カマド:南東コーナー部に位置し、煙道は角を僅かに掘り込んで造られている。袖部の形状は不明瞭であるが、燃烧部は長さ約55cm・深さ10cmほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。
出土遺物:出土遺物は少なく、図示し得たのは高台付の須恵器環2点のみで、1はカマド内からの出土である。

S148 (第34図、第114・115図)

概要:北壁にカマドを有するやや小規模な竪穴住居跡で、西壁がやや胴張状となる。主軸方位はN-19°-Wである。 **位置:**南地区のやや南方部で、台地の最も西端部寄りに立地する。 **規模:**南北3.53m×東西3.97mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.37mである。 **覆土:**自然堆積で5層に分層され、下層には炭化物や焼土粒の混入がみられた。 **床面:**ほぼ平坦で、中央部とカマド前面は良く踏み固められている。 **柱穴:**主柱穴はP1~P4(直径28~36cm、深さ41~54cm)の4本である。柱間間隔は南北1.75m、東西とも1.6m前後で、南北に長い長方形の配置である。 **貯蔵穴:**北東コーナー付近で確認された長方形の土坑で、南北26cm、東西58cm、深さ20cm。 **カマド:**北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を約40cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約65cm、幅約104cm、焚口部には補強材として土師器甕が使用されている。燃烧部は長さ62cm・深さ約5cmの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。 **出土遺物:**出土遺物は比較的多く、図示し得たものは土師器環9点、同埴1点、同鉢2点、同甕8点、同甕1点、手捏ね土器2点、石製紡錘車2点及び土玉1点である。ほとんどは床面直上かカマド内からの出土である。

S149 (第35図、第117図)

概要:北壁にカマドを有するとみられる中規模の竪穴住居跡で、北西部が調査区外となっている。主軸方位はN-26°-Wである。 **位置:**南地区のやや南方部で、台地の西端部寄りに立地する。 **規模:**南北5.73m×東西推定5.6mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.36mである。 **覆土:**自然堆積で5層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。 **床面:**ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。 **柱穴:**主柱穴はP1~P3(直径32~50cm、深さ49~54cm)と北西の未確認の1本をあわせて4本とみられる。柱間間隔は南北2.55m、東西2.5m前後のほぼ正方形の配置である。P4・P5は竪穴の拡張等に伴う付け替えの主柱とみられるが、対になる西側の2本は未確認である。なお柱間間隔は2.9mとなっている。 **貯蔵穴:**貯蔵穴は北東コーナー部から2基確認されている。貯蔵穴1は南北56cm・東西65cm・深さ44cmの長方形土坑で、主柱P1~P3に伴うものとみられる。貯蔵穴2は南北45cm・東西64cm・深さ43cmの長方形土坑で、主柱P4・P5への付け替え期

に伴うものと考えられる。 **カマド**：貯蔵穴の位置等から北壁の調査区外に位置するとみられる。 **出土遺物**：出土遺物は少なく、土師器環1点と同壺1点のみである。

S150 (第36図)

概要：南西部半分近くが調査区外となっているが、小規模な竪穴住居とみられる。主軸方位はN-5°-Wである。 **位置**：南地区のほぼ中央部に立地する。 **規模**：南東コーナー部が僅かに確認されることから南北は推定3.1m、東西は2.5m以上である。確認面から床面までの深さは0.25mである。

覆土：自然堆積で5層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。 **床面**：ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。 **柱穴**：確認された柱穴は、床面ほぼ中央部のP1(直径32cm、深さ78cm)のみである。 **カマド**：調査した範囲内には確認されていない。 **出土遺物**：なし

S151 (第37図、第118図)

概要：北壁にカマドを有する小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はN-25°-Wである。 **位置**：南地区のやや南方部で、台地の東端部寄りに立地する。 **規模**：南北2.61m×東西4.37mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.22mである。 **覆土**：自然堆積で6層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。 **床面**：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面は良く踏み固められている。 **柱穴**：竪穴内からは2本の柱穴が確認されている。P1は直径22cm・深さ23cmで、床面のほぼ中央に位置する。P2は直径19cm・深さ41cmで、南壁やや東寄りの壁際に位置する。 **カマド**：カマド1は北壁の東寄りに位置し、煙道は壁を約25cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約45cm、幅約70cmである。燃烧部は長さ55cm・深さ約5cmの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。カマド2は北壁ほぼ中央に位置し、煙道は壁を焼く35cm掘り込んで造られたものである。本体部は残されておらず、廃棄してカマド1に造り替えられたものと思われる。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器環4点、同壺1点、須恵器環1点及び鉄製品3点(鉄鏝5・6、鍵?19)である。ほとんどが覆土下層からの出土である。

S152 (第38図、第119図)

概要：北壁にカマドを有する小規模な竪穴住居跡で、西側が約半分が調査区外となっている。主軸方位はN-2°-Eである。 **位置**：南地区のやや南方部で、台地の東端部寄りに立地する。 **規模**：南北3.26m×東西2.0m以上で、確認面から床面までの深さは0.52mと深めである。 **覆土**：自然堆積で5層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。 **床面**：ほぼ平坦で、カマド前面は良く踏み固められている。 **柱穴**：確認された柱穴は、東壁側やや南寄りに位置するP1(直径32cm・深さ41cm)のみである。 **カマド**：北壁に位置し、煙道は壁を約55cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、不明瞭である。燃烧部は長さ45cm・深さ約5cmの浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。 **出土遺物**：図示し得たのは須恵器環2点と同壺1点で、いずれも床面直上からの出土である。

S153 (第40図)

概要：北壁にカマドを有するやや小型な竪穴住居跡で、西南側が大きく擾乱を受けている。SB35と

重複し、主軸方位はN-6°-Wである。位置：南地区の南方部で、台地の東端部寄りに立地し、近くにはSB10・11等の小型掘立柱建物跡がみられる。規模：南北3.67m×東西推定3.2mで、確認面から床面までの深さは0.14mと浅めである。覆土：自然堆積で2層に分層され、下層にはロームブロックの混入がみられた。床面：ほぼ平坦で、カマド前面は良く踏み固められている。柱穴：北壁側で確認されたP1・2（直径34～36cm・深さ33～40cm）が主柱穴とみられるが、これらに対応する柱穴は確認されない。カマド：北壁のやや西よりに位置し、煙道は壁を約15cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、不明瞭である。燃焼部は長さ36cm・深さ8cm程の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。出土遺物：なし

S156（第41図、第120図）

概要：北壁にカマドを有するやや中規模な竪穴住居跡で、主軸方位はN-2°-Eである。位置：南地区の南方部で、台地東端部よりに位置する。規模：南北4.75m×東西推定4.91mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.12mと浅めである。覆土：自然堆積で4層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。床面：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面は良く踏み固められている。柱穴：主柱穴はP1～P4（直径25～34cm・深さ34～55cm）の4本で、柱間隔は南北2.7m前後、東西2.6前後のほぼ正方形に配されている。カマド：北壁のやや東寄りに位置し、煙道の壁への掘り込みがほとんど見られないのが特徴的である。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、幅約1.3m・奥行75cm程である。燃焼部は長さ約90cm・深さ10cmほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。出土遺物：図示し得たのは土師器6点、同埴1点、同甕3点及び同甕1点で、いずれも竪穴中央からカマド周辺にかけての床面直上から出土したものである。

S157（第39図、第121図）

概要：北壁にカマドを有するとみられるやや小型な竪穴住居跡で、主軸方位はN-26°-Wである。位置：南地区の南端部近くで、台地東端部よりに位置する。規模：南北3.34m×東西推定3.80mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.11mとかなり浅めである。覆土：確認されたのは小ロームブロックを含む最下層の1層であるが、自然堆積とみられる。床面：一部攪乱を受けているがほぼ平坦である。全体にあまり踏み固められた様子はみられない。柱穴：竪穴内からは確認されていない。カマド：北壁のやや西寄りにあったとみられるが、攪乱のため実態は不明である。出土遺物：出土遺物は少なく、図示し得たのは土師器1点と同甕1点のみで、いずれも床面直上からの出土である。

S158（第42図、第122図）

概要：西半分が調査区外となっているが、北壁にカマドを有する大規模な竪穴住居跡で、主軸方位はN-1°-Wである。位置：南地区の最南端で、台地東縁部寄りに位置する。規模：南北8.43m×東西5.1m以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.35mである。覆土：自然堆積で7～8層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。床面：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面は良く踏み固められている。柱穴：東側列のみの確認であるが、4本主柱の一部とみられる組み合わせが3組みられる。P1・P2（直径72～95cm・深さ61～114cm）は大規模な柱穴の組み合わせで、柱

間隔は約4.5mである。これらのすぐ北側でほぼ同じ柱間隔のP3・P4（直径37～48cm・深さ78～90cm）は、P2・P4の重複関係からP1・P2の付け替えとみられる。なおP5・P6（直径34～50cm・深さ42～55cm）は柱間隔が約3mと狭く、主軸方向も数度ほど振れている。**カマド**：北壁のやや東寄りに位置するものとみられ、煙道は壁を25cmほど掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、幅約1.5m・奥行1.35mと大型である。燃烧部は長さ約70cm・深さ15cmほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。**出土遺物**：図示し得たのは須恵器坏4点、同蓋3点及び同甕1点である。

S164（第46図、第123図）

概要：北東部が調査区外となる竪穴住居跡で、主軸方位はN-1°-Eである。**位置**：南地区中央部のやや西寄り、周囲には住居・建物跡等が密集する。**規模**：南北2.6m以上×東西2.1m以上で、確認面から床面までの深さは0.39mである。**覆土**：自然堆積で8層に分層され、中・下層には小ロームブロックの混入がみられた。**床面**：ほぼ平坦である。**出土遺物**：出土遺物は非常に少なく、須恵器坏1点のみである。

S176（第43・44図、第124図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、北壁部をSD12に切られている。主軸方位はN-2°-Wである。**位置**：南地区の中央部で、大関台遺跡調査区の南方約80mに位置する。**規模**：南北推定4.4m×東西5.33mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.18mである。**覆土**：自然堆積で6層に分層され、全体に焼土粒の混入が多くみられた。**床面**：ほぼ平坦で、中央部はよく踏み固められている。**柱穴**：規模や配置から主柱穴はP1～P4（直径36～40cm・深さ61～69cm）の4本とみられ、柱間隔は南北3.1m前後、東西約2.5mである。P3・P4の2本が南辺の壁柱穴を兼ねる特異な形態である。**壁溝**：幅20cm前後・深さ5～10cmの周溝が、部分的にはあるが東・西・南の3辺で確認されている。**入口ビット**：南壁ほぼ中央のP5（直径39cm・深さ38cm）もしくは東壁際ほぼ中央のP6（直径29cm・深さ34cm）が位置的に入口ビットとみられる。**カマド**：SD12に切られたため遺存状況は不明瞭であるが、北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を約40cm以上掘り込んで造られている。袖部も灰褐色粘土を主体に造られたものと思われるが、形状は不明瞭である。燃烧部は長さ95cm・深さ約25cmの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。なお、両袖外側の壁際から確認されたP8・P9（直径22～35cm・深さ19～21cm）は、カマド部分の上屋に関わる柱穴とみられる。**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏2点、同蓋1点、同甕2点、須恵器坏11点、同甕2点及び鉄製品4点（刀子14・鉄滓22・23・24）である。なお土師器坏2には「山家」、須恵器坏15には「財」、同坏16には「山山（出か？）□」、がそれぞれ墨書されている。

S177（第45図、第125図）

概要：東壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、SB31及びSD45に切られている。主軸方位はN-1°-Eである。**位置**：南地区の中央部で、大関台遺跡調査区の南方約80mに位置する。**規模**：南北3.64m×東西4.43mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.14mと浅めである。**覆土**：自

然堆積で7層に分層され、全体に焼土粒の混入が多くみられた。床面：ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。柱穴：床面から主柱穴は確認されないが、四隅には浅い土坑状（径50～80cm・深さ10～20cm）の掘り込みがみられる。壁溝：確認された壁溝は幅15～20cm・深さ5～10cmで、西壁を除く3壁下に巡っている。入口ピット：南壁下やや東寄り確認されたP1（直径27cm・深さ21cm）が、位置的に入口ピットとみられる。カマド：東壁のやや南寄りに位置し、煙道は壁を約45cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、幅約1m・奥行0.6mである。燃焼部は長さ55cm・深さ約10cmの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。出土遺物：図示し得たのは土師器坏1点、須恵器坏4点、同蓋1点、白玉2点及び鉄製品1点（刀子15）である。

S178（第47図、第126図）

概要：北壁にカマドを有する小型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-1°-Eである。位置：南地区の中央部で、大関台遺跡調査区の南方約100mに位置する。規模：南北2.98m×東西2.95mの正方形で、確認面から床面までの深さは0.14mと浅めである。覆土：自然堆積で6層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。床面：ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。柱穴：床面中央から一本の小規模な柱穴P1（直径22cm・深さ20cm）が確認されたのみである。カマド：北壁のやや西寄りに位置し、煙道は壁を約40cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、幅約70cm・奥行約55cmである。燃焼部は長さ45cm・深さ約10cmの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。出土遺物：出土遺物は少なく、図示し得たのは土師器坏2点と石製紡錘車1点だけである。

S179（第48図、第127図）

概要：北壁にカマドを有する中規模な竪穴住居跡で、東半分が調査区外となっている。主軸方位はN-5°-Eである。位置：南地区の南方部で、大関台遺跡調査区の南方約120mに位置する。規模：南北5.1m×東西3.1m以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.43mと深めである。覆土：自然堆積で8層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。床面：ほぼ平坦で、中央部はよく踏み固められている。柱穴：P1・P2（直径33～35cm・深さ50～56cm）が主柱穴とみられ、柱間間隔は2.65mである。東側が調査区外となっているが、4本主柱であったものと思われる。入口ピット：南壁下のカマド向かい側から確認されたP3・P4（直径31～39cm・深さ22～25cm）は、位置的に入口ピットとみられる。カマド：西側半分の確認であるが、北壁のほぼ中央に位置するとみられ、煙道は壁を約55cm掘り込んで造られている。袖部は褐色粘土を主体に造られたもので、幅は推定で1.2m、奥行は50cm程である。燃焼部は長さ75cm・深さ約10cmの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。出土遺物：図示し得たのは土師器坏5点、同埴1点、同甕3点及び手捏ね土器2点である。

S180（第49図、第128・129図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、南側にSB34が隣接する。主軸方位はN-12°-Wである。位置：南地区の南方部で、大関台遺跡調査区の南方約140mに位置する。規模：南北4.05m×東西4.28mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.42mと深めである。覆土：自然堆積で12層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。床面：ほぼ平坦で、

中央部およびカマド前面はよく踏み固められている。 **柱穴**：主柱穴はP1～P4（直径30～35cm・深さ31～40cm）の4本で、柱間間隔は南北2.1m・東西2.2mのほぼ正方形に配されている。

入口ピット：南壁はほぼ中央から30cmほど内側で確認されたP5（直径33cm・深さ21cm）は、位置的に入口ピットとみられる。 **カマド**：北壁のやや西よりに位置し、煙道は壁を約40cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、幅は約90cm・奥行は50cm程である。燃焼部は長さ75cm・深さ約20cmの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。 **出土遺物**：出土遺物は比較的多く、図示し得たのは土師器環1点、同埴1点、同高環1点、同甕12点、同甗1点、手捏ね土器1点及び鉄製品1点（鎌12）である。土師器甕5～7等はカマドの補強材として使用されたものとみられる。

2 掘立柱建物跡

SB01

概要：桁行2間×梁行1間の南北棟建物で、主軸方位はN-5°-Wである。 **位置**：南地区北部のほぼ中央ほどで、大関台遺跡調査区の南約10mの地点に位置する。 **規模・柱間寸法**：桁行総長は2.80mで、柱間寸法は西側柱列が南から1.30+1.45m、東側柱列が南から1.45+1.40mである。梁行長は2.05mで、南妻側が2.10m、北妻側が1.95mである。面積は5.74㎡ある。 **掘方**：平面形は直径0.36～0.45mの円形で、確認面からの深さは0.29～0.57mである。 **出土遺物**：なし。

SB04（第50図）

概要：東西方向3間分の柱穴列であり、掘立柱建物跡の可能性が高い。主軸方位はN-78°-Eである。 **位置**：南地区の北部で、大型竪穴住居が集中する地区の北縁部に位置する。 **規模・柱間寸法**：柱穴列の総長は6.10m、柱間寸法は東から2.35+1.70+2.05mである。 **掘方**：平面形は直径0.3～0.38mの円形で、確認面からの深さは0.24～0.55mである。多くが柱痕跡を残しており、柱の太さは直径15cm前後である。 **出土遺物**：なし。

SB07（第51図）

概要：桁行1間×梁行1間の南北棟建物で、SB08と重複する。主軸方位はN-22°-Wである。 **位置**：南地区の中部で、台地の東端部に位置している。 **規模・柱間寸法**：桁行の柱間寸法は、東側で2.30m、西側で2.45m。梁行の柱間寸法は北側・南側とも2.0mである。面積は4.75㎡である。 **掘方**：平面形は直径0.25～0.35mの円形で、確認面からの深さは0.25～0.44mである。 **出土遺物**：なし。

SB08（第51図）

概要：北東側が調査区外となるが、桁行3間×梁行2間の側柱式の東西棟建物で、SB07と重複する。主軸方位はN-21°-Wである。 **位置**：南地区の中部で、台地の東端部に位置している。 **規模・柱間寸法**：桁行総長は南側柱列の3.90mで、柱間寸法は東から1.25+1.35+1.30mである。梁行総長は西妻柱列の2.55mで、柱間寸法は南から1.20+1.35mである。面積は推定で9.95㎡である。 **掘方**：

平面形は直径0.24～0.35mの円形で、確認面からの深さは0.21～0.45mである。出土遺物：なし。

SB09 (第52図)

概要：桁行1間×梁行2間の側柱式の南北棟建物で、主軸方位はN-30°-Wである。位置：南地区の中部で、台地の東端部付近に位置している。規模・柱間寸法：桁行は2.20m。梁行総長は2.05mで、柱間寸法は南・北妻柱列とも東から1.10+0.95mである。面積は4.51㎡である。掘方：平面形は直径0.25～0.32mの円形で、確認面からの深さは0.45～0.93mである。いずれも柱痕跡が残されており、推定される柱の太さは直径12～15cmである。出土遺物：なし。

SB10 (第53図)

概要：桁行1間×梁行1間の東西棟建物で、主軸方位はN-12°-Wである。位置：南地区の南部で、台地の東端部に位置している。規模・柱間寸法：桁行の柱間寸法は、南側で2.15m、北側で2.05m。梁行の柱間寸法は東側・西側とも1.55mである。面積は3.25㎡である。掘方：平面形は直径0.25～0.36mの円形で、確認面からの深さは0.12～0.31mである。出土遺物：なし。

SB11 (第54図)

概要：桁行2間×梁行1間の側柱式の東西棟建物で、主軸方位はN-35°-Wである。位置：南地区の南部で、台地の東端部に位置している。規模・柱間寸法：桁行総長は2.30mで、柱間寸法は、南・北側柱列とも1.15m等間である。梁行の柱間寸法は東側・西側とも2.05mである。面積は4.71㎡である。掘方：平面形は直径0.24～0.29mの円形で、確認面からの深さは0.28～0.37mである。出土遺物：なし。

SB12 (第55図)

概要：桁行2間×梁行1間の側柱式の東西棟建物で、主軸方位はN-10°-Eである。位置：南地区の最南端部で、台地の東端部に位置している。規模・柱間寸法：桁行総長は2.35mで、柱間寸法は、南側柱列が東から1.15+1.20m、北側柱列が東から1.10+1.25mである。梁行の柱間寸法は東側が1.70m、西側が1.55mである。面積は3.88㎡である。掘方：平面形は直径0.15～0.26mの円形で、確認面からの深さは0.11～0.42mである。なお、桁行側柱列の中間柱はいずれも小規模である。出土遺物：なし。

SB13 (第56図)

概要：東西1間×南北1間の建物で、主軸方位はN-29°-Wである。位置：南地区の最南端で、台地の東端部に位置している。規模・柱間寸法：東西の柱間寸法は、南側・北側とも2.60m。南北の柱間寸法は、東側で2.55m、西側で2.50mである。面積は6.63㎡である。掘方：平面形は直径0.25～0.36mの円形で、確認面からの深さは0.12～0.31mである。出土遺物：なし。

SB15 (第58図、第130図)

概要：南西コーナー部が調査区外となるが、桁行2間×梁行1間の側柱式の南北棟建物とみられ、主軸

方位はN-4°-Wである。 **位置**:南地区の北部で、大関台遺跡調査区の南約60mの地点に位置する。
規模・柱間寸法:桁行総長は4.85mで、柱間寸法は東側柱列が北から2.30+2.55m、西側柱列が北から2.25+Xmである。梁行の柱間寸法は北側で4.10mである。面積は推定で19.88㎡である。 **掘方**:平面形は長径0.90～1.05m×短径0.50～0.75mの楕円形で、確認面からの深さは0.45～0.76mである。いずれも柱痕跡が残されており、推定される柱の太さは直径15～20cmである。 **出土遺物**:図示し得たのは須恵器坏片2点であり、いずれも柱穴堀方の埋土中からの出土である。

SB16 (第57図)

概要:北東コーナー部のみの確認で、桁行2間以上×梁行1間以上の側柱式の南北棟建物とみられ、主軸方位はN-1°-Wである。 **位置**:南地区の北部で、大関台遺跡調査区の南約40mの地点に位置する。 **規模・柱間寸法**:桁行総長は3.70m以上で、柱間寸法は東側柱列が北から2.00+1.70mである。梁行の柱間寸法は2.30mである。面積は推定で8.51㎡以上である。 **掘方**:平面形は直径0.35～0.46mの円形で、確認面からの深さは0.38～0.51mである。 **出土遺物**:なし。

SB31 (第59図、第130図)

概要:東西2間×南北2間の側柱式建物で、南側に庇が付いている。主軸方位はN-1°-Eである。 **位置**:南地区のほぼ中ほどで、大関台遺跡調査区の南約80mの地点に位置する。 **規模・柱間寸法**:身舎は東西4.55mで、柱間寸法は南側柱列が東から2.15+2.30m、北側柱列が東から2.20+2.50mである。南北長は4.00mで、柱間寸法は東側柱列・西側柱列ともが南から2.30+2.20mである。庇の出は東側1.75m、西側1.60mで、柱間寸法は東から2.10+2.20mである。面積は身舎部が20.47㎡で、底部を含めた全体で28.21㎡ある。 **掘方**:身舎部柱穴は平面形が直径0.35～0.51mの円形で、確認面からの深さは0.38～0.76mである。底部柱穴は平面形が直径0.26～0.36mの円形で、確認面からの深さは0.15～0.34mである。 **出土遺物**:図示し得たのは土師器片1点である。

SB32 (第60図)

概要:桁行2間×梁行1間の東西棟建物で、主軸方位はN-8°-Wである。 **位置**:南地区のほぼ中ほどで、大関台遺跡調査区の南約90mの地点に位置する。 **規模・柱間寸法**:桁行総長は2.80mで、柱間寸法は南側柱列が東から1.30+1.45m、北側柱列が東から1.45+1.40mである。梁行長は2.05mで、東妻側が2.10m、西妻側が1.95mである。面積は5.74㎡ある。 **掘方**:平面形は直径0.36～0.45mの円形で、確認面からの深さは0.29～0.57mである。 **出土遺物**:なし。

SB33 (第62図)

概要:南西コーナー部が調査区外であるが、東西2間×南北2間の側柱式建物とみられ、主軸方位はN-6°-Eである。 **位置**:南地区のやや南寄り、大関台遺跡調査区の南約120mの地点に位置する。 **規模・柱間寸法**:東西長は2.90mで、柱間寸法は北側柱列が1.45m等間、南側柱列が東から1.55m+xである。南北長は2.95mで、東側柱列の柱間寸法は南から1.50+1.45mである。面積は推定で8.55㎡ある。 **掘方**:平面形は直径0.24～0.31mの円形で、確認面からの深さは0.25～0.52mである。 **出土遺物**:なし。

SB34 (第61図、第130図)

概要:東西1間以上×南北1間以上の側柱式建物とみられ、SI80と重複する。主軸方位はN-0°-Wである。 **位置:**南地区の南部で、大関台遺跡調査区の南約140mの地点に位置する。 **規模・柱間寸法:**柱間寸法は東西が2.35m、南北が2.00mである。面積は推定で4.70㎡以上である。 **掘方:**平面形は直径0.34～0.46mの円形で、確認面からの深さは0.36～0.62mである。 **出土遺物:**図示し得たのは須恵器蓋1点で、柱穴埋土中からの出土である。

3 井戸跡

SE01 (第63図)

概要:円形でやや小型な素掘りの井戸。SD14に切られている。 **位置:**南地区の南部で、大関台遺跡調査区の南方約120mに位置する。 **形態・規模:**開口部は直径1.17mの円形で、徐々に窄みながら直径0.63mの円形の底面に至る。確認面からの深さは1.55mである。 **覆土:**自然堆積であり、中層にはロームブロックを多く含む層がみられる。 **出土遺物:**なし

SE02 (第64図、第131図)

概要:円形で素掘りの井戸。 **位置:**南地区の南部で、大関台遺跡調査区の南方約140mに位置する。 **形態・規模:**開口部は直径1.78m前後の円形。中程でロート状に窄まり、直径0.56mの円形の底面に至る。確認面からの深さは2.20mである。 **覆土:**自然堆積であり、中～下層にはロームブロックを多く含む層がみられる。 **出土遺物:**図示し得たのは土師器杯1点と須恵器蓋1点で、いずれも覆土中からの出土である。

SE03 (第65図、第131図)

概要:円形で素掘りの井戸。 **位置:**南地区の南部で、大関台遺跡調査区の南方約150mに位置する。 **形態・規模:**開口部は直径1.07mの円形で、徐々に窄まりながら直径0.30m程の円形の底面に至る。確認面からの深さは2.09mである。 **覆土:**自然堆積であり、中層には小ロームブロックの混入がみられる。 **出土遺物:**図示し得たのは土師器杯1点、須恵器杯1点及び同長頸壺の頸部片で、いずれも覆土中からの出土である。

SE04 (第66図)

概要:楕円形で小型な素掘りの井戸。 **位置:**南地区の南部で、大関台遺跡調査区の南方約150mに位置する。 **形態・規模:**開口部は1.18×1.02mの楕円形で、徐々に窄まりながら0.71×0.60mの楕円形の底面に至る。確認面からの深さは1.22mである。 **覆土:**自然堆積であり、底面の最下層には小礫を含む粘土層の堆積がみられる。 **出土遺物:**なし

SE05 (第67図・第131図)

概要:円形で素掘りの井戸。SB12に隣接している。 **位置:**南地区の南部で、大関台遺跡調査区の南方約170mに位置する。 **形態・規模:**開口部は直径0.86mの円形で、底面は直径0.74mの円

形。壁はほぼ垂直で、確認面からの深さは2.33mである。 **覆土**：全体に締まりがなく、自然堆積であったものとみられる。 **出土遺物**：図示し得たのは須恵器蓋1点のみで、覆土中からの出土である。

SE06 (第68図)

概要：円形で小型な素掘りの井戸。SD15・19と重複している。 **位置**：南地区中部の東縁部で、大関台遺跡調査区の南方約80mに位置する。 **形態・規模**：開口部は直径0.96mの円形で、少し窄みながら直径0.59mの円形の底面に至る。確認面からの深さは0.80mである。 **覆土**：全体にロームブロックを含む層が多く、人為的に埋められた可能性がある。 **出土遺物**：なし

SE07 (第69図)

概要：円形でやや小型な素掘りの井戸。 **位置**：南地区中部の東縁部で、大関台遺跡調査区の南方約120mに位置する。 **形態・規模**：開口部は直径1.29mの円形で、少し窄みながら直径0.77mの円形の底面に至る。確認面からの深さは1.32mである。 **覆土**：自然堆積で、下層からは川原石数個が確認されている。 **出土遺物**：なし

SE08 (第70図)

概要：円形で小型な素掘りの井戸。 **位置**：南地区の南端部で、大関台遺跡調査区の南方約190mに位置する。 **形態・規模**：開口部は直径0.74mの円形で、底面は直径0.45mの円形。壁はほぼ垂直で、確認面からの深さは1.21mである。 **覆土**：自然堆積で、中層にはロームブロックの混入がみられる。 **出土遺物**：なし

SE09 (第35図)

概要：円形で大型な素掘りの井戸。SI49を切っているものとみられる。 **位置**：南地区の南部で、大関台遺跡調査区の南方約130mに位置する。 **形態・規模**：開口部は直径1.95mの円形。中程でロウト状に窄まり直径0.87mの円形の底面に至る。確認面からの深さは2.74mである。 **覆土**：自然堆積で、下層にはロームブロックの混入が多くみられる。 **出土遺物**：なし

SE10 (第58図)

概要：円形で小型な素掘りの井戸。SD29と重複している。 **位置**：南地区の北部よりで、大関台遺跡調査区の南方約60mに位置する。 **形態・規模**：開口部は直径0.98mの円形で、深さは不明である。 **出土遺物**：なし

SE11 (第71図)

概要：円形で素掘りの井戸。 **位置**：南地区の北部よりで、大関台遺跡調査区の南方約60mに位置する。 **形態・規模**：開口部は直径1.05mの円形。壁はほぼ垂直で、確認面から2.35m地点(直径0.78m)で調査は終了した。 **覆土**：自然堆積で、上層には小ロームブロックの混入がみられる。 **出土遺物**：なし

SE17 (第62図、第131図)

概要: 円形でやや大型の素掘りの井戸。SB33に近接している。 **位置:** 南地区の中央部で、大関台遺跡調査区の南方約110mに位置する。 **形態・規模:** 開口部は直径1.46mの円形で、壁は3mほどほぼ垂直に下がり、そこから段差を持って直径0.60mの底面に至る。確認面からの深さは3.43mである。 **覆土:** 自然堆積で、中層にはロームブロックの混入が多くみられる。 **出土遺物:** 図示し得たのは須恵器甕の口縁部片1点で、覆土中からの出土である。

SE18 (第62図)

概要: 円形で大型の素掘りの井戸。SE17に近接している。 **位置:** 南地区の中央部で、大関台遺跡調査区の南方約110mに位置する。 **形態・規模:** 開口部は直径1.94mの円形で、壁はロウト状に窄みながら直径0.72mの底面に至る。確認面からの深さは3.04mである。 **覆土:** 自然堆積で、上層にはロームブロックの混入が多くみられる。 **出土遺物:** なし

4 土坑

SK135 (第21図、第132図)

位置: 南地区の北部に位置し、方形周溝のSD04を切っている。 **規模・形状:** 東西にやや長い不整楕円形で、規模は南北1.73m、東西1.92m、深さ57cmである。 **覆土:** 自然堆積であり、下層にはロームブロックが含まれている。 **出土遺物:** 図示し得たのは土師器杯1点と須恵器蓋1点で、いずれも覆土上層からの出土である。

SK161 (第21図)

位置: 南地区の北部に位置し、方形周溝とみられるSD04の埋葬施設とも考えられる。 **規模・形状:** 南北に主軸をとる長方形で、規模は南北3.25m、東西60cm前後、深さ26cmである。 **覆土:** 全体にロームブロック・ローム粒の混入が多く、人為的に埋め戻された可能性が高い。 **出土遺物:** なし

SK335 (第72図)

位置: 南地区の中央部に位置し、SI77の南側に接し、SB31と重複する。 **規模・形状:** 東西に長い不整楕円形で、規模は南北1.23m、東西1.81m、深さ51cmである。 **覆土:** 自然堆積であり、下層にはロームブロックが少量含まれる。 **出土遺物:** なし

SK336 (第47図)

位置: 南地区の中央部に位置し、SI78の北東に近接する。 **規模・形状:** 南北1.25m、東西1.20mの不整形円形で、深さ45cmである。 **覆土:** 自然堆積であり、下層にはロームブロックが少量含まれる。 **出土遺物:** なし

5 溝状遺構

SD01 (第73図)

位置:南地区の北西部(大関台遺跡調査区に南接)に位置し、ほぼ南北に走る。**規模・形状:**いずれも確認面で上幅115～140cm、下幅45～80cm、深さ15～20cmで、西側斜面には軽い段が付く。断面はほぼ逆台形である。**覆土:**自然堆積であり、下層にはロームブロックが多く含まれる。**出土遺物:**なし。

SD02 (第74図)

位置:南地区の北部に位置する南北方向の溝で、大関台遺跡で確認されたSD182に繋がる。本溝は約25m南下した地点でほぼ直角に西へ曲がり、調査区外へと消えている。SI04・05・08と重複し、これらを切っている。**規模・形状:**いずれも確認面で上幅55～130cm、下幅25～90cm、深さ20cm前後で、断面はほぼ逆台形である。**覆土:**自然堆積であり、下層にはロームブロックが多く含まれる。**出土遺物:**なし。

SD03 (第75図、第132図)

位置:大関台遺跡調査区を挟んで確認された東西及び南北方向の溝で、大関台遺跡のSD183と繋がって方形区画を構成している。南地区側の本溝は約18m南下した地点でほぼ直角に東へ曲がり、38mほどで調査区外へと消えている。また北地区では東西方向に走る本溝を約16m確認している。残念ながら北西コーナー部は攪乱のため不明であったが、方形区画西辺の長さは150m前後と推定される。なお重複するSI10・12はいずれも本溝に切られている。**規模・形状:**北地区では、いずれも確認面で上幅300～355cm、下幅25～40cm、深さ125～146cm。これに対し南地区では上幅190～230cm、下幅25～30cm、深さ100～119cmとやや規模が小さい。断面は箱葉研堀形で、底面まで30cmほどの位置から傾斜が強くなっている。**覆土:**自然堆積であり、下層には小ロームブロックが多く含まれる。**出土遺物:**図示し得たのは須恵器坏2点、同盤1点、同蓋3点で、いずれも覆土中からの出土である。

SD04 (第21図、第132図)

位置:南地区の北部に位置する方形周溝状の溝で、SI26と重複する。長方形土坑SK16を埋葬施設とする方形周溝墓の可能性も考えられる。**規模・形状:**全体の形状はほぼ南北に主軸をとる隅丸の方形で、規模は南北8.55m、東西は推定で8mである。溝部の規模は幅60～70cmで、確認面からの深さは30cm前後である。**覆土:**自然堆積であり、下層にはロームブロックが多く含まれる。**出土遺物:**図示し得たのは須恵器坏1点、土師器甕1点、須恵器鉢1点、同甕1点及び瓦片1点であり、いずれも覆土中からの出土である。

SD12 (第76・77図、第132図)

位置:南地区の北部に位置する東西方向の溝で、西調査区外から6mほど東の地点でいったん立ち上がり、37mほど東の地点で台地東斜面とともに消えている。SI29・76等を切っている。**規模・形状:**いずれも確認面で上幅205～215cm、下幅25～30cm、深さ125cm前後である。断面は箱葉研堀形で、

底面まで25cmほどの位置から傾斜が強くなっている。 **覆土**：自然堆積であり、中層には焼土の混入がみられる。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器坏2点、須恵器坏2点、同鉢1点、同捏ね鉢1点であり、いずれも覆土中からの出土である。

SD13 (第78図)

位置：南地区の中部に位置する東西方向の溝で、7.5mほどを確認。 **規模・形状**：いずれも確認面上幅35～55cm、下幅25～40cm、深さ10cm前後で、断面はほぼ逆台形である。 **覆土**：自然堆積である。 **出土遺物**：なし。

SD14 (第79図)

位置：南地区の中部に位置する東西方向の溝で、13mほどを確認。 **規模・形状**：いずれも確認面上幅165～190cm、下幅40～50cm、深さ15～26cmである。 **覆土**：自然堆積である。 **出土遺物**：なし。

SD15 (第76図、第132図)

位置：南地区の北東台地縁辺部で確認された南北方向の溝で、ゆるい「S」字状に屈曲し調査区外へと出ている。 **規模・形状**：いずれも確認面上幅50～125cm、下幅20～40cm、深さ9～28cmで、断面はほぼ逆台形である。 **覆土**：自然堆積で、下層には小ロームブロックの混入がみられる。 **出土遺物**：SD16に同じ。

SD16 (第76図、第132図)

位置：南地区の北東台地縁辺部で確認された南北方向の溝で、ゆるく「く」の字状にカーブする。側溝としてSD15と対応し、幅3～6mの道路を画していた可能性が考えられる。 **規模・形状**：いずれも確認面上幅60～80cm、下幅30～50cm、深さ13～26cmで、断面はほぼ逆台形である。 **覆土**：自然堆積である。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器坏1点、同高坏1点、須恵器坏4点、同蓋1点及び同甕1点で、いずれも覆土中からの出土である。

SD17 (第80図)

位置：南地区の南東台地縁辺部に位置する南北方向の溝で、約40m分を確認。 **規模・形状**：いずれも確認面上幅45～80cm、下幅20～40cm、深さ3～10cmで、断面は皿状。 **覆土**：自然堆積である。 **出土遺物**：なし。

SD18 (第80図)

位置：南地区の南東台地縁辺部で確認された南北方向の溝で、南端部は東方向へ曲がるとみられる。側溝としてSD17と対応し、幅2～5mの道路を画していた可能性が考えられる。 **規模・形状**：いずれも確認面上幅65～145cm、下幅50～80cm、深さ4～14cmで、断面は皿状。 **覆土**：自然堆積である。 **出土遺物**：なし。

SD19 (第76図)

位置：南地区の北東台地縁辺部で確認された南北方向の溝で、SD15のほぼ1m西に位置する。

規模・形状：いずれも確認面で上幅45～155cm、下幅20～40cm、深さ6～25cmで、断面は皿状。

覆土：自然堆積である。 出土遺物：なし。

SD20 (第76図)

位置：南地区の北東台地縁辺部に位置する南北方向の溝で、約5m分を確認。 規模・形状：いずれも確認面で上幅75～125cm、下幅45～65cm、深さ10cm前後で、断面はほぼ逆台形である。

覆土：自然堆積である。 出土遺物：なし。

SD21 (第76図)

位置：南地区の北東台地縁辺部に位置する南北方向の溝で、SD15から分かれる。 規模・形状：いずれも確認面で上幅50cm前後、下幅20～30cm、深さ10cm前後で、断面はほぼ逆台形である。

覆土：自然堆積である。 出土遺物：なし。

SD22 (第79・81図)

位置：南地区の南東台地縁辺部に位置する南北方向の溝で、約16m分を確認。SD17に繋がる溝と思われる。 規模・形状：いずれも確認面で上幅45～120cm、下幅25～30cm、深さ8～50cmで、断面はほぼ逆台形である。

覆土：自然堆積である。 出土遺物：なし。

SD26 (第82図、第132図)

位置：南地区の北部に位置する東西方向の溝で、調査区内を横切る。 規模・形状：いずれも確認面で上幅45～80cm、下幅20～50cm、深さ5～24cmで、断面はほぼ逆台形である。 覆土：自然堆積である。 出土遺物：図示し得たのは須恵器高杯の脚部片1点である。

SD27 (第82図)

位置：南地区の北部に位置する東西方向の溝で、約5m分を確認。SD26のすぐ南側を平行して走る。

規模・形状：いずれも確認面で上幅65～80cm、下幅30～50cm、深さ11～19cmで、断面はほぼ逆台形である。 覆土：自然堆積である。 出土遺物：なし。

SD28 (第83図)

位置：南地区の北部に位置する南北方向の溝で、約13m分を確認。SB16と重複する。 規模・形状：いずれも確認面で上幅55～90cm、下幅35～60cm、深さ13～35cmで、断面はほぼ逆台形である。

覆土：自然堆積である。 出土遺物：なし。

SD29 (第85図)

位置：南地区の北部に位置する南北及び東西方向の溝で、南北方向部分はSD28に繋が都見られる。

SB17・SE10と重複する。 規模・形状：南北方向部分はいずれも確認面で上幅40～85cm、下幅

25～40cm、深さ13～15cmで、断面はほぼ逆台形。東西方向部分は上幅90～110cm、下幅40～80cm、深さ12～17cmで、断面は皿状。 覆土：自然堆積である。 出土遺物：なし。

SD30 (第86図)

位置：南地区の北東台地縁辺部に位置する東西方向の溝で、約3m分を確認。 規模・形状：いずれも確認面上幅50cm前後、下幅20cm、深さ約15cm。 覆土：自然堆積である。 出土遺物：なし。

SD31 (第86図)

位置：南地区の北東台地縁辺部に位置し、ゆるくカーブを描く東西方向の溝で、約6m分を確認。 規模・形状：いずれも確認面上幅50cm前後、下幅25～40cm、深さ6～19cm。 覆土：自然堆積である。 出土遺物：なし。

SD32 (第86図)

位置：南地区の北東台地縁辺部に位置する南北方向の直線溝で、約14m分を確認。 規模・形状：いずれも確認面上幅45～55cm、下幅20～30cm、深さ8～21cmで、断面はほぼ逆台形。 覆土：自然堆積である。 出土遺物：なし。

SD33 (第86図、第132図)

位置：南地区の北東台地縁辺部に位置する東西方向の溝で、約9m分を確認。SD32・34と重複する。 規模・形状：いずれも確認面上幅50cm前後、下幅30cm前後、深さ約5cm。 覆土：自然堆積である。 出土遺物：図示し得たのは須恵器蓋1点である。

SD34 (第86図、第132図)

位置：南地区の北東台地縁辺部に位置する南北方向の溝で、約20m分を確認。側溝としてSD16もしくはSD15と対応し、幅4～6mの道路を画していた可能性が考えられる。SD33・34と重複。 規模・形状：いずれも確認面上幅30～135cm、下幅25～45cm、深さ9～19cm。 覆土：自然堆積である。 出土遺物：図示し得たのは土師器環5点、同壺1点、須恵器蓋1点で、いずれも覆土中からの出土である。なお土師器壺7の内面には朱書の痕跡が認められる。

SD35 (第86図、第132図)

位置：南地区の北東台地縁辺部に位置する南北方向の溝で、約17m分を確認し、SD32に繋がる。側溝としてSD16もしくはSD15と対応し、幅3～5mの道路を画していた可能性が考えられる。SD34を切っている。 規模・形状：いずれも確認面上幅25～55cm、下幅10～25cm、深さ4～27cmで、断面はほぼ逆台形。 覆土：自然堆積である。 出土遺物：図示し得たのは土師器埴1点のみである。

SD37 (第86図)

位置：南地区の北東台地縁辺部に位置する南北方向の溝で、約2m分を確認。規模・形状：いずれも確認面で上幅50cm、下幅20cm、深さ15cm。覆土：自然堆積である。出土遺物：なし。

SD38 (第86図)

位置：南地区の北東台地縁辺部に位置する東西方向の溝で、約3.5m分を確認。規模・形状：いずれも確認面で上幅50cm前後、下幅15～25cm、深さ約10cm。覆土：自然堆積である。出土遺物：なし。

SD39 (第84図、第132図)

位置：南地区の南部に位置し、ゆるく屈曲する東西方向の溝で、約7m分を確認。規模・形状：いずれも確認面で上幅75～120cm、下幅30～45cm、深さ約13～15cm。覆土：自然堆積である。出土遺物：図示し得たのは土師器坏1点のみである。

SD45 (第87図)

位置：南地区の中部に位置する東西方向の溝で、約10m分を確認。SI77を切っている。規模・形状：いずれも確認面で上幅140～190cm、下幅25～40cm、深さ25cm前後で、断面はほぼ逆台形。覆土：自然堆積で、下層にはロームブロックの混入がみられる。出土遺物：なし。

SD46 (第88図)

位置：南地区の中部で確認された階段状に南下する溝で、調査区外から西へ約8mで南に折れ、さらに約13m南の地点でクランク状になっている。規模・形状：いずれも確認面で上幅35～150cm、下幅20～45cm、深さ5～27cmで、断面はほぼ逆台形。覆土：自然堆積で、下層にはロームブロックの混入がみられる。出土遺物：なし。

SD47 (第88図)

位置：南地区の中部に位置する東西方向の溝で、SD46のコーナーから約4m分を確認。規模・形状：いずれも確認面で上幅約80cm、下幅約30cm、深さ約15cm。覆土：自然堆積で、下層にはロームブロックの混入がみられる。出土遺物：なし。

SD48 (第89図)

位置：南地区の中部に位置する南北方向の溝で、約23m分を確認。SB31と重複。規模・形状：いずれも確認面で上幅20～55cm、下幅10～15cm、深さ約6～9cm。覆土：自然堆積である。出土遺物：なし。

SD49 (第88図)

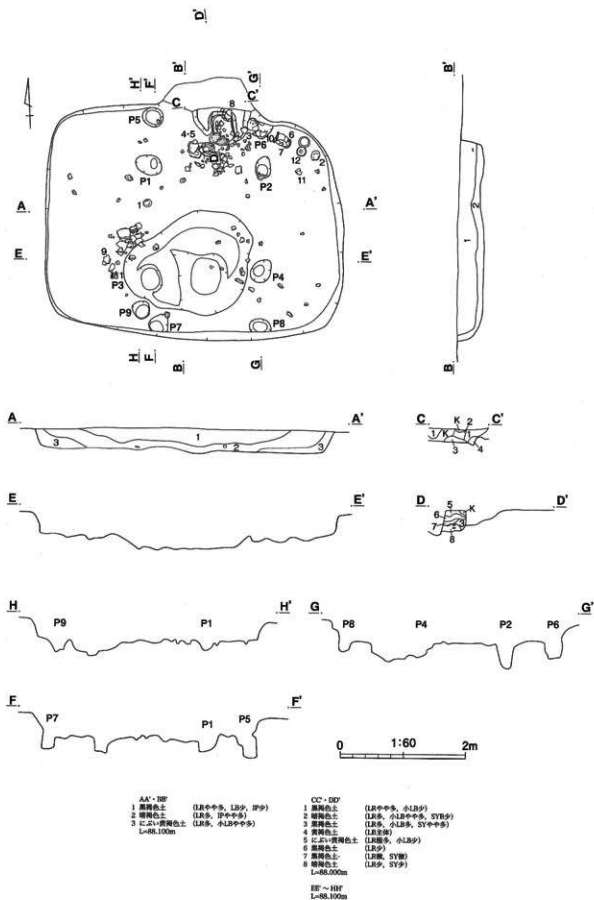
位置：南地区の中部に位置する南北方向の溝で、約6m分を確認。規模・形状：いずれも確認面で上幅30～40cm、下幅約15cm、深さ約7～8cm。覆土：自然堆積である。出土遺物：なし。

6 道路状遺構（第4図、第76図、第80図、第86図、第133図）

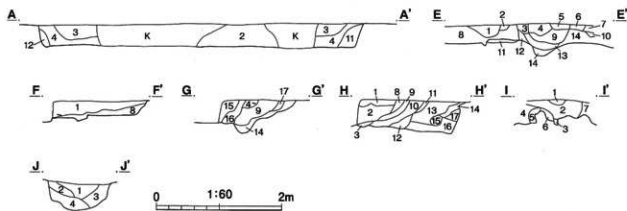
南地区東部は江川低地を望む台地東縁部に位置し、緩やかな東傾斜面が形成されている。この部分は徐々に竪穴住居跡や掘立柱建物跡等の密度が薄くなるとともに、主に南北方向に走る溝が多数確認されている。このうち特に北部のSD15とSD16の間と南部のSD17とSD18の間は、それぞれの溝を側溝とした道路状遺構と捉えることが可能である。これらの前後で確認されている側溝状の溝（SD35とSD38、SD22とSD23等）も合わせると、一部調査区外に出るものの南北約180 mに渡って、緩やかに蛇行しながら北上する道路状遺構の存在を確認することができる。

確認された路面幅は一定ではなく、南部の最も狭いところ（SD17とSD18の間）で約1 m、北部の最も広いところ（SD15とSD16の間）で約6 m、平均的には3～4 mとみられる。硬化面や波板状凹凸面等、路面と認定できるものを確認することはできなかったが、台地縁辺部を集落に沿うように北上する道路跡と考えられ、確認された多数の溝は複数回に及ぶ道路修理を物語るものであろう。

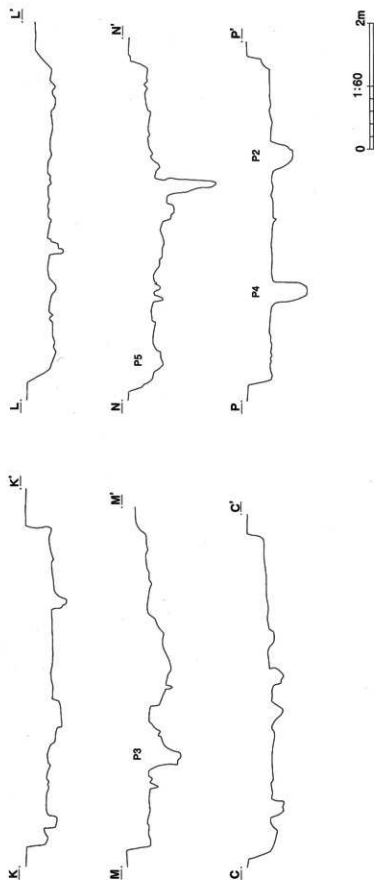
今回確認された道路状遺構で北部に差し掛かる部分（SI29・42等大型竪穴住居群の直ぐ東）は「く」の字に屈曲し路面幅も広がっているが、この近辺の路面から側溝にかけての確認面からは大量の土器片が出土している。廃棄された土器をバラスのように砕き、路面の舗装材として使用された可能性も考えられる。なお図示し得たものは土師器坏22点、同埴2点、同甕1点、手捏ね土器1点、須恵器坏11点、同蓋9点、同甕1点、同甕の把手1点、同甕2点、同円面硯1点及び瓦1点等で、豊富な器種が確認されている。



第5図 SI01

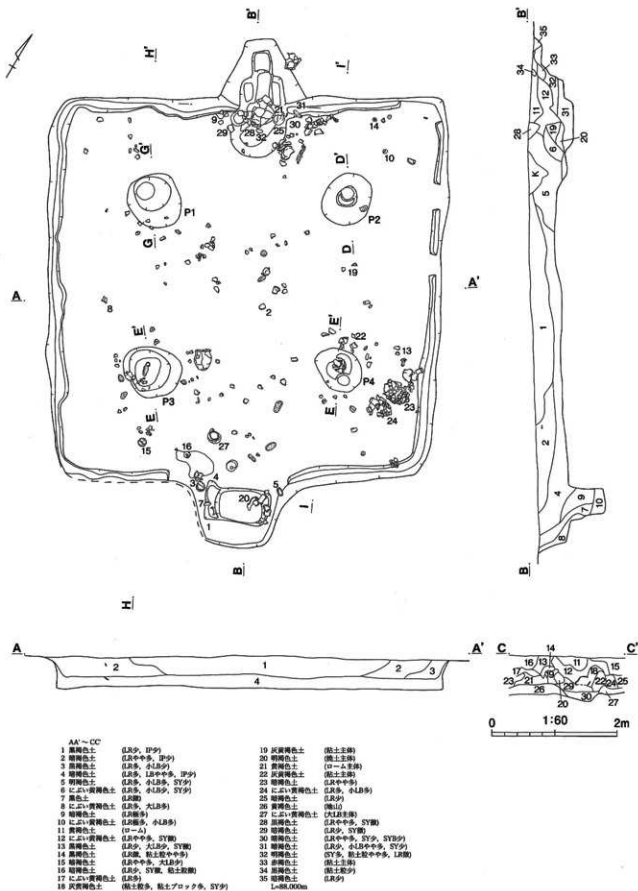


- 36—

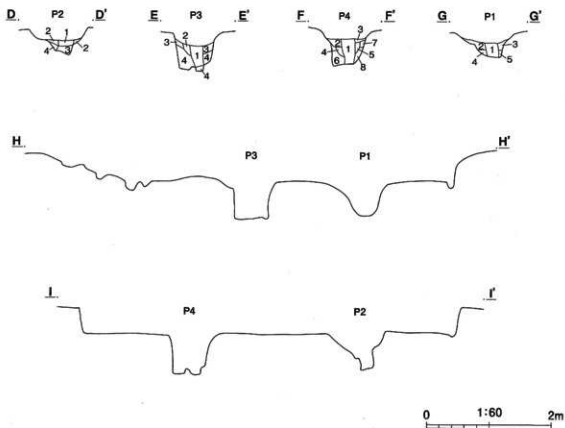


- 10 砂土 (SY, SYE主相)
 11 細かい黄褐色土 (ローマ主相)
 12 細かい黄褐色土 (LJ多, SY多)
 13 黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY少)
 14 黄褐色土 (LJ多)
 15 黄褐色土 (LJ多)
 16 細かい黄褐色土 (LJ多)
 17 L-80.00m
- 11' 砂土 (LJ多, LJ少, SY多)
 12' 黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 13' 黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 14' 細かい黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 15' L-87.700m
 16' K2 ~ P2
 17 L-88.000m
- 1 砂土 (LJ多, LJ少, SY多)
 2 黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 3 黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 4 細かい黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
- 1 砂土 (LJ多, LJ少, SY多)
 2 黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 3 黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 4 細かい黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 5 細かい黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 6 細かい黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 7 細かい黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 8 細かい黄褐色土 (LJ多, LJ少, SY多)
 9 砂土 (LJ多, LJ少, SY多)

第7図 SI02 (2)



第8図 SIO3 (1)



DG
1 暗褐色土 (LR中中多, SY層)
2 暗褐色土 (LR少, 小LR中中多)
3 黄褐色土 (ローム主層)
4 にじみ・黄褐色土 (大LR主層)
L=87.600m

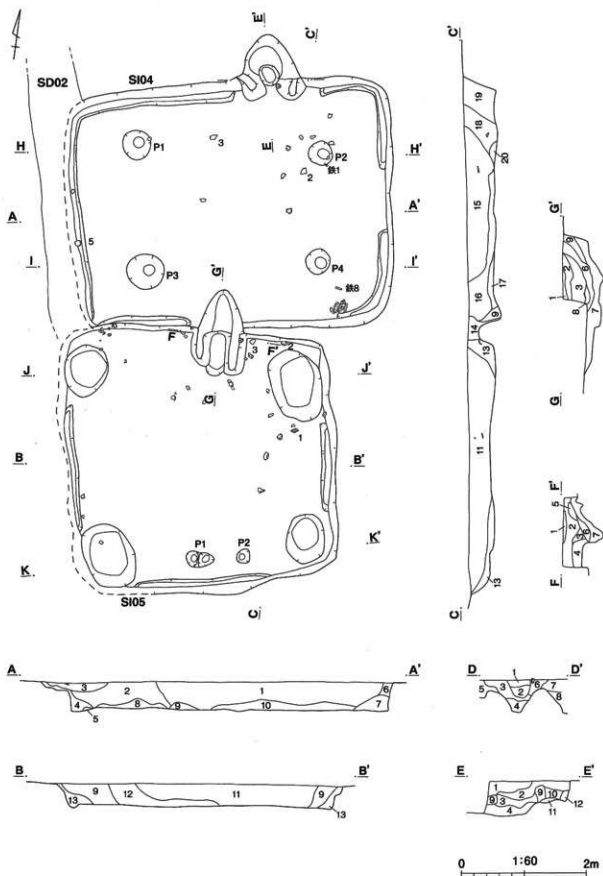
IF
1 暗褐色土 (LR中中多, 大LR中中多)
2 暗褐色土 (LR層)
3 にじみ・黄褐色土 (LR層多)
4 黄褐色土 (大LR主層)
L=87.600m

FF
1 黄褐色土 (LR少, 小LR少)
2 暗褐色土 (LR少)
3 暗褐色土 (LR少)
4 黄褐色土 (LR中中多, 小LR中中多)
5 暗褐色土 (LR中中多)
6 にじみ・黄褐色土 (ローム主層)
7 にじみ・黄褐色土 (小LR主層)
8 にじみ・黄褐色土 (ソフトローム主層)
L=87.600m

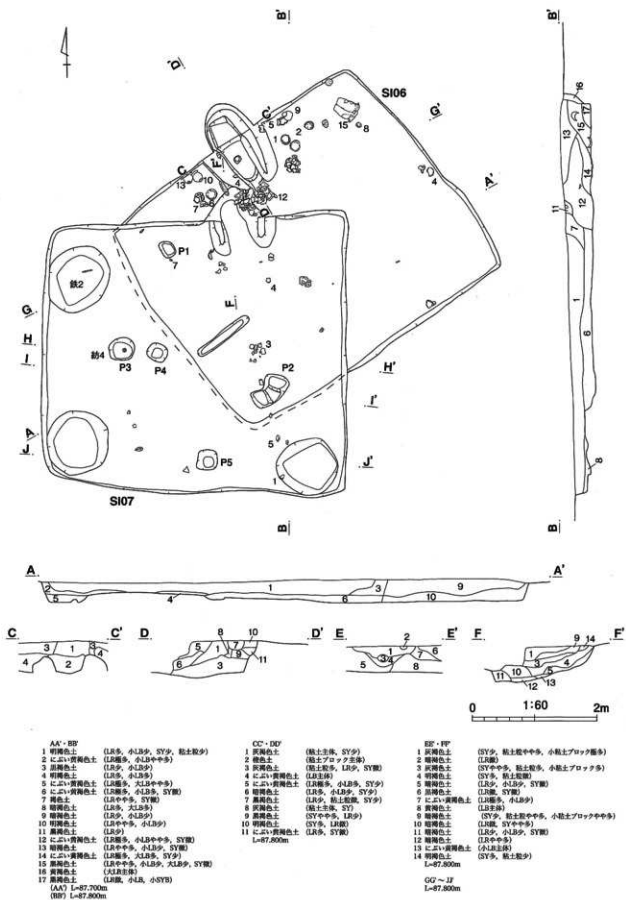
GG
1 暗褐色土 (LR少, 大LR, SY層)
2 暗褐色土 (LR層, 小LR少)
3 暗褐色土 (LR層)
4 にじみ・黄褐色土 (大LR主層)
5 暗褐色土 (LR少)
L=87.600m

HH・II
L=88.000m

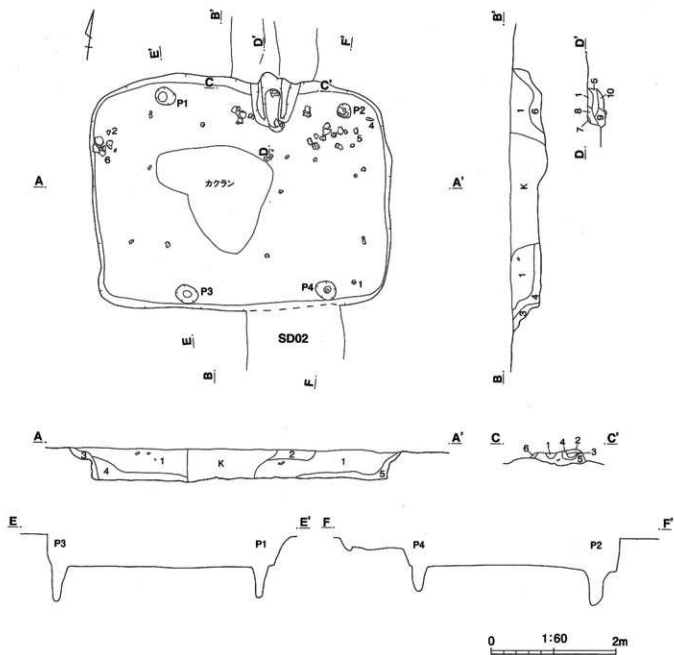
第9図 SI03 (2)



第10圖 SI04・05 (1)



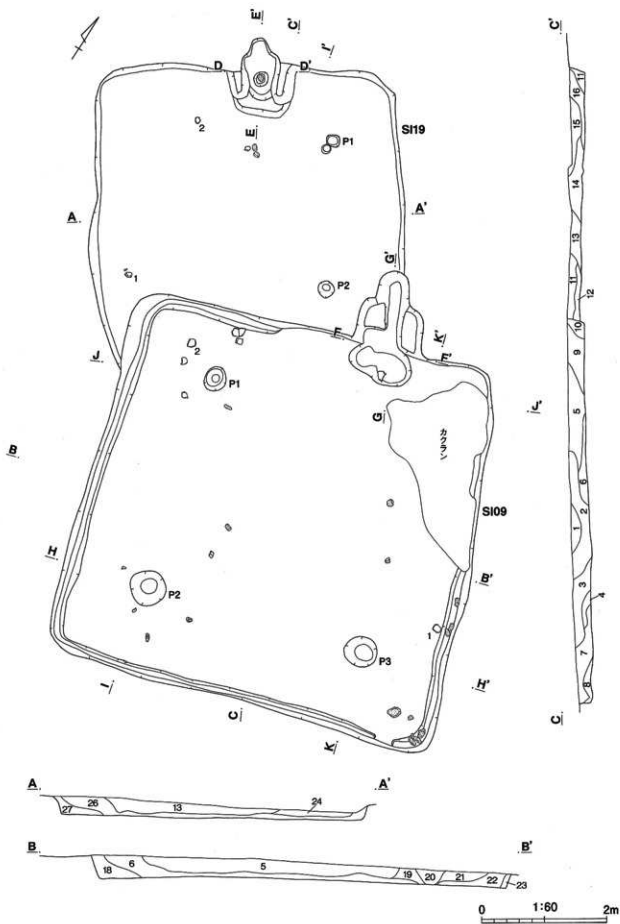
第12図 SIO6・07



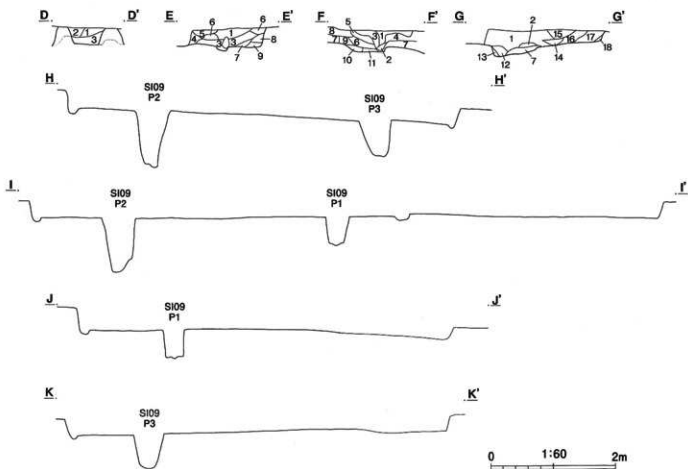
AA' - BB'
 1 黒褐色土 (L中中多, 小L少)
 2 黒褐色土 (L少, 砂質, SD02)
 3 にふく黄褐色土 (L中多, 大L中多)
 4 黒褐色土 (L中多, 小L少)
 5 黒褐色土 (L中多, 小L少)
 6 黒褐色土 (L中多, 大L中多)
 L=88,000m

CC - DD'
 1 黒褐色土 (L中中多, 小L中中多, SY少)
 2 にふく黄褐色土 (L中少, 小L少, SY少)
 3 黒褐色土 (L中少, 小L少, SY中多)
 4 黒褐色土 (L中中多, SY中)
 5 にふく黄褐色土 (L中中多, SY中)
 6 黒褐色土 (L中中多, SY中)
 7 黒褐色土 (L中中多, SY中)
 8 にふく黄褐色土 (L中中多, SY中)
 9 にふく黄褐色土 (L中中多, SY中)
 10 黒褐色土 (L中中多, SY中多)
 (CC) L=87,700m
 (DD) L=88,000m
 EE' - FF'
 L=88,000m

第13図 SI08



第14図 SI09・19 (1)



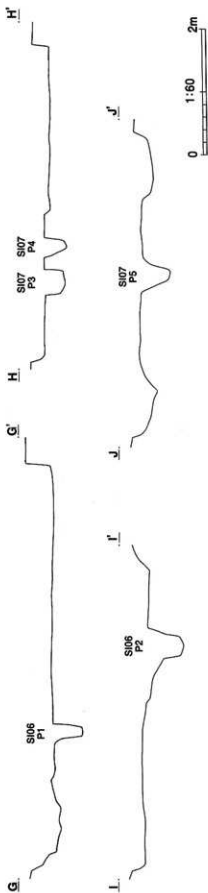
AA' ~ CC'
 1 暗褐色土 (L灰中多)
 2 灰褐色土 (L灰中多, 小L少)
 3 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L少)
 4 灰褐色土 (L灰中多)
 5 暗褐色土 (L灰中多)
 6 暗褐色土 (L灰多, 小L少)
 7 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L少)
 8 暗褐色土 (L灰中多, 小L少)
 9 灰褐色土 (L灰少, 小L少)
 10 暗褐色土 (L灰少)
 11 灰褐色土 (L灰多)
 12 にぶい黄褐色土 (L灰中多, 大L多)
 13 暗褐色土 (L灰少, 大L多)
 14 灰褐色土 (L灰多, 大L少)
 15 暗褐色土 (L灰少, 小L中多)
 16 にぶい黄褐色土 (L灰中多, 大L多)
 17 暗褐色土 (L灰中多)
 18 暗褐色土 (L灰多)
 19 暗褐色土 (L灰)
 20 暗褐色土 (L灰少, 小L少)
 21 暗褐色土 (L灰少)
 22 暗褐色土 (L灰多)
 23 暗褐色土 (L灰多, 小L多)
 24 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L少)
 25 にぶい黄褐色土 (L灰多, 大L多)
 26 暗褐色土 (L灰少, 小L少)
 27 にぶい黄褐色土 (L灰中多, 小L少)
 (AA') L=87.700m
 (BB' ~ CC') L=87.600m

DD' ~ EE'
 1 にぶい黄褐色土 (ローム主層, SY多)
 2 にぶい黄褐色土 (ローム主層, SY中多)
 3 にぶい黄褐色土 (L灰多, SY多, 粘土多)
 4 暗褐色土 (L灰中多, SY少)
 5 暗褐色土 (L灰中多, SY少)
 6 にぶい黄褐色土 (ローム主層, SY少)
 7 暗褐色土 (L灰少, SY少)
 8 にぶい黄褐色土 (L灰少, 大L多)
 9 灰褐色土 (L灰少, 大L少, 粘土多)
 L=87.600m

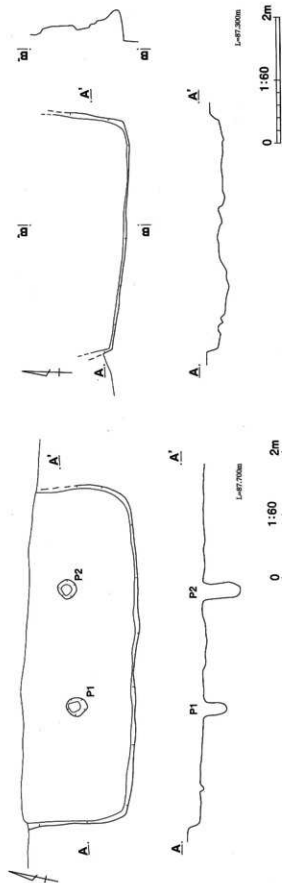
FF' ~ GG'
 1 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L少, SY少)
 2 暗褐色土 (L灰少, SY多)
 3 にぶい黄褐色土 (L灰多, SY中多)
 4 にぶい黄褐色土 (ローム主層)
 5 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L少, SY多)
 6 暗褐色土 (L灰少, SY少, 大L中多)
 7 暗褐色土 (ローム主層)
 8 暗褐色土 (L灰少, SY多)
 9 暗褐色土 (L灰少, 小L少)
 10 暗褐色土 (L灰少, 小L中多)
 11 灰褐色土 (L灰少, SY少)
 12 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L中多)
 13 暗褐色土 (L灰多, 小L少)
 14 暗褐色土 (SY中多)
 15 暗褐色土 (L灰多, SY少, SY多)
 16 暗褐色土 (L灰多, 小L少, SY中多)
 17 灰褐色土 (L灰少, 大L主層)
 18 にぶい黄褐色土 (L灰中多)

HH' ~ KK'
 L=87.600m

第15図 SI09・19 (2)

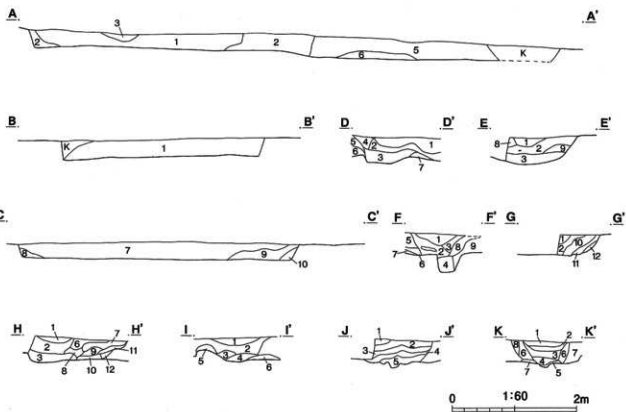
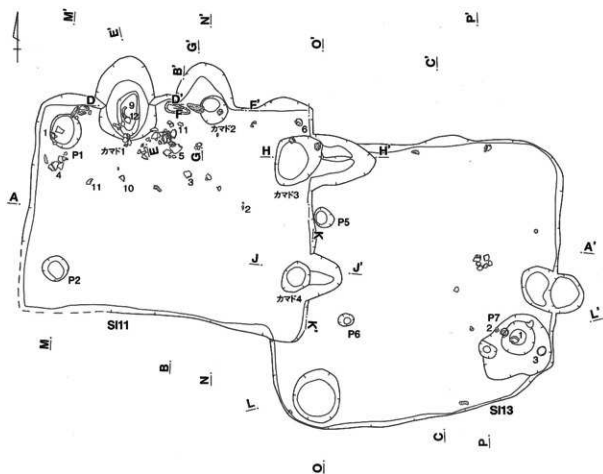


第16図 S106・07 (2)



第17図 S110

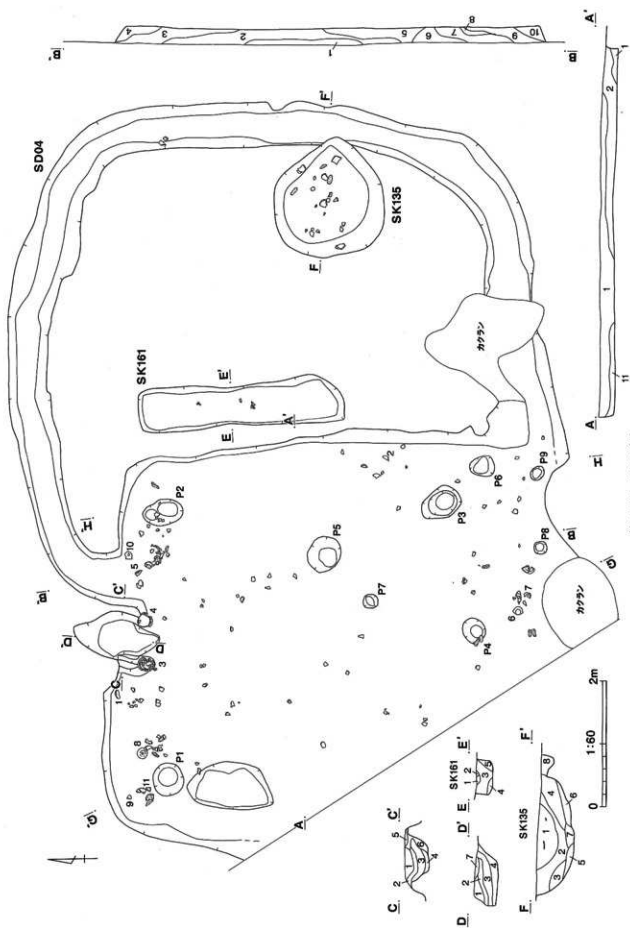
第18図 S112



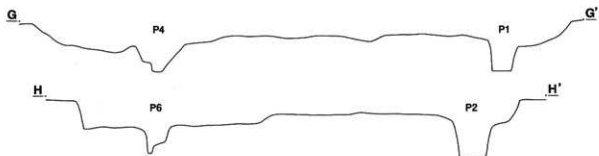
第19圖 SI11・13 (1)



第20回 SI11・13 (2)



第21図 S26 (1)



- AA'・BB'
- 1 暗褐色土 (L灰少, 小L灰少)
 - 2 暗褐色土 (L灰少, 小L灰少)
 - 3 暗褐色土 (L灰少, SY中多, 粘土粒少)
 - 4 灰褐色土 (L灰中, SY中, 粘土ブロック多)
 - 5 にぶい黄褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 6 にぶい黄褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 7 暗褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 8 暗褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 9 暗褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 10 暗褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 11 暗褐色土 (L灰中, 小L灰中)
- L=87,500m

- CC'・DD'
- 1 灰褐色土 (粘土主層)
 - 2 暗褐色土 (L灰中, 小L灰中, SY中多, 小SY中多)
 - 3 暗褐色土 (粘土主層)
 - 4 暗褐色土 (L灰中, SY中)
 - 5 暗褐色土 (L灰中)
 - 6 暗褐色土 (L灰中, SY中多, SY中中多)
 - 7 暗褐色土 (L灰中, SY中)
- L=87,500m

- EE'
- 1 暗褐色土 (L灰中中多)
 - 2 暗褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 3 にぶい黄褐色土 (L灰中, 小L灰中多)
 - 4 にぶい黄褐色土 (L灰中多)
 - 5 にぶい黄褐色土 (L灰中多, 小L灰中)
- L=87,400m

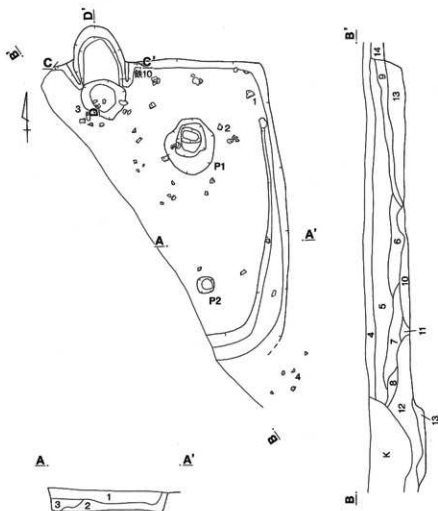
- FF'
- 1 暗褐色土 (L灰中)
 - 2 暗褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 3 にぶい黄褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 4 にぶい黄褐色土 (L灰中, 小L灰中, 大L灰中)
 - 5 黄褐色土 (L灰中多)
 - 6 にぶい黄褐色土 (L灰中)
 - 7 暗褐色土 (L灰中中多)
 - 8 にぶい黄褐色土 (L灰中, 小L灰中)
- L=87,300m

GG'・HH'

L=87,400m

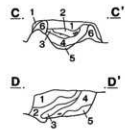
0 1:60 2m

第22図 SI26 (2)



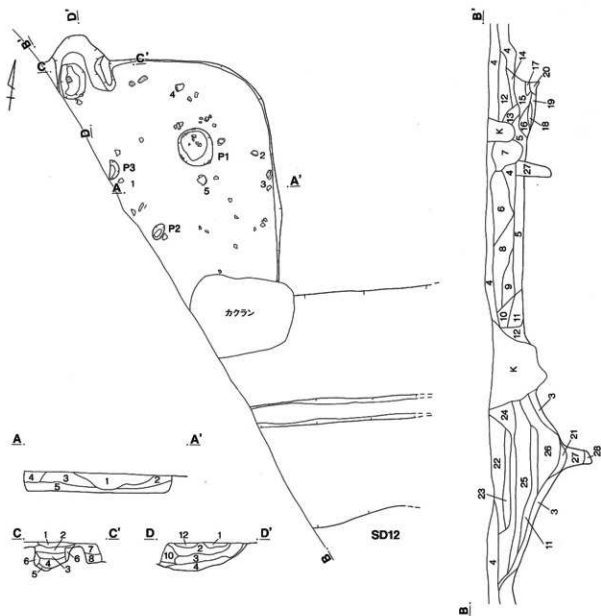
- AA'・BB'
- 1 暗褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 2 暗褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 3 にぶい黄褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 4 暗褐色土 (L灰中)
 - 5 暗褐色土 (L灰中)
 - 6 暗褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 7 暗褐色土 (L灰中中多)
 - 8 暗褐色土 (L灰中)
 - 9 にぶい黄褐色土 (L灰中, SY中中多, 小SY中多)
 - 10 にぶい黄褐色土 (L灰中, L灰中多)
 - 11 暗褐色土 (L灰中)
 - 12 にぶい黄褐色土 (L灰中, 小L灰中)
 - 13 にぶい黄褐色土 (L灰中)
 - 14 暗褐色土 (L灰中中多)
- (AA') L=87,700m
(BB') L=87,800m

- CC'・DD'
- 1 暗褐色土 (L灰中, SY中)
 - 2 にぶい黄褐色土 (L灰中, SY中)
 - 3 にぶい黄褐色土 (L灰中, SY中中多)
 - 4 暗褐色土 (L灰中, SY中)
 - 5 にぶい黄褐色土 (L灰中)
 - 6 黄褐色土 (ローマ主層)
- L=87,400m



0 1:60 2m

第23図 SI27



A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土 (L灰やや多, 小L灰少)
- 2 暗褐色土 (L灰やや多, 小L灰やや多)
- 3 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L灰少)
- 4 暗褐色土 (L灰少, 小L灰多)
- 5 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L灰多)
- 6 暗褐色土 (L灰少, 小L灰少)
- 7 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L灰多)
- 8 暗褐色土 (L灰やや多, 小L灰少)
- 9 にぶい黄褐色土 (L灰多)
- 10 暗褐色土 (L灰やや多)
- 11 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L灰やや多)
- 12 黒褐色土 (L灰多)
- 13 にぶい黄褐色土 (L灰多, L灰少)
- 14 灰黄色土 (L灰多, 粘土粒多, 小粘土ブロック多, SY少)
- 15 灰黄色土 (粘土粒多, 粘土ブロック多, SYやや多, L灰少)
- 16 灰黄色土 (粘土粒多, 粘土ブロック多, SY多, L灰少)
- 17 灰黄色土 (L灰多, 小L灰少, 粘土粒やや多)
- 18 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L灰やや多, SY多)
- 19 にぶい黄褐色土 (L灰やや多, 小L灰多, SY多)
- 20 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L灰少)
- 21 暗褐色土 (L灰多)
- 22 暗褐色土 (L灰少, IP多)
- 23 暗褐色土 (L灰多, IP多)
- 24 暗褐色土 (L灰少, IP多)
- 25 暗褐色土 (L灰やや多, IP多)
- 26 暗褐色土 (L灰少)
- 27 暗褐色土 (L灰やや多, KP多)

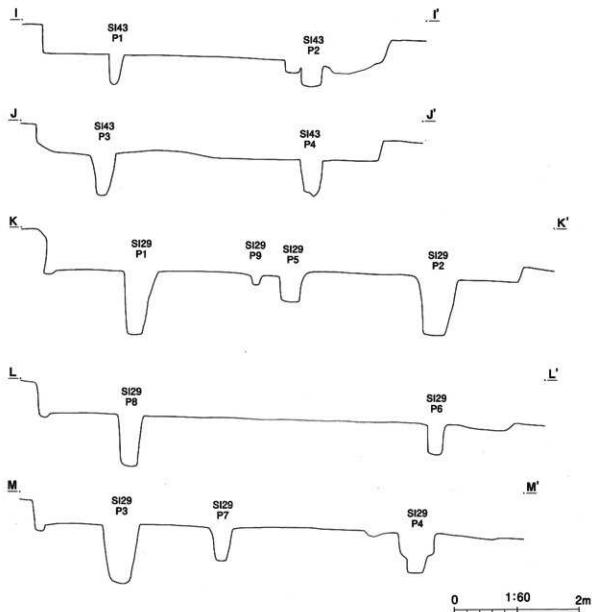
L=87.700m

C-C'・D-D'

- 1 灰黄色土 (粘土主層, SY少)
- 2 灰黄色土 (粘土主層, LR, SY少)
- 3 灰黄色土 (粘土主層, 大SYB少, SY少)
- 4 暗褐色土 (SY多)
- 5 暗褐色土 (L灰少)
- 6 赤褐色土 (粘土)
- 7 にぶい黄褐色土 (L灰多)
- 8 暗褐色土 (L灰やや多)
- 9 暗褐色土 (L灰少)
- 10 にぶい黄褐色土 (L灰多, SY少)
- 11 暗褐色土 (L灰やや多, SY少)
- 12 灰黄色土 (粘土主層)

L=87.300m

第24図 SI28



EE - FF

- 1 泥礫色土 (L少, SY多)
- 2 泥礫色土 (L少, 小L少, SY多)
- 3 泥礫色土 (L少, 小L少, SY少, SY多)
- 4 にぶい黄褐色土 (L中多, SY少)
- 5 赤褐色土 (SY中多, L少, 小L少)
- 6 にぶい黄褐色土 (L少, 小L少)
- 7 泥礫色土 (L少)
- 8 にぶい黄褐色土 (L中多)
- 9 泥礫色土 (L中多)
- 10 泥礫色土 (ローム主部, ソテ)
- 11 泥礫色土 (L中多, SY多)
- 12 にぶい黄褐色土 (L中多, SY多)
- 13 泥礫色土 (粘土多, 小粒土ブロック多, SY多)
- 14 赤褐色土 (SY多, 粘土多)
- 15 泥礫色土 (L少, SY少)
- 16 泥礫色土 (L中多, 粘土多)
- 17 泥礫色土 (L中多, 粘土多)
- 18 にぶい黄褐色土 (L中多, 小L多)
- 19 泥礫色土 (L中多)
- 20 泥礫色土 (L中多)
- 21 泥礫色土 (L中多, 粘土多)
- 22 にぶい黄褐色土 (L中多, 小L多)
- 23 泥礫色土 (SY少)
- 24 泥礫色土 (粘土多, SY少)
- 25 泥礫色土 (粘土多, SY少)

L=87.100m

GG - HH

- 1 泥礫色土 (粘土主部, SY少)
- 2 泥礫色土 (粘土主部, SY多, L中多)
- 3 赤褐色土 (SY多, CR多)
- 4 泥礫色土 (粘土主部, SY多, CR多)
- 5 赤褐色土 (SY多, 粘土少, CR多)
- 6 泥礫色土 (粘土主部, SY多, L中多)
- 7 泥礫色土 (粘土主部, SY中多, SY少, L中多)
- 8 泥礫色土 (粘土主部, SY中多, L中多)
- 9 泥礫色土 (粘土主部, SY中多)
- 10 泥礫色土 (粘土主部, SY少)
- 11 赤褐色土 (泥化主部, SY多, 粘土少)
- 12 赤褐色土 (SY多, 粘土ブロック多, C多)
- 13 にぶい黄褐色土 (L中多, SY少)
- 14 にぶい黄褐色土 (L中多, 小L多)
- 15 泥礫色土 (粘土主部, L中多)
- 16 泥礫色土 (粘土主部)
- 17 泥礫色土 (L中多, SY中多)
- 18 泥礫色土 (粘土主部)
- 19 泥礫色土 (粘土主部, SY少)
- 20 泥礫色土 (粘土主部)
- 21 泥礫色土 (SY少, L中多)
- 22 泥礫色土 (L中多)

L=86.900m

II - JJ

L=87.200m

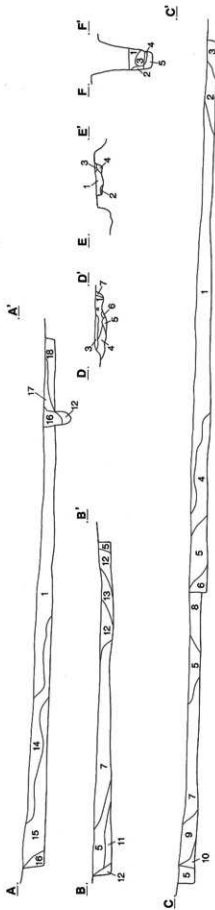
KK - MM

L=87.100m

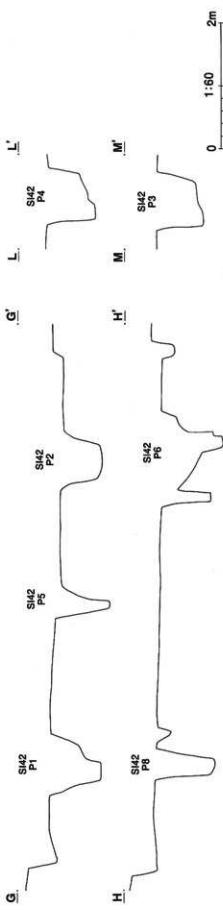
第26図 SI29・43・SD12 (2)



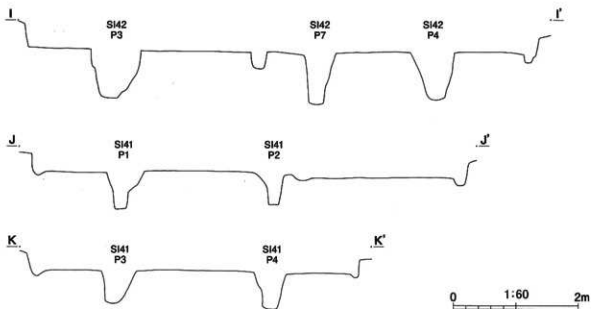
第27図 SI41・42 (1)



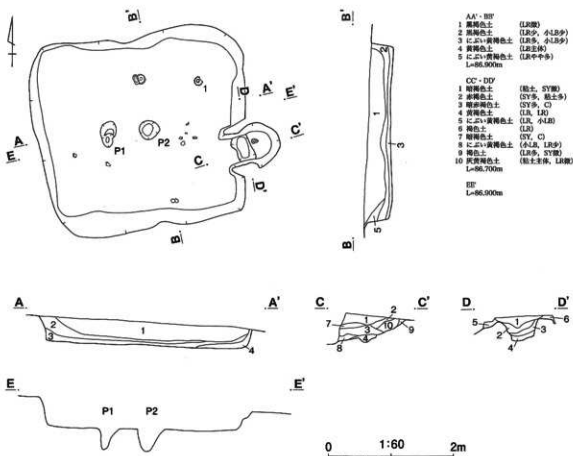
- A' ~ C'**
- 1 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 2 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 3 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 4 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 5 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 6 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 7 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 8 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 9 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 10 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
- D' ~ F'**
- 1 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 2 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 3 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 4 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 5 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 6 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 7 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 8 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 9 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 10 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
- G' ~ H'**
- 1 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 2 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 3 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 4 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 5 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 6 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 7 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 8 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 9 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)
 - 10 黒河色土 (L層多, 大L砂多, ST層)



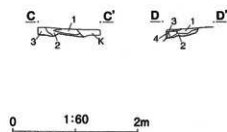
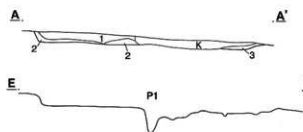
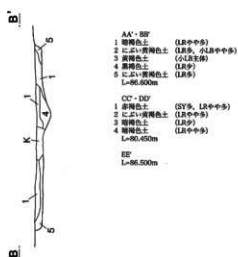
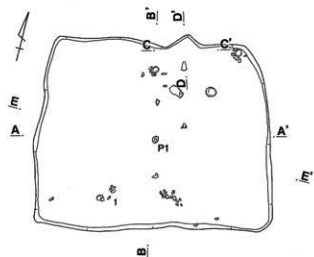
第28図 SI41・42 (2)



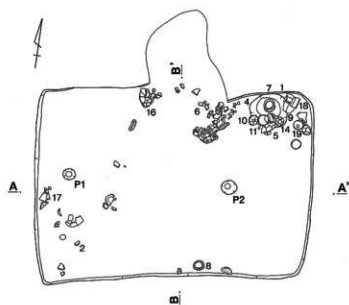
第29図 SI41・42 (3)



第30図 SI44



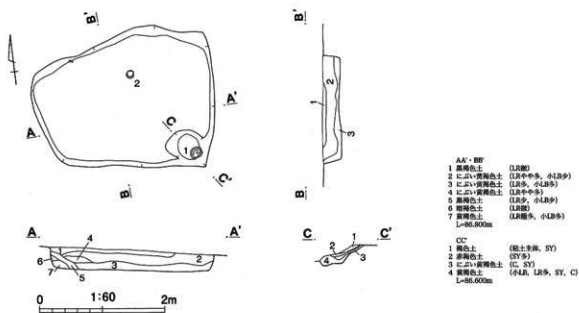
第31図 SI45



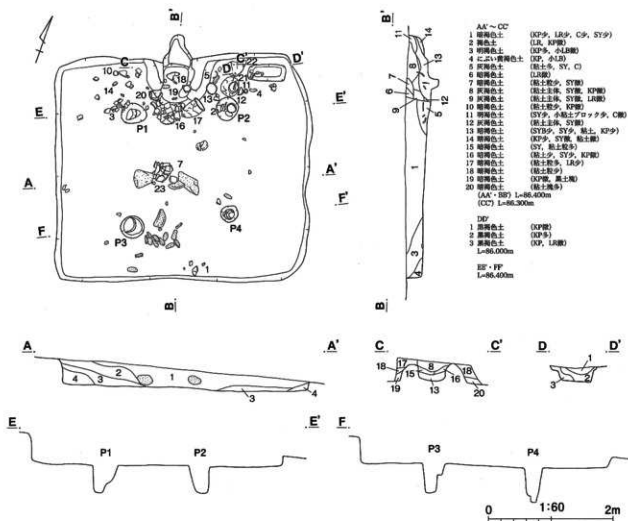
AA' - BB'
 1 上より黄褐色土 (LB多, 大LB, 小LB多)
 L=86.900m

0 1:60 2m

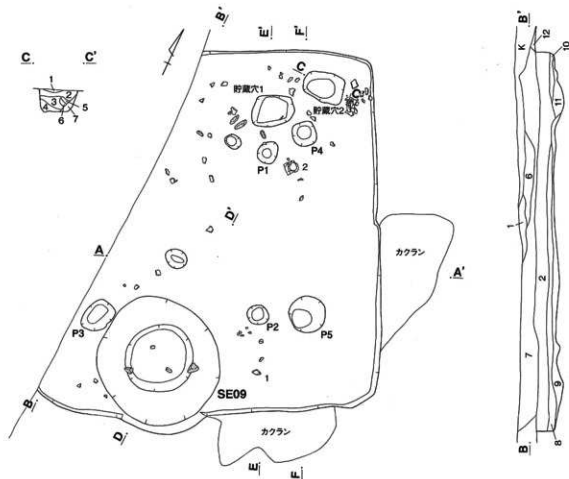
第32図 SI46



第33図 SI47

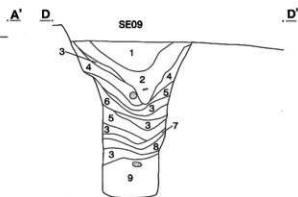


第34図 SI48



- A-A' - B-F
- 1 暗褐色土 (L少)
 - 2 暗褐色土 (L少)
 - 3 暗褐色土 (L少, L, C, 暗)
 - 4 暗褐色土 (L少)
 - 5 黄褐色土 (L多, 少し少)
 - 6 暗褐色土 (L少, 少し少)
 - 7 暗褐色土 (L中やや多)
 - 8 暗褐色土 (L多, 少し少)
 - 9 にぶい黄褐色土 (L多, 少し多, 粘り多)
 - 10 にぶい黄褐色土 (L多, SY少)
 - 11 にぶい黄褐色土 (L多, SY多)
 - 12 暗褐色土 (L暗)
- L=85.400m

- C-C'
- 1 暗褐色土 (L中やや多)
 - 2 にぶい黄褐色土 (L暗多)
 - 3 暗褐色土 (L少)
 - 4 にぶい黄褐色土 (L暗多, 少し多)
 - 5 暗褐色土 (L中やや多)
 - 6 黄褐色土 (L暗多)
 - 7 暗褐色土 (L暗多)
- L=85.600m



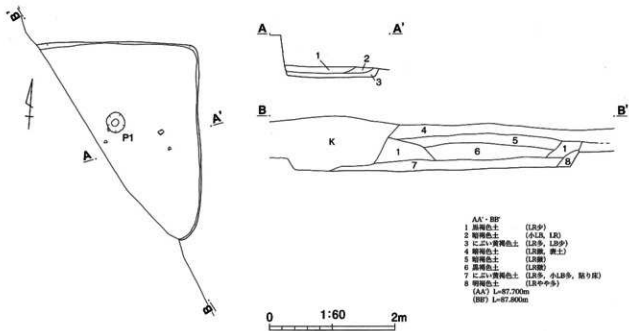
- D-D'
- 1 黄褐色土 (L少)
 - 2 暗褐色土 (L中やや多, 少し少)
 - 3 にぶい黄褐色土 (L中, 少し少)
 - 4 にぶい黄褐色土 (L暗多, 少し少)
 - 5 にぶい黄褐色土 (L暗多, 少しやや多)
 - 6 にぶい黄褐色土 (L暗多, 少し多)
 - 7 暗褐色土 (L中やや多, 少し少)
 - 8 にぶい黄褐色土 (L中多, L多)
 - 9 にぶい黄褐色土 (L暗多)
- L=86.300m

E-E' - F-F'

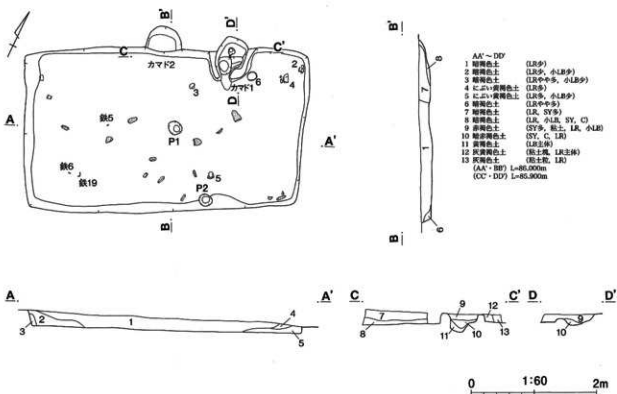
L=86.300m

0 1:60 2m

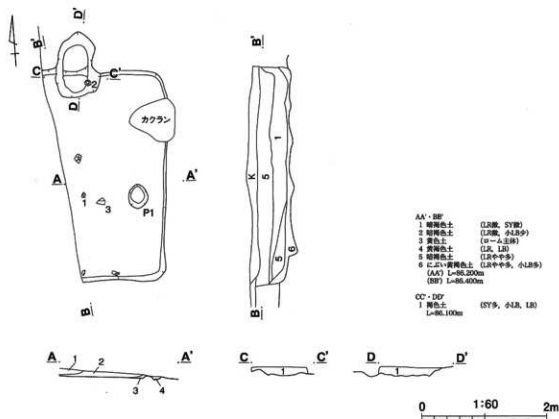
第35図 SI49・SE09



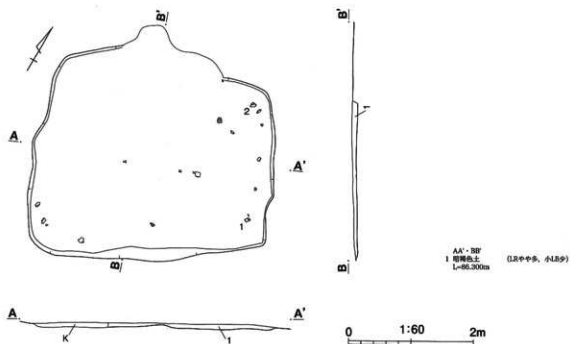
第36図 S150



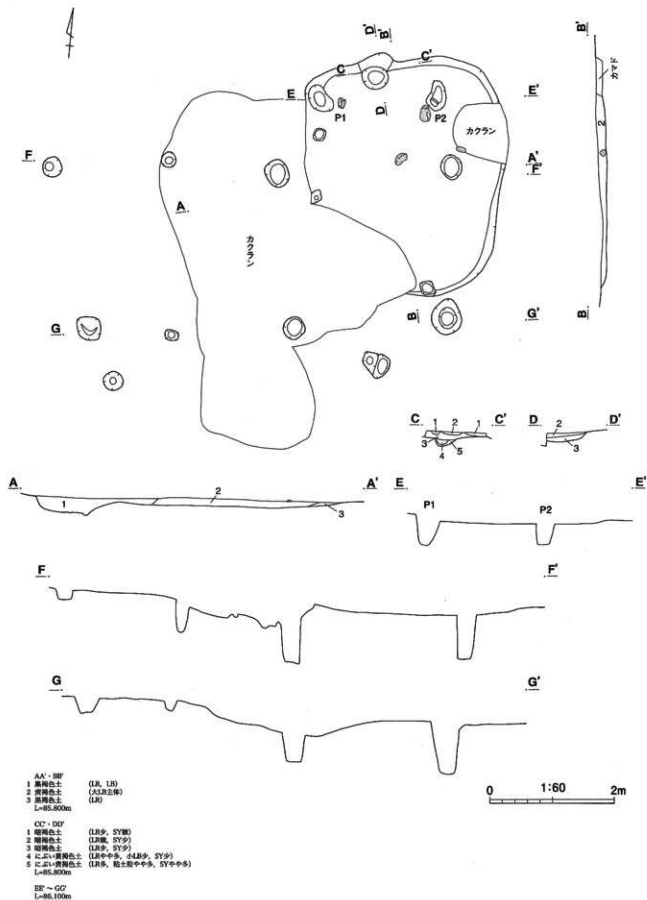
第37図 S151



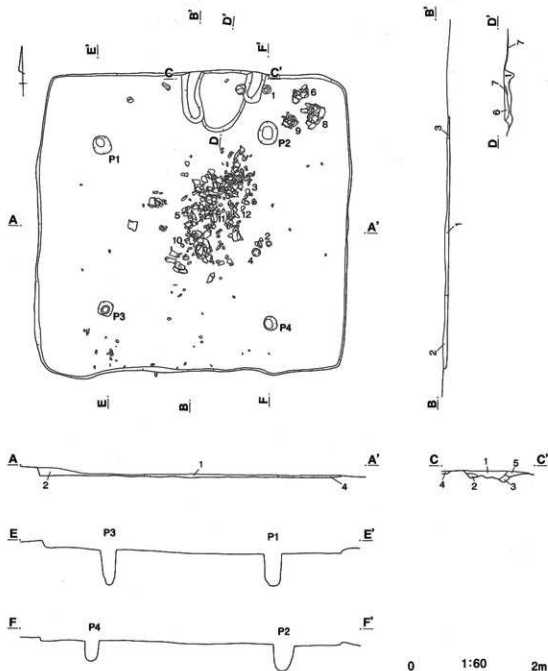
第38図 SI52



第39図 SI57



第40図 SI53



AA'・BB'

- 1 黄褐色土 (LR少)
- 2 に少し黄褐色土 (LR中, 小LR中多)
- 3 暗褐色土 (LR中多, 小LR少)
- 4 暗褐色土 (LR少, 小LR少)

L=65.200m

CC'・DD'

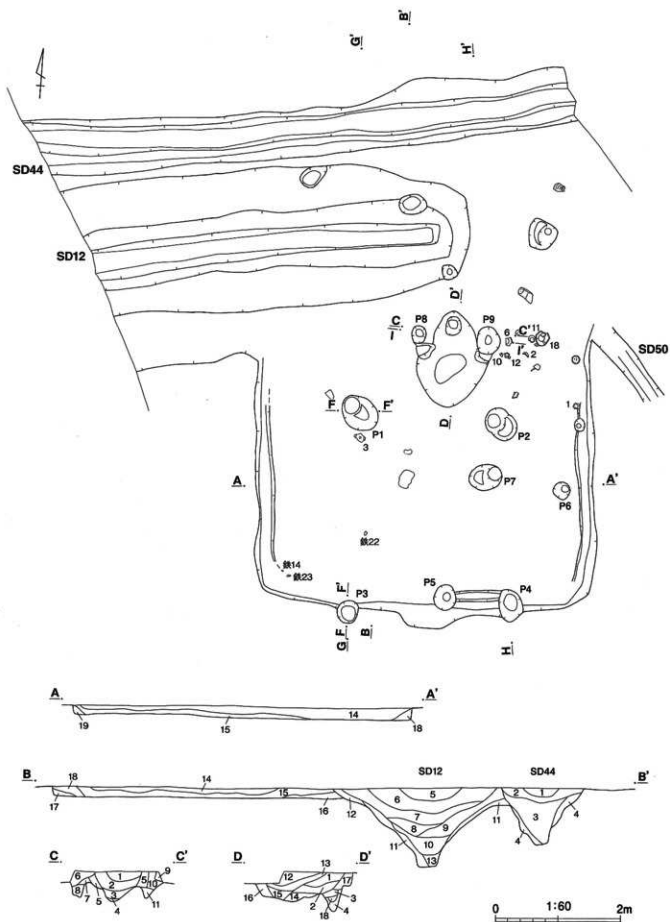
- 1 暗褐色土 (LR中多, 小LR少, SY少)
- 2 に少し黄褐色土 (LR中多, 小LR少, SY少)
- 3 に少し黄褐色土 (LR)
- 4 に少し黄褐色土 (LR中)
- 5 暗褐色土 (LR中多, SY中多)
- 6 暗褐色土 (LR少, SY中)
- 7 黄褐色土 (LR中)

L=66.100m

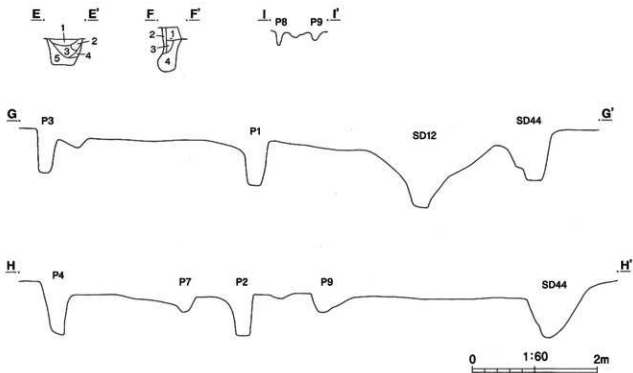
EE'・FF'

L=66.200m

第41図 SI56



第43圖 Si76·SD12·44·50 (1)



AA' - BB'

- 1 褐色土 (LIR多, 大LIR層)
- 2 褐色土 (LIR, 小LIR層)
- 3 褐色土 (LIR)
- 4 褐色土 (LIR多, 小LIR)
- 5 暗褐色土 (LIR少, SY, C層)
- 6 暗褐色土 (LIR少, 小LIR, SY, C層)
- 7 暗褐色土 (LIR, SY層)
- 8 暗褐色土 (LIR少, SY層)
- 9 暗褐色土 (LIR, SY層)
- 10 暗褐色土 (LIR少, SY層)
- 11 暗褐色土 (LIR多)
- 12 暗褐色土 (LIR層)
- 13 暗褐色土 (LIR層多)
- 14 暗褐色土 (LIR, SY少)
- 15 褐色土 (LIR多, SY)
- 16 褐色土 (LIR多, SY少)
- 17 暗褐色土 (LIR, SY層, 小LIR)
- 18 灰色黄褐色土 (LIR, 小LIR, LIR)
- 19 暗褐色土 (LIR, 小LIR)

L=87.500m

CC' - DD'

- 1 灰赤色土 (SY少, SYB少, 粘土多, C層)
- 2 灰赤色土 (SY中少, 粘土多, 大粘土ブロック層, C層)
- 3 灰赤色土 (LIR中少, LIR少, SY層, C層)
- 4 褐色土 (ローム主層)
- 5 褐色土 (LIR層, 大LIR, SY層)
- 6 暗褐色土 (LIR少, IP層, C層)
- 7 暗褐色土 (LIR層多)
- 8 灰色黄褐色土 (LIR少, 大LIR層)
- 9 灰褐色土 (粘土主層, LIR層)
- 10 暗褐色土 (LIR少)
- 11 暗褐色土 (LIR少, LIR層, SY層)
- 12 暗灰赤色土 (SY層, C層)
- 13 暗灰赤色土 (SY少, 小LIR層, C層, 粘土少)
- 14 灰赤色土 (大LIR層, SY少, C層, 粘土)
- 15 暗赤褐色土 (LIR層, 大LIR, SY少, C少)
- 16 暗褐色土 (LIR層, 大LIR少, SY少, 大SYB)
- 17 暗褐色土 (LIR多, SY少, C層, 粘土多)
- 18 暗褐色土 (LIR層多, 大LIR層, SY層, C層)

L=87.500m

EE'

- 1 暗褐色土 (LIR中少, SY層)
- 2 暗褐色土 (LIR少, SY層)
- 3 灰色黄褐色土 (LIR多, SY層)
- 4 黄色土 (ローム主層, 大LIR)
- 5 黄褐色土 (ローム主層)

L=87.500m

FF'

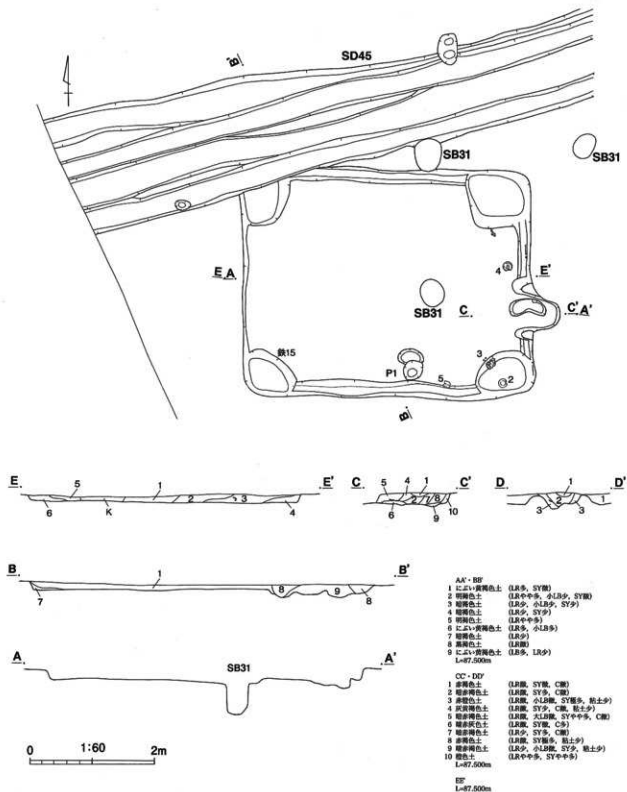
- 1 黄褐色土 (LIR少, SY層, C層)
- 2 オリーブ灰色土 (LIR中少, 小LIR少)
- 3 オリーブ褐色土 (LIR層多)
- 4 暗褐色土 (LIR少, 大LIR)

L=87.500m

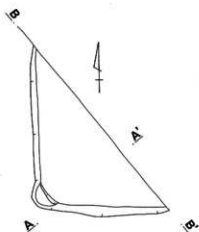
GG' ~ II'

L=87.500m

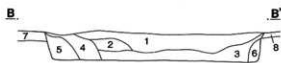
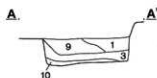
第44図 SI76・SD12・44・50 (2)



第45図 SI77・SB31・SD45

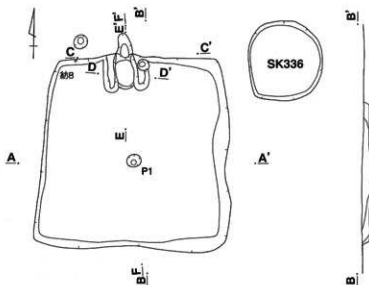


- AA'・BB'
 1 黄褐色土 (L.R.少, L.R.多)
 2 にぶい黄褐色土 (L.R.少, L.R.多)
 3 にぶい黄褐色土 (L.R.少, L.R.多)
 4 にぶい黄褐色土 (L.R.多, 小L.R.多)
 5 にぶい黄褐色土 (L.R.多, 小L.R.多, C, SY.多)
 6 にぶい黄褐色土 (L.R.多, 小L.R.多)
 7 黄褐色土 (L.R.多)
 8 黄褐色土 (L.R.多)
 9 黄褐色土 (L.R.多, 小L.R.多)
 10 黄褐色土 (L.R.多, 小L.R.多)
 L=87.500m



0 1:60 2m

第46図 SI64

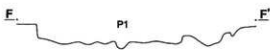


- AA'・BB'
 1 黄褐色土 (L.R.少, SY.多)
 2 黄褐色土 (L.R.多, SY.多, 小L.R.多)
 3 にぶい黄褐色土 (L.R.多)
 4 にぶい黄褐色土 (L.R.多, 小L.R.多)
 5 にぶい黄褐色土 (L.R.多, SY.多)
 6 黄褐色土 (L.R.多)
 L=87.400m

- CC'・DD'
 1 黄褐色土 (L.R.多, 大L.R.多, SY.多)
 2 黄褐色土 (L.R.多, SY.多, 粘土層)
 3 オリーブ褐色土 (L.R.多, 大L.R.多, SY.多, C.多)
 4 黄褐色土 (L.R.多, SY.多, C.多)
 L=87.400m

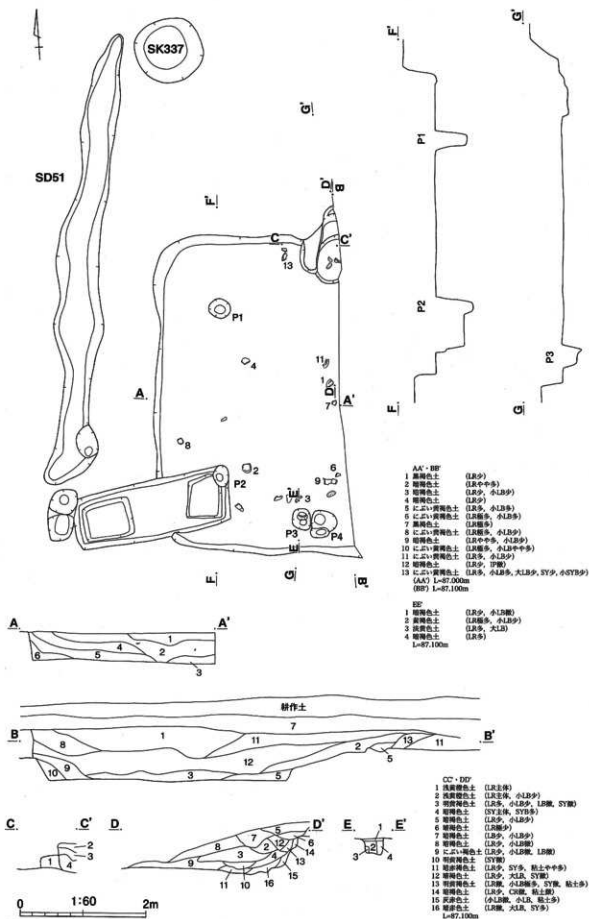
- DD'
 1 黄褐色土 (粘土層, SY.多)
 2 黄褐色土 (L.R.多, 小L.R.多, 粘土層)
 3 オリーブ褐色土 (L.R.多, 小L.R.多)
 4 黄褐色土 (SY.多, 粘土層)
 5 黄褐色土 (SY.多, 粘土層)
 L=87.400m

FF
 L=87.400m

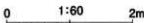
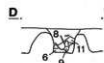
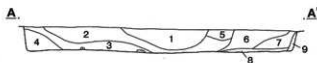
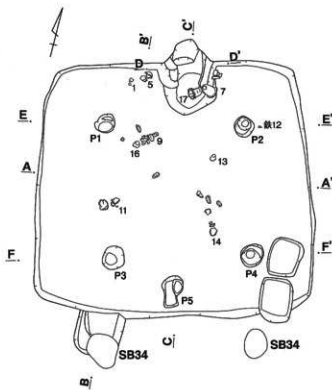


0 1:60 2m

第47図 SI78・SK336



第48図 SI79・SD51・SK337



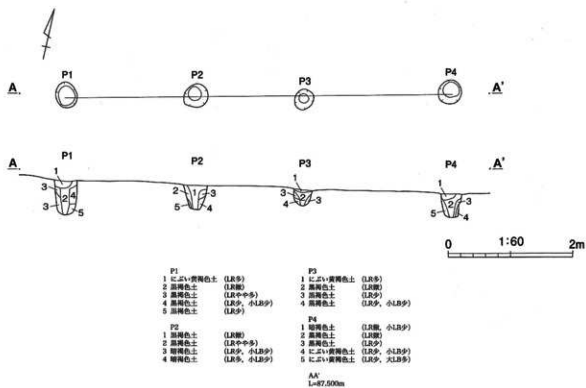
SI80 - SB34

- AA' - BB'
- 1 にぶい黄褐色土 (L層多, 小L少)
 - 2 黄褐色土 (L少, SY多)
 - 3 にぶい黄褐色土 (L多, SY多)
 - 4 にぶい黄褐色土 (L多, 小L中や多, 大L)
 - 5 黄褐色土 (L少, 粘土粒少)
 - 6 黄褐色土 (L中や中多)
 - 7 黄褐色土 (L少)
 - 8 にぶい黄褐色土 (L層多)
 - 9 にぶい黄褐色土 (L多)
 - 10 黄褐色土 (L中や中多, 小L少)
 - 11 黄褐色土 (L層多, 小L中や多)
 - 12 にぶい黄褐色土 (L層多, 小L中や多)
 - 13 にぶい黄褐色土 (L層多, 小L中や多, 大L中や多)
 - 14 黄褐色土 (L層)
 - 15 黄褐色土 (L層, 小L少)
- L=86.800m

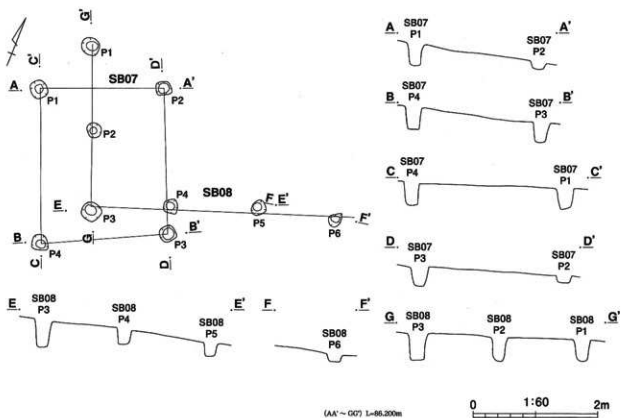
- CC' - DD'
- 1 黄褐色土 (L層多)
 - 2 黄褐色土 (L中や中多)
 - 3 黄褐色土 (L中, 小L)
 - 4 にぶい黄褐色土 (L中, 小L層)
 - 5 黄褐色土 (L中, SY少, 粘土粒少, 小L少)
 - 6 黄褐色土 (L層, 大L, SY少, SY中, 粘土中や多, 粘土ブロック)
 - 7 黄褐色土 (L層, 大L, SY中, 粘土中や多, 小L土ブロック)
 - 8 黄褐色土 (L中, SY少, 粘土多, 粘土ブロックや中多)
 - 9 黄褐色土 (L中や中多, 小L層, SY中, 粘土少, 小L土ブロック)
 - 10 にぶい黄褐色土 (L中, 小L少, SY少, 小L, 粘土中や多)
 - 11 黄褐色土 (ローム下, SY中, C層, 粘土多)
 - 12 黄褐色土 (粘土主, SY中)
 - 13 黄褐色土 (ローム下, SY中, C層, 粘土中や多)
 - 14 黄褐色土 (L中, 小L層, SY中や多, 粘土少)
 - 15 黄褐色土 (L中, 大L中や多)
- L=86.800m

- EE' - FF'
- 1 黄褐色土 (L層多, 小L中, 大L少)
 - 2 オリーブ褐色土 (L中, 小L層)
 - 3 黄褐色土 (L中や中多)
 - 4 黄褐色土 (L中, L)
 - 5 黄褐色土 (L層多, 小L層)
 - 6 黄褐色土 (L中や中, L)
 - 7 黄褐色土 (L中, 小L少)
 - 8 黄褐色土 (L中)
 - 9 黄褐色土 (L中や中, 小L層)
 - 10 黄褐色土 (L層)
- L=86.800m

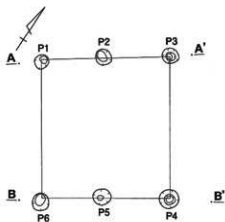
第49図 SI80・SB34



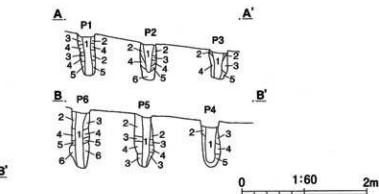
第50圖 SB04



第51圖 SB07・08



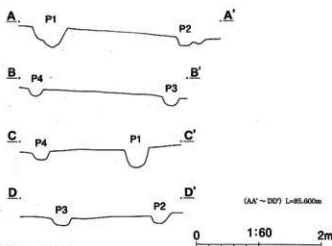
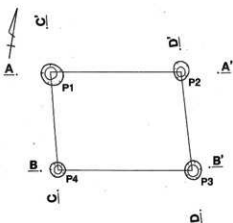
- P1
1 暗褐色土 (L灰少)
2 暗褐色土 (L灰中多)
3 にぶい黄褐色土 (L灰少)
4 にぶい黄褐色土 (L灰少, 小L少)
5 暗褐色土 (L灰少)
- P2
1 暗褐色土 (L灰中多, 小L少)
2 暗褐色土 (L灰少)
3 にぶい黄褐色土 (L灰多)
4 にぶい黄褐色土 (L灰中多, 小L多)
5 にぶい黄褐色土 (L灰多)
6 にぶい黄褐色土 (L灰中多, 小L多)



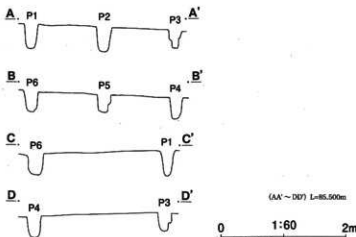
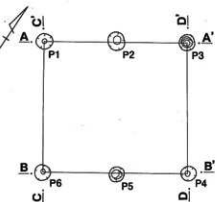
- P3
1 暗褐色土 (L灰少, 小L少)
2 暗褐色土 (L灰多)
3 にぶい黄褐色土 (L灰少, 小L少)
4 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L多)
5 暗褐色土 (L灰少)
- P4
1 暗褐色土 (L灰少)
2 暗褐色土 (L灰中多)
3 にぶい黄褐色土 (L灰多)
4 にぶい黄褐色土 (L灰少, 小L少)
5 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L多)

- P5
1 暗褐色土 (L灰中多)
2 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L多, K中多)
3 にぶい黄褐色土 (L灰多)
4 にぶい黄褐色土 (L灰多)
- P6
1 暗褐色土 (L灰中多)
2 にぶい黄褐色土 (L灰少)
3 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L少)
4 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L多)
5 暗褐色土 (L灰中多)
6 にぶい黄褐色土 (L灰多, 小L少)
(AA' - BB') L=86,600m

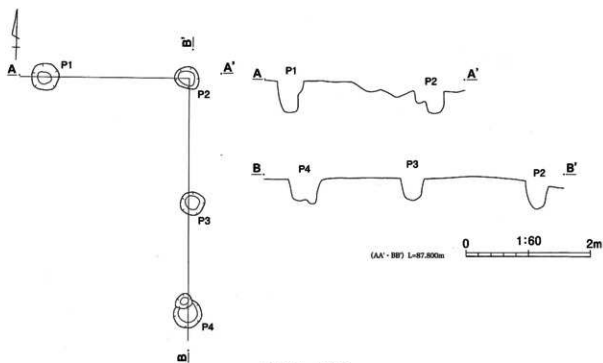
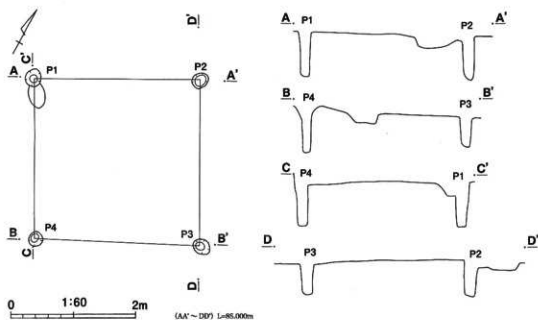
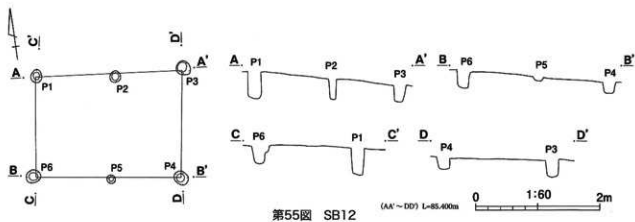
第52図 SB09

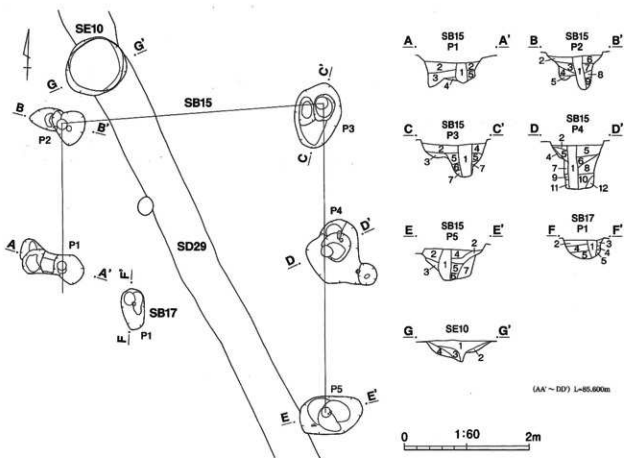


第53図 SB10



第54図 SB11





(AA' ~ DD') L=85.600m

0 1:60 2m

P1 (AA')

- 1 暗褐色土 (L多)
- 2 暗褐色土 (L多)
- 3 にじみ黄褐色土 (L多, 小L少)
- 4 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)
- 5 にじみ黄褐色土 (L多)

P2 (BB')

- 1 暗褐色土 (L多)
- 2 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 3 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多, 小L多)
- 4 にじみ黄褐色土 (L多)
- 5 にじみ黄褐色土 (L多)
- 6 にじみ黄褐色土 (L多, 小L少)
- 7 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)
- 8 暗褐色土 (L多)
- 9 暗褐色土 (L多, 小L多)

P3 (CC')

- 1 暗褐色土 (L多, 小L少)
- 2 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多, 小L多)
- 3 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多, 小L多)
- 4 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)
- 5 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 6 暗褐色土 (L多)
- 7 にじみ黄褐色土 (L多)

P4 (DD')

- 1 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 2 暗褐色土 (L多)
- 3 にじみ黄褐色土 (L多)
- 4 にじみ黄褐色土 (L多)
- 5 にじみ黄褐色土 (L多)
- 6 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)
- 7 暗褐色土 (L多)
- 8 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)
- 9 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 10 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 11 暗褐色土 (L多)
- 12 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)

P5 (EE')

- 1 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 2 暗褐色土 (L多, 小L多, 小L多)
- 3 暗褐色土 (L多)
- 4 暗褐色土 (L多)
- 5 暗褐色土 (L多)
- 6 にじみ黄褐色土 (L多)
- 7 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)

(AA' ~ EE') L=87.700m

SB15 (BB')

- 1 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 2 暗褐色土 (L多)
- 3 にじみ黄褐色土 (L多)
- 4 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 5 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)

SB17 (FF')

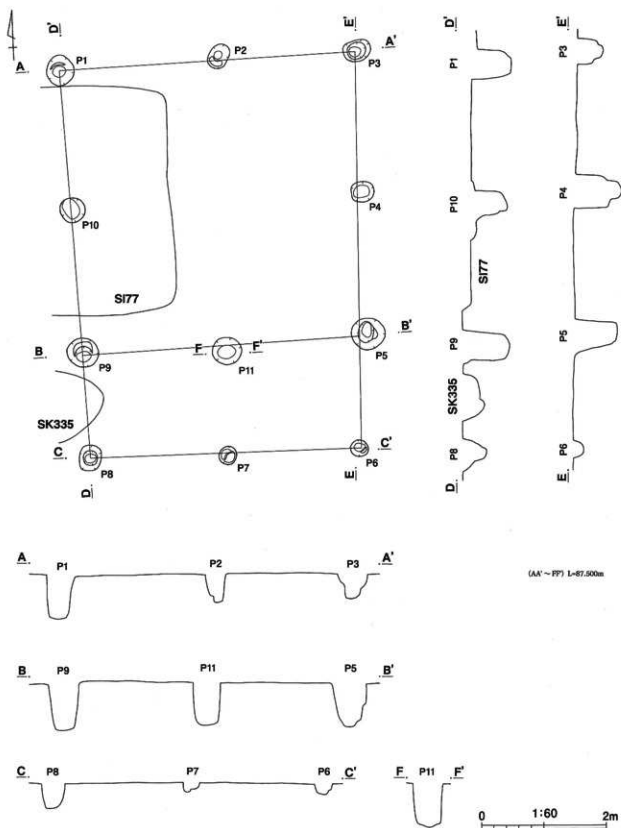
- 1 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 2 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 3 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)
- 4 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)

SE10 (GG')

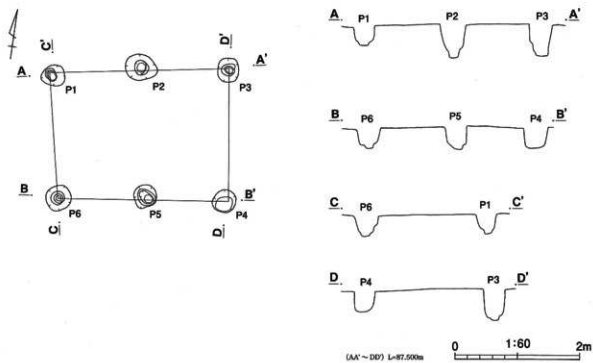
- 1 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 2 暗褐色土 (L多, 小L多)
- 3 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)
- 4 にじみ黄褐色土 (L多, 小L多)

L=86.700m

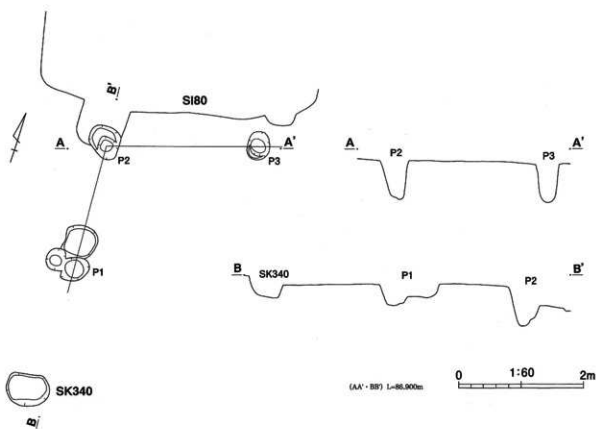
第58図 SB15・17・SE10



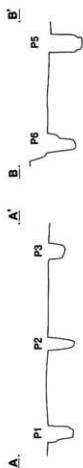
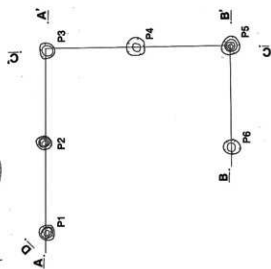
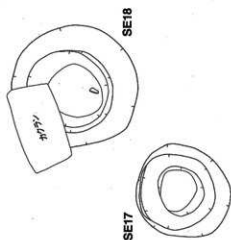
第59圖 SB31



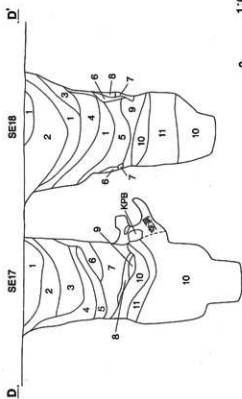
第60圖 SB32



第61圖 SB34



GA'—CC' L=48.700m

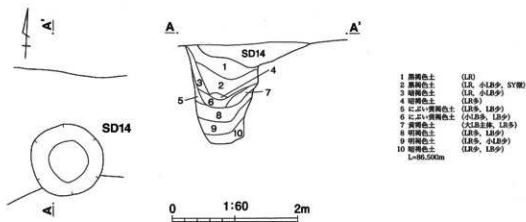


0 1:60 2m

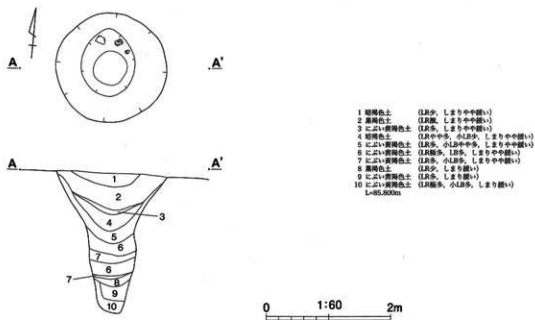
- 1 腐植土 (腐少, 大土塊)
- 2 腐植土 (腐少)
- 3 腐植土 (腐少)
- 4 腐植土 (腐少)
- 5 腐植土 (腐少)
- 6 腐植土 (腐少)
- 7 腐植土 (腐少)
- 8 腐植土 (腐少)
- 9 腐植土 (腐少)
- 10 腐植土 (腐少)
- 11 腐植土 (腐少)

- 1 腐植土 (腐少)
- 2 腐植土 (腐少)
- 3 腐植土 (腐少)
- 4 腐植土 (腐少)
- 5 腐植土 (腐少)
- 6 腐植土 (腐少)
- 7 腐植土 (腐少)
- 8 腐植土 (腐少)
- 9 腐植土 (腐少)
- 10 腐植土 (腐少)
- 11 腐植土 (腐少)

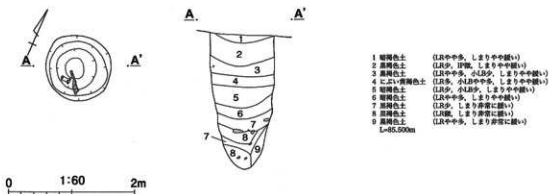
第62図 SB33・SE17・18



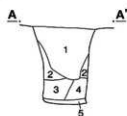
第63図 SE01



第64図 SE02



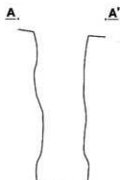
第65図 SE03



第66図 SE04

- 1 黒褐色土 (L灰層、しまり非常に強い)
 - 2 黒褐色土 (L灰少、しまり非常に強い)
 - 3 黒褐色土 (L灰やや多、しまり非常に強い)
 - 4 黒褐色土 (L灰少、しまり非常に強い)
 - 5 灰褐色土 (粘土、小石、しまり非常に強い)
- L=84.800m

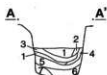
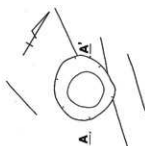
0 1:60 2m



第67図 SE05

L=85.500m

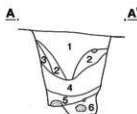
0 1:60 2m



第68図 SE06

- 1 黒褐色土 (小L灰少、L灰層)
 - 2 黒褐色土 (L灰多)
 - 3 黒褐色土 (大L灰、L灰少)
 - 4 黒褐色土 (L灰多)
 - 5 黒褐色土 (小L灰、L灰少、L灰)
 - 6 黒褐色土 (L灰、L灰層多、ローΔ主部)
 - 7 黒褐色土 (L灰層)
- L=85.500m

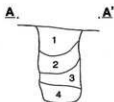
0 1:60 2m



第69図 SE07

- 1 黒褐色土 (L灰層、しまりあり)
 - 2 黒褐色土 (L灰少、しまりあり)
 - 3 黒褐色土 (L灰中や多、しまりあり)
 - 4 黒褐色土 (L灰多、しまりあり)
 - 5 黒褐色土 (L灰中や多、しまりあり)
 - 6 にくい灰褐色土 (L灰多、しまりあり)
- L=85.500m

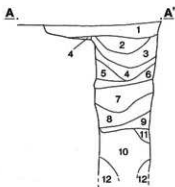
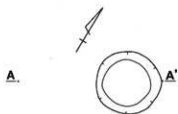
0 1:60 2m



- | | |
|-----------|----------------|
| 1 黒褐色土 | (L,R少) |
| 2 黒褐色土 | (L,R中多, 小L,B少) |
| 3 にぶい黄褐色土 | (L,R多, 小L,B中多) |
| 4 黒褐色土 | (L,R中多, 小L,B少) |
- L=65.300m

0 1:60 2m

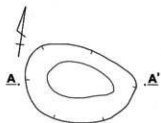
第70図 SE08



- | | |
|-----------|---------------|
| 1 暗褐色土 | (L,B) |
| 2 暗褐色土 | (L,B少, IP) |
| 3 暗褐色土 | (L,B少) |
| 4 暗褐色土 | (L,B少, 小L,B少) |
| 5 にぶい黄褐色土 | (L,B多, 小L,B多) |
| 6 暗褐色土 | (L,B) |
| 7 暗褐色土 | (L,B) |
| 8 黒褐色土 | (L,B) |
| 9 暗褐色土 | (L,B, KP少) |
| 10 暗褐色土 | (L,B, KP中多) |
| 11 暗褐色土 | (L,B中多) |
| 12 暗褐色土 | (KP多) |
- L=67.700m

0 1:60 2m

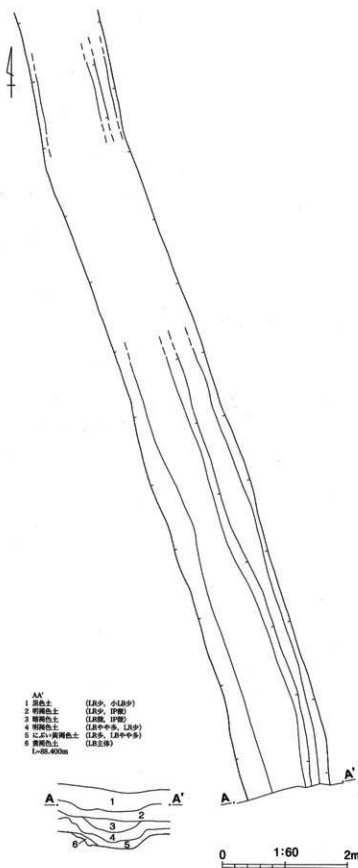
第71図 SE11



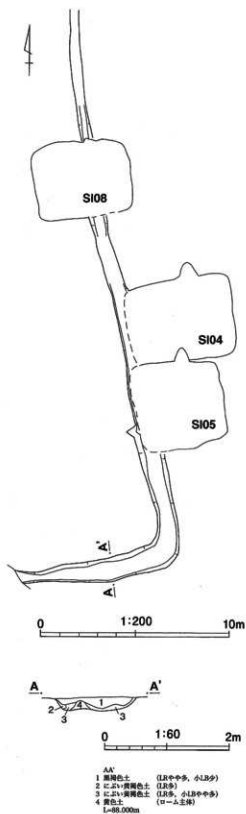
L=87.500m

0 1:60 2m

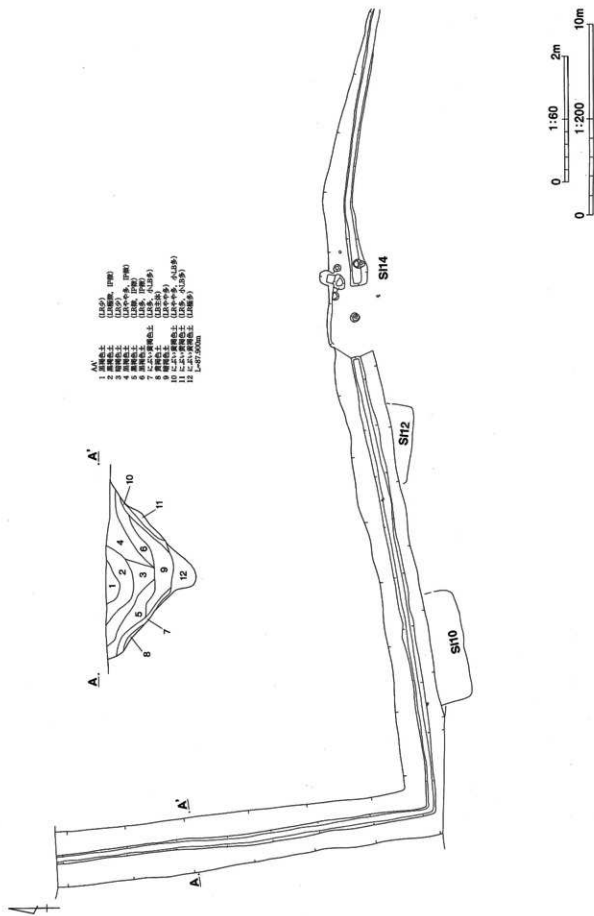
第72図 SK335



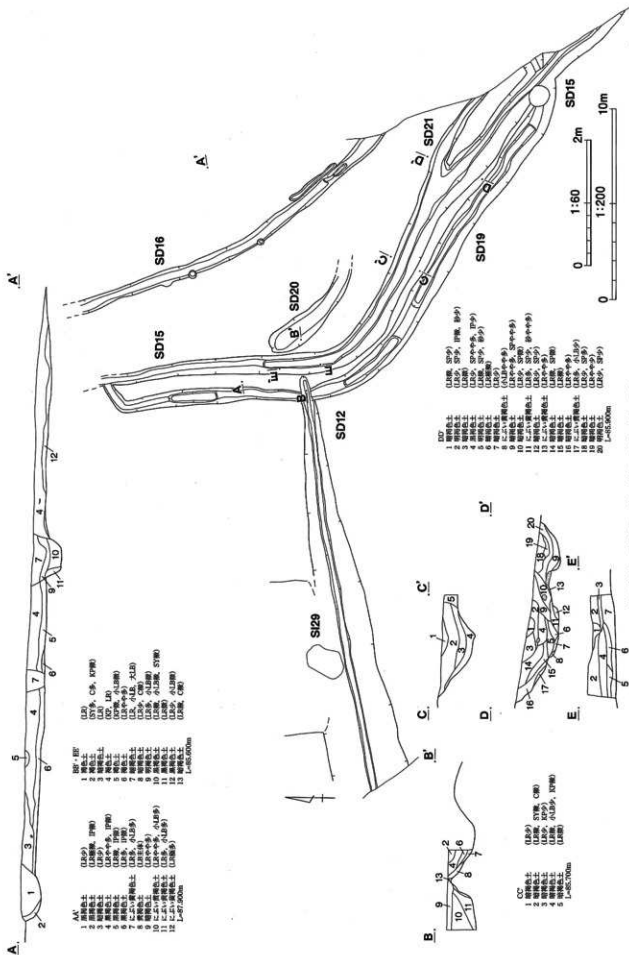
第73図 SD01

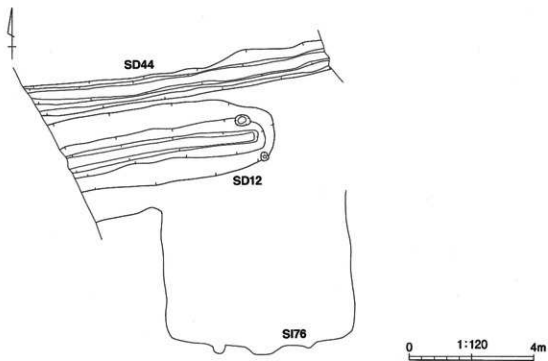


第74図 SD02

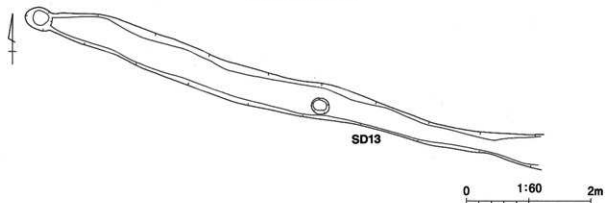


第75図 SD03

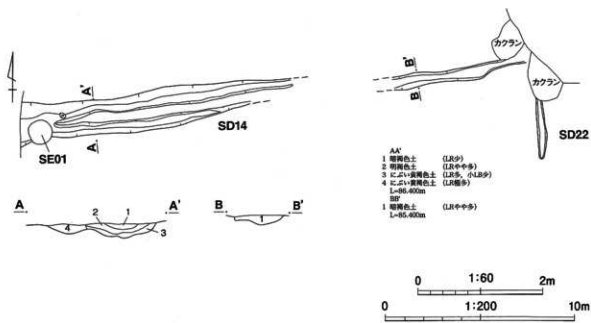




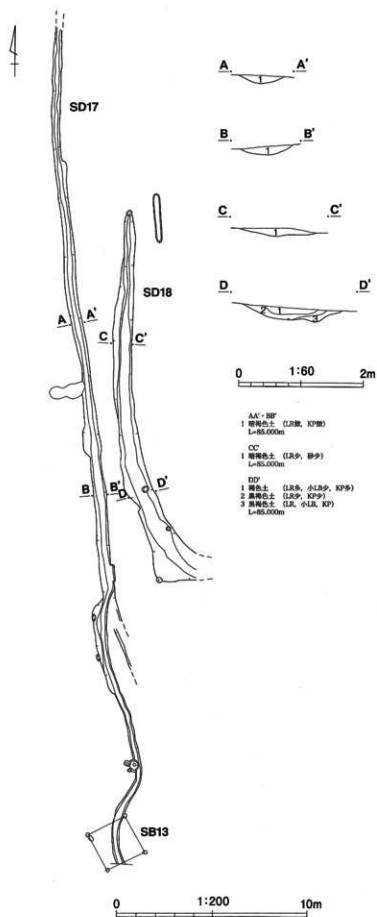
第77図 SD12・44



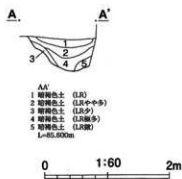
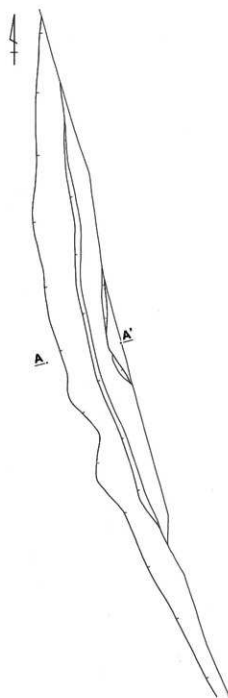
第78図 SD13



第79図 SD14・22

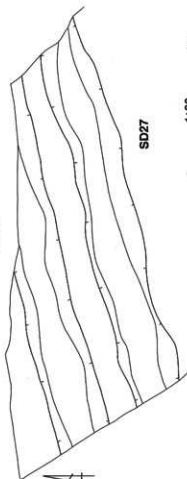


第80图 SD17·18



第81图 SD22

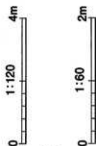
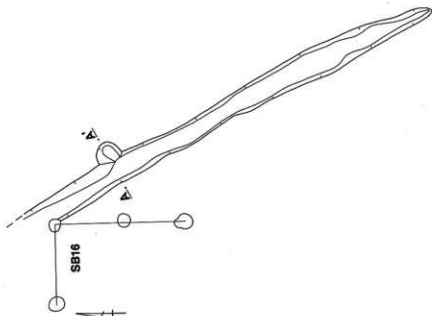
SD26



SD27



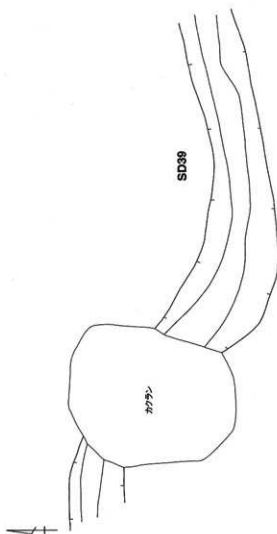
第82図 SD26・27



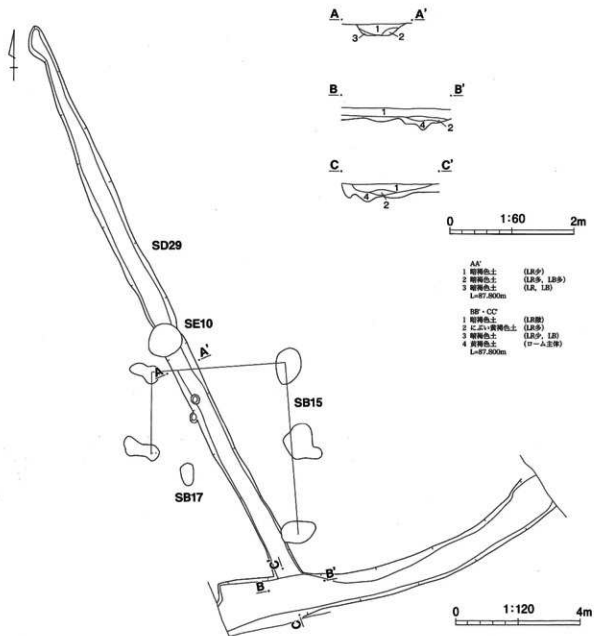
- A-A' (L3)
 1 礫層土 (L3)
 2 砂質粘土 (L3a)
 3 砂質粘土 (L3b)
 4 砂質粘土 (L3c)

L=87.800m

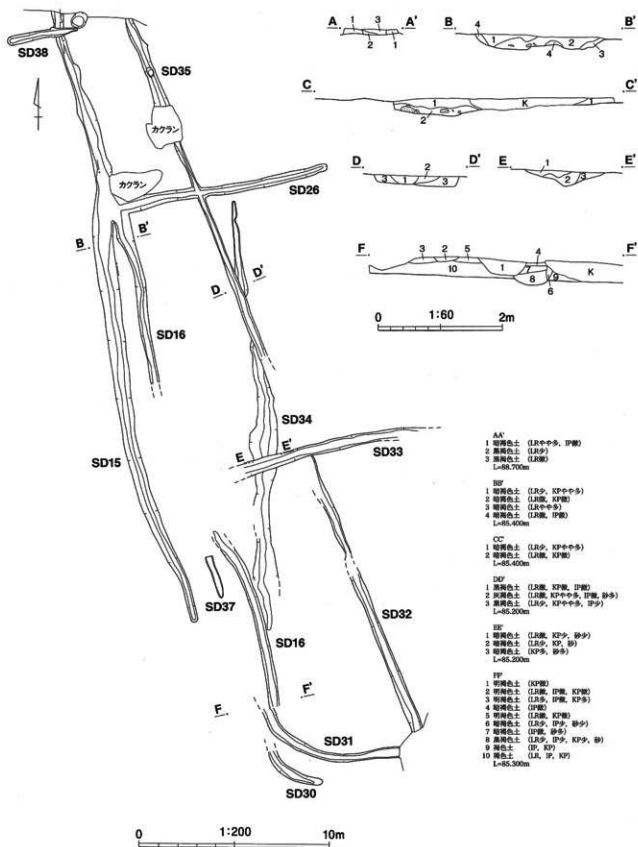
第84図 SD39



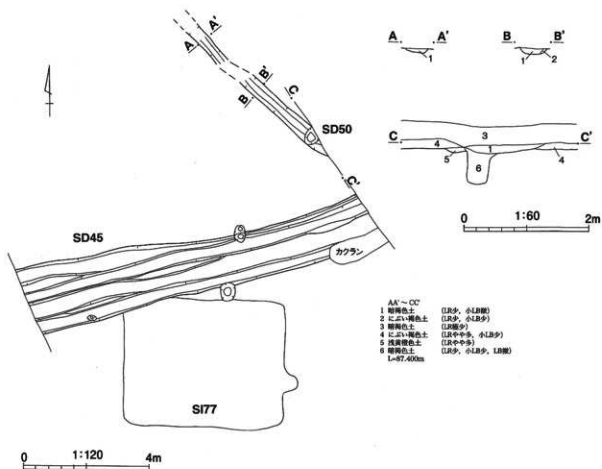
第83図 SD28



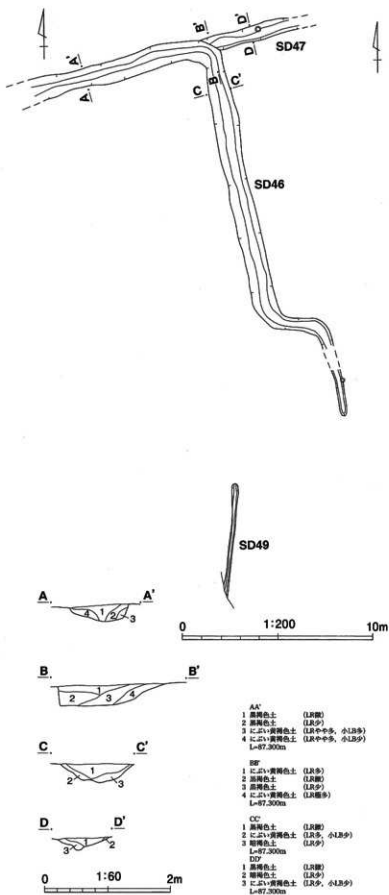
第85図 SD29



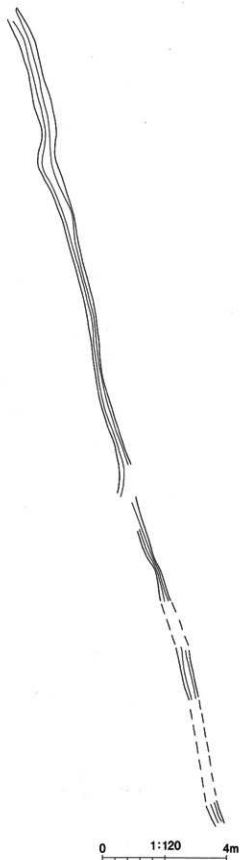
第86図 SD15・16・26・30~35・37・38



第87図 SD45・50



第88図 SD46・47・49



第89図 SD48